

上告趣意書ノ要旨ハ被告ハ被害者林虎吉ノ暴行ヲ避ケントシテ身體ヲ防衛シタル結果虎吉カ死ニ到リタル者ナレハ被告ノ所爲ハ正當防衛ニ出テタル不問罪ナリ又被告ハ不正ノ所爲ニ因リ暴行ヲ招キタルモノニアラサルニ原院カ不當ニ事實ヲ確定シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○畢竟裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス『辯護士上告趣意擴張書第一ハ本件ハ現行犯ニ非ス然ルニ豫審判事カ檢事ノ起訴ナクシテ豫審ニ取掛リタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ一件記録ヲ檢スルニ本件ハ非現行犯ニシテ現行犯ニアラサルコトハ記録上自ラ明カナリ然レトモ檢事ハ起訴ナクシテ豫審判事カ豫審ニ取掛リタルハトハ論旨ハ不立何トナレハ記録中明治二十八年二月十八日附檢事横田信謙ヨリ豫審判事宛起訴ハ書面存在スレハナリ而シテ該書面ニハ通知云々トハミアリテ一般ニ慣用スル起訴又ハ豫審請求等ハ文詞ナシト雖トモ其前文ニ被告ハ人名等ハ罪名ヲ明示シ且ツ同書面ニ司法警察官ヨリ犯罪事件實地ハ臨檢ヲ求メタル書面ヲ添ヘタルハ事跡ニ依レハ右通知云々トアルハ起訴即豫審處分ノ請求ヲ爲スハ意味タルコト自ラ明カナリトス』第二ハ縦々陳辯スル所アルモ結局假リニ本件ヲ以テ現行犯ニ係ルモノトスルモ先ツ覺知シタルモノハ檢事ナルヲ以テ檢事ノ請求ヲ待タスシテ豫審判事カ豫審ニ着手シタルハ違法ナリト云フニ在レレ○前項ノ説明ニ依テ自ラ了解スヘキヲ以テ別ニ說明セス『第三ハ第一審裁判所ハ被告カ下駄又ハ其場ニ在リシ槓材ヲ以テ頭面部等ヲ亂打シ云々ト判示シタルニ原裁判所ハ其穿チ居タル駒下駄ヲ以テ頭面部等ヲ亂打シ云々ト判定シ證據ノ中ニモ原裁判所ハ

判旨第二點

右槓材ヲ加ヘス以テ事實ノ認定ヲ變更シタルニモ拘ハラズ第一審判決ヲ取消サスシテ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ用ニ供シタル器物中ノ一小部分ニ變更アリタルモ是等ハ犯罪構成ニ必要ナキ枝葉ノ事實ニ係ルモノナレハ之ヲ以テ第一審判決ヲ取消スヘキ理由ト爲スニ足ラス故ニ原院カ第一審判決ヲ是認シタルハ相當トス『第四ハ第一審裁判所ハ「虎吉ハ何ンデモイ、カラ一所ニユケト云ヒナカラ被告ヲ促シ吉田屋野中宇之助方ニ同行セントシタルニ被告ハ憤怒ニ堪ヘカ子同所門井好助宅前ニ於テ隙ヲ窺ヒ虎吉ノ陰匿ニ摺ミ付キ云々」ト判決シタリ左レハ豫審終結決定書意見ノ如ク刑法第三百九條第三百十條ヲ適用セサルヘカラサルニ然ラザリシハ不法ナリ從テ原院カ其判決ヲ認可シタルモ違法ナリト云フニ在レトモ○右第三百九條ハ其條ニ明記スル如ク自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケルニ因リ直チニ怒ヲ發シタルモノナルヲ要ス然ルニ上告論旨ニ摘示スル事實ノ如キハ毫モ身體ニ暴行ヲ受ケタルモノニアラサルヲ以テ本論旨モ不相立』第五ハ原裁判所ニ於テ第一審裁判所カ憤怒ニ堪ヘカ子本件ノ毆打ニ及ヒタル旨ノ認定ヲ改メ憤怒ノ爲メトセスシテ單純ニ毆打ニ及ヒタル如ク認定シ以テ不利益ニ事實ノ認定ヲ變更シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○是亦犯罪構成ニ影響ナキ事柄ニ屬スレハ敢テ不利益ヲ論争スヘキモノニアラサルノミナラス右ハ全ク文詞ノ詳畧ニ止マリ其意義ヲ變更シタルモノニアラサルヲ以テ此論旨モ不相立』第六ハ豫審終結決定書ニ被告ノ所爲ハ刑法第二百九十九條第三百九條第三百十三條及第八十一條ニ該當スルモノトアレハ則チ減等シテ輕罪ニ下リタルモノナルヲ以テ本件ハ輕罪公判ニ付セラルヘキモノナ

判旨第七點

ルニ反テ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルハ不法ナリ從テ此違法ノ豫審終結決定ニ基キタル
 原判決モ違法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第六十五條乃至第六十八條ニ依リ被告
 事件ハ管轄ヲ定ムルハ全ク罪質ニ依ルモノニシテ威等ニ依リ現ニ受クヘキ刑名ニ基キ定ムヘ
 キモノニアラス故ニ此論旨モ不成立第七八原判文ニ額賀親之助十九年四月生トアリ右十九年
 四月生トハ明治十九年四月生ト云フ意義ナリ又ハ他ノ意義ナリヤ明瞭ナラサルハ不法ナリ
 ト云フニ在レトモ○右十九年四月生トアルハ四月生ノ十九歳ト云フコトニシテ決シテ意義不
 明ノ嫌アルコトナシ以上ノ如ク上告論旨ハ總テ不成立因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ
 判決スルコト左ノ如シ
 本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年二月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○持兇器竊盜ノ件

明治二十八年第一四七三號
 明治二十九年二月二十日宣告

○判決要旨

裁判上重罪輕罪ヲ區別スルハ罪質ニ依ル

自首減輕ニ依リ輕罪ノ刑ニ處セラル、モ罪質重罪ナル上ハ重罪事件ノ手續ヲ
 履踐シテ審判スヘキモノトス

(參照) 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被
 告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ若シ辯護人ヲ選任セサルハ裁
 判長ノ職權ヲ以テ其裁判所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ撰任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異
 議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得書記ハ本條ノ訊
 問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ(刑事訴訟法第
 二百三十七條)

第一審 山形地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 菊地來爾

右來爾カ持兇器竊盜被告事件ニ付明治二十八年十二月十二日函館控訴院ニ於テ大審院ノ移送
 ニ係ル山形地方裁判所ノ判決ニ對シ被告ヨリ爲シタル再審ノ訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ被告
 來爾ヲ重禁錮四年ニ處シ監視一年六月ニ付ス云々ト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上
 告ヲ爲シ原控訴院檢事長山本昌行ハ答辯書ヲ差出タリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式
 チ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨抑モ本件ハ持兇器竊盜事件ニシテ重罪ノ性質ヲ含有スル犯罪ナリ然ルニ被告カ重
 禁錮四年監視一年六月ニ處セラレ輕罪トナリタルハ自首減輕ニ依ルモノナリ故ニ裁判長ハ受
 命判事ヲシテ本件取調ヲ爲サシメ且辯護士撰定等ノ手續ヲ爲シ被告ノ利益ト爲サル可カラ

罪質ノ區別○重罪手續ノ履踐

サルニ原院ハ本件ヲ單純ノ輕罪事件ノ如ク誤認シ公判前ニ受命判事ヲシテ本件ノ下調ヲモナ
 サシメス且辯護士ヲモ選定セス直ニ之カ公判ヲ爲シ被告ノ辯論ヲ保護スルコトナクシテ判決
 シタルハ法律ニ違背セルモノナリト云フニアリ○因テ訴訟記録ヲ查スルニ本件被告事件ハ持
 兇器竊盜ニシテ重罪ハ公判ニ付セラレタルモノナレハ第一審廷ニ於テハ重罪ハ手續ヲ履踐シ
 テ公判ヲ開キ自首輕減ニ依リ輕罪タル重禁錮ハ刑ニ處セラレタルモノナルコトハ明カナリ抑
 モ裁判上重罪輕罪ヲ區別スルハ罪質ニ依ルヘキモノナレハ本件ノ如キハ自首輕減ニ依リ輕罪
 ハ刑ニ處セラレタルモノナレハ其罪質ハ重罪ナルニ付キ原院ニ於テハ重罪ハ取扱ヲ爲スヘキ
 管ナルニ之ヲ輕罪ハ控訴ト同視シ刑事訴訟法第二百三十七條ハ手續ヲ履踐セシテ直ニ審理
 判決シタルハ要スルニ上告論旨ハ如ク違法ハ判決タルヲ免レサルモノトス
 以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本件ヲ東京控
 訴院ニ移ス

明治二十九年二月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十九年第五四號
 明治二十九年二月二十日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 人ナシテ資産アル者ノ如ク信用セシムルハ欺罔ノ所爲ナリトス
 (判旨第二點) 公判手續ノ瑕瑾ヲ以テ公廷ノ陳述ヲ不法トスルヲ得ス
 (判旨第三點) 差配人ハ雇人ニアラス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 三好義直 辯護人 磯部四郎

私訴上告人 野崎ソノ

私訴被上告人 赤松則良

明治二十八年十二月二十三日東京控訴院ニ於テ右三好義直カ詐欺取財被告事件ニ付東京地方
 裁判所ノ判決ニ對スル被告入ノ控訴及ヒ同控訴院檢事ノ附帶控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消
 ス被告義直ヲ重禁錮二年六月罰金二十五圓監視一年ニ處スト言渡シ右附帶私訴ニ付被告入及
 ヒ私訴被告入野崎ソノノ控訴ヲ審判シ控訴人共ノ控訴ハ之ヲ棄却ス裁判費用ハ控訴人共ノ負
 擔トスト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告入義直及ヒ私訴被告入野崎ソノヨリ上告ヲ爲
 シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告義直辯護士磯部四郎ノ辯論民事原
 告人訴訟代理人太田資時ノ答辯及ヒ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

欺罔ノ所爲○公廷ノ陳述○差配人

欺罔ノ所爲○公廷ノ陳述○差配人

被告義直上告ノ要旨原院ハ被告ニ詐欺取財ノ所爲アリトシテ有罪ノ裁判ヲ下サレタルモ判決事實ノ摘示ヲ閱スルニ素ヨリ代金支拂ノ意思ナキヲ以テ言ヲ左右ニ託シ終ニ則其所有ノ該地所ヲ騙取シタリトアルニ止マル此記載ハ詐欺取財ノ事實ヲ明示シタルモノト云フヘカラス原判文冒頭ニ被告カ無資力ノ身分ナルコトヲ示シ其末尾ニ前述ノ如キ記載アルモ金錢ハ信用ニ依リ之ヲ融通スルコトヲ得ルモノナレハ失敗無資ノ者ト雖モ財產ノ讓渡ニ關係スルヲ得サル理ナキヲ以テ被告ニ詐欺取財ノ事實アリトセハ民事原告人カ欺罔又ハ脅喝ヲ受ケタル事實ヲ有セサルヘカラス然ルニ原判決ニハ此等ノ事實ノ記載ナク殊ニ被告カ多分ノ資産アル者ノ如ク裝ヒタルハ萩原八郎兵衛等ニ對シ爲シタルモノナレハ被害者タル赤松則其ニ對シ欺罔シタル事實理由ノ具備セルモノナク加之詐欺取財ノ行爲ハ欺罔ニ出タルヲ脅喝ニ出タルヲ明瞭ナラス要スルニ理由不備ノ裁判ナリ又前陳ノ如ク公訴判決ニ違法ノ點アル上ハ從テ私訴判決モ不法タルヲ免カレサルヲ以テ共ニ破毀セラレシコトヲ請フト云フニ在ルモ○原判文ニ依レハ被告ハ素ヨリ無資力ノ身分ナルニ赤松則其カ其所有地所ヲ賣却セントスル旨ヲ萩原八郎兵衛ヨリ聞知シ名ヲ賣買ニ藉リ之ヲ騙取セント企圖シ同人及中村良俊ニ對シ多分ノ資産アル者ハ如ク裝ヒ之ヲ信セシメ右地所買入方ヲ申談カル後云々トアリテ被告カ地所賣買周旋人タル中村良俊等ニ對シ資産アル者ハ如ク裝ヒ之ヲ信セシメタルハ即チ被害者ヲ欺罔シタル所爲ニシテ原判文ヲ通讀スレハ其欺罔騙取ノ事實明瞭ナレハ理由不備ハ點ナシ既ニ公訴判決違法ノ點ナキ上ハ私訴判決モ亦相當ニシテ破毀ノ理由ナキモノトス

判旨第一點

辯護士カ上告趣意擴張書ノ要旨第一本件證憑中ニ被告人ノ陳述トアルニ依レハ被告カ第一審延ノ陳述モ此中ニ包含セリト云ハサル可カラス然ルニ第一審公判始末書ヲ閱スルニ斷罪ノ具タル登記簿謄本第四百五百六十九號公正證書正本ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ求メタル事蹟ナク又之ヲ省畧スルノ告知ナキヲ以テ違法ナルニ第一審ニ於テハ其不法アル公判延ノ被告ノ供述ヲ採用シアルニモ拘ハラズ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シ剩サヘ其違法ナル公廷ノ陳述ヲ斷罪ノ具ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○第一審公判始末書ヲ查閱スルニ「問此證憑物件ニ付辯解スルコトナキヤ(ミ)一ヨリミ」七ニ至ル證憑物件ヲ示ス(答)別ニ申立ルコトアリマセントトノ問答ヲ記載シアリ而シテ之ヲ押取目錄ニ徵スルニミ」三號ハ登記簿謄本ニシテミ」六號ハ四千五百六十九號公正證書正本ナレハ是等ノ證憑ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシメタル事蹟ハ始末書ニ明記スル所ナリ且假令公判始末書ニ記載セシ手續上ニ瑕璣アリトスルモ之ヲ以テ其公廷ハ陳述ヲモ違法ナリト爲スコトヲ得サルモノトス第二原判決ハ前田圭璋ノ原公廷ノ證言ヲ證憑トセラレタルモ第一審公判始末書ニ徵スルニ前田圭璋ハ民事原告人赤松則其ノ差配人ナリ差配人ハ家屋ノ貸貸其他ニ關シ一切ノ事ヲ處理スル者ニシテ即チ雇人ニ外ナラサルヲ以テ證人ト爲スコトヲ得サルモノナルニ其供述ヲ證言トシテ採用シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○差配人ナル者ハ所有主ノ囑託ニ因リ家屋ノ貸貸取立等ノ事ヲ爲スニ止マリ之ヲ以テ雇人ナリト云フコトヲ得ス故ニ前田圭璋ヲ證人ト爲シタルハ違法ニ非サルナリ

判旨第二點

判旨第三點

欺罔ノ所爲○公廷ノ陳述○差配人

的物ニ付所有權ヲ有シタルモノナレハ之ト合意ヲ爲シテ得タル抵當登記ヲ取消スヘキモノニ非ス然ルニ原院ハ三好義直ニ於テ所有權ヲ有セスト判定シ控訴ヲ棄却セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリト云フニ在ルモ〇三好義直カ抵當ト爲シタル地所ハ公訴判決ノ如ク詐欺ノ所爲ヲ以テ騙取シタルモノナレハ義直ニ於テ其所有權ヲ有セサルヲ論テ俟タス故ニ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴私訴ニ對スル上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告ノ費用ハ上告人ノ負擔タルヘシ

明治二十九年二月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

〇官印偽造及恐喝取財ノ件

明治二十八年第一四六一號
明治二十九年二月二十四日宣告

〇判決要旨

(判旨第一點) 官ノ記號印章タル形體ヲ存スル以上ハ寸法字體ノ真正ヲ摸擬セサルモ其犯罪ヲ成立ス

(判旨第六點) 官ノ記號印章偽造罪ハ單ニ偽造ノ所爲ノミニ依リ其罪ヲ成立ス

故ニ其偽造ノ目的及使用方法ノ如何ハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響アルコトナシ

(參照) 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第九十九條一項)

(判旨第六點) 偽造ニ係ル官ノ記號印章ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フニ法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ犯罪ニ因テ得タル物件(刑法第四十三條)

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 福本賢次郎
 雄波民二

右官印偽造恐喝取財被告事件ニ付明治二十八年十一月二十七日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告賢次郎民二ヲ各輕懲役七年ニ處ス押収ニ係ル偽造ノ官印二箇ハ沒收シ云々ト言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

賢次郎上告趣意第一點及民二カ上告趣意第二點ハ本件二願ノ即ハ恐喝取財ノ手段トシテ影刻シタルモノニシテ該印ノ効力ニ依リ懸種ノ眞否ヲ證明スルカ如キ社會ノ信用ヲ害スヘキモ

官ノ記號印章偽造罪ノ成立〇禁制品

判旨第一點

ノニ非ス殊ニ其検査ノ證トアル印ハ之ヲ真正ノ印ニ比スレハ縦長ク横短ク且字體ニ於テモ異ナル所アリ又其受付印ハ二十六年ノ印ニシテ二十七年度ニ於テハ使用ス可ラサルモノナルヲ以テ一ハ何人モ其偽印タルコトヲ發見スルヲ得ヘク一ハ無効ノ木片ニ過キス然ルニ原院カ此事實ヲ以テ官印偽造罪ト論定シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ原判文ニ依レハ右二箇ノ印中一ハ製絲用蠶種検査之證茨城縣製絲用蠶種検査所トアリ一ハ茨城縣明治二十六年月日本第號トアル印ニシテ刑法第九十六條ニ所謂產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章タルコト明ナリ而シテ官ノ記號印章タル形體ヲ存スル以上ハ寸法及字體ハ如キ假令真正ハモハニ異ナルモハアルモ又ハ其真正ハモハハ偽造ハ當時既ニ使用セサルモノトナリタルモ之ヲ偽造シタルモノハ在テハ固ヨリ偽造罪タルヲ免ハス殊ニ該罪ハ單ニ偽造シタルノミニ依リテ成立スヘキモノナレハ其偽造ハ目的及ヒ使用方法ハ如何ハ犯罪構成上何等ハ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス故ニ上告論旨ハ如キ偽造ハ目的カ恐喝取財ニ在リシ等ハ理由ヲ以テ既ニ成立シタル偽造罪ヲ免ハルヲ得サルモノトス賢次郎上告趣意第二點ハ告訴人長谷川午次郎ハ本件ニ關シ惡意アリタルモノナリ然ルニ原院ハ落合善七郎カ豫審廷ニ於ケル供述ヲ採テ午次郎ニ惡意ナシト判定シタルハ不當ナリ何トナレハ善七郎ハ偽造罪ノ成立シタルヲ恐レ居リ且自ラ本件ノ共謀者ト看做サレシコトヲ恐レ不實ノ陳述ヲ爲シタルモノニシテ午次郎ニ惡意アリタルコトハ明瞭ナル證據アルヲ以テナリト云フニ在リ○然レトモ午次郎ニ惡意アリタルト否トハ全ク事實上ノ問題ニ關シ而シテ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ上告裁判所ニ向テ之カ當否

ヲ論争スルヲ得サルモノトス「民二上告趣意第一點ハ第一審ニ於テハ不實ノ陳述ヲ爲シタルモ第二審ニ於テハ深ク真正ノ事實ヲ申立タリ然ルニ原院カ之ヲ認メサルハ不服ナリト云フニ在ルモ○是亦原院ノ認定ヲ非難スルニ外ナラザレハ上告理由トナラス「民二上告趣意辯明書第一第二及ヒ第六賢次郎上告趣意辯明書第一ハ前掲第一ノ上告論旨ヲ敷衍スルニ過キサルヲ以テ重テ説明ヲ與フルノ要ナシ「賢次郎上告趣意辯明書第三乃至第五ハ長谷川午次郎ニ惡意アリタルトノ事ヲ反覆辯論スルニ過キサルモ是亦前ニ説明セシ所ノ如シ同第二ハ賢次郎カ民二ニ印ヲ彫刻セシムルニ當リ真正ノ印ト同様ニテハ却テ目的ヲ達シ難キニ付文字ヲ變ヘテ彫刻スヘキ旨ヲ教唆セリ則チ文字ヲ變ヘルニ於テハ偽造罪ノ成立スヘキモノニ非ス然ルニ民二ハ如何ナル目的ナルヤ同一ノ文字ヲ彫刻スルニ至リタルモノニシテ全ク教唆以外ノ事ヲ爲シタル次第ナルヲ以テ賢次郎ニ於テハ民二ト同一ノ刑ヲ受クヘキ筈ニ非スト云フニ在リ○然レトモ民二カ教唆以外ノ事ヲ行ヒタルトノ點ハ原院ノ認メサル所ナルヲ以テ則チ二人ニ對シ同一ノ刑ヲ言渡シタルハトテ不法ト云フヲ得ス「民二上告趣意辯明書第三第四ハ官印ヲ偽造シタル所爲ハ別個ノ犯罪ナルニ於テハ刑事訴訟法第六十二條第一號ニ依リ檢事ヨリ豫審ヲ求メ而シテ後公判ニ付スヘキ筈ナリ然ルニ第一審裁判所ハ同法第二百四十一條第二項ニ依リ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲サシメ裁判ヲ爲シタルモ同法ニハ恐喝取財ヲ以テ強盜ナリトスル如キ同一體ノ事柄ニ對シ適用スヘキモノニシテ恐喝取財ト偽造官印罪トノ如キ數罪俱發ノ場合ニ適用スヘキモノニ非ス故ニ第一審第二審カ該條ニ依リテ起リタル公訴ヲ受理シタルハ違法ナリ

判旨第六點

ト云フニ在リ○然レモ本件ハ法律適用ノ結果恐喝取財ト偽造官印トノ二罪トナルニ至リタル
マテニシテ事件其モノハ最初ヨリ同一ナルヲ以テ其事件中ノ一部ヲ以テ新ニ起リタル別箇ノ
犯罪ナリト云フヲ得ス故ニ第一審裁判所カ刑事訴訟法第二百四十一條第二項ニ依リ處分シタ
ルハ相當ニシテ從テ原判決ハ之カ爲メ不法トナルヘキ理ナシ同第五點ハ原院ハ本印二箇ヲ偽
造シタル所爲ニ付キ官印偽造罪ヲ以テ論シタルニ拘ハラヌ刑法第四十三條第二ニ依リ犯罪ノ
用ニ供シタルモノトシテ沒收シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ此論旨ハ適法ハ
理由アルモノナリ何トナレハ既ニ偽造ノ官印ナリト判定シタル以上ハ則チ刑法第四十三條第
一號ニ謂フ所ノ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルコト勿論ナルニ依リ右第一號ヲ適用スヘキモ
ハナルニ上告論旨ハ如ク第二號ヲ適用シタル不法アルヲ以テナリ

右ノ理由ナルヲ以テ民ニカ上告趣意辯明書第五點ノ外一モ適法ノ理由ナキモ右第五點ニ基キ
刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決中沒收ニ係ル一部ヲ破毀シ同法第二百八十七條及第
二百八十九條未項ニ依リ本院ニ於テ判決スル左ノ如シ

雜波 長二

福本 賢次郎

原院ノ認メタル事實ニ基キ刑法第四十三條第一號ニ依リ押収ニ係ル偽造ノ官印二箇ハ之ヲ沒
収ス

明治二十九年二月二十四日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十九年第一四五號
明治二十九年二月二十四日宣告

○判決要旨

姻族ニハ離縁ノ養子ヲ包含セス從テ其養子ハ法律上當然證人タルノ資格ヲ有
ス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考
ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條)

民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ(同條)
第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 藤崎房治郎 辯護人 磯部四郎

右房治郎カ恐喝取財被告事件ニ付明治二十九年一月二十二日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ハ
之ヲ棄却ス原判決中被告ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス被告房治郎ヲ重禁錮三年ニ處シ罰金二十
圓ヲ附加シ監視十月ニ附ス云々ト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴

姻族ノ範圍

民法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 辯護士磯部四郎上告趣意第一點ハ原院ハ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮三年ニ處シ罰金二
 十圓ヲ附加シ監視十月ニ附ストノ裁判ヲ下シタリト雖モ原院檢事ノ附帶控訴ハ被告ノ所爲ハ
 刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ該ル重罪犯ナルヲ以テ該法條ヲ適用シテ處斷スヘキモ
 ノト云フニ在レハ原院カ第一審判決ヲ取消シ恐喝取財ノ重キ刑ヲ言渡シタルハ請求ヲ受ケサ
 ル事件ニ付裁判ヲ爲ス可ラサル刑事訴訟法第八十四條ノ規定及ヒ被告人ノ控訴ニ付キ原院
 決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ得ザル同法第二百六十五條ノ規定ニ違背セル不法
 ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ原院檢事ノ附帶控訴ハ上告論旨ノ如ク第一審裁判所カ本
 件ニ對シテ爲シタル法律ノ適用ヲ不當ナリトシ之カ覆審ヲ請求シタルモノナルヲ以テ即チ本
 件ニ付檢事ノ請求ナキモノト謂フヲ得ス而シテ此請求アリタル以上ハ被告人ノミノ控訴ニ非
 サルヲ以テ原院決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスヲ得ルコト勿論ナリトス同法第二點ハ第一
 審判決ニ於テ證人岡野政作ノ調書ヲ以テ斷罪ノ證據トナシタルモ該調書第二回ノ分ハ千葉地
 方裁判所書記武田半五郎一名ノ訊問ニ係ル違法ノ書類ニシテ該判決ハ不法ト謂フ可キモノナ
 ルヲ以テ被告人ノ控訴ハ結局理由アルモノナレハ被告ニ對シ利益ノ爲メ其判決ヲ取消スヘキ
 筋ナルニ事茲ニ出テ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不當ナリト謂フニ在リ○然レトモ第一審裁
 判所カ證據トシテ採用シタルハ證人岡野政作ノ豫審調書ナルコト該判決ニ明示スル所ニシテ
 其調書ニ於テハ尨モ不法ノ點ナク而シテ上告人カ稱シテ第二回ノ豫審調書トナス所ノモノハ

尨モ豫審調書ノ干與シタル事跡ナク又證人トシテ訊問シタルコトノ記載ナク且第二回ト云フ
 カ如キ前ノ調書ニ關係ヲ有スヘキ文字ナキ等一モ證人ノ豫審調書ト認ムヘキ點ナキヲ以テ該
 書類ハ第一審判決ニ謂フ所ノ證人岡野政作ノ豫審調書中ニ包含スルモノト謂フヲ得ス故ニ第
 一審判決ノ無効ナル調書ヲ採用シタル不法ナク從テ該判決ノ之カ爲メ取消サルヘキ筋ナキヲ
 以テ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ當然ナリトス同法第三點ハ原院ハ證人中山金五郎ノ豫審
 調書ヲ以テ斷罪ノ證據ニ供シタルモ同人ハ曾テ被告ノ養父タリシコトハ該調書等ニ明示スル
 所ナリ而シテ刑事訴訟法第二百二十三條第二項ノ規定ニ依レハ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタル
 トキト雖トモ亦同シキモノナレハ中山金五郎ハ證人トナルコトヲ得サルモノナリ故ニ原院カ
 該調書ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ姻族ニ付テハ右ニ謂フ如キ例外
 アリト雖トモ養子關係ハ場合ニ在テハ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ則チ離縁ニ因リ親族關係
 ハ消滅シタル以上ハ證人タル資格ニ於テ一モ妨アルコトナク從テ原院カ該調書ヲ採用シタル
 ハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十九年二月二十四日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○故殺未遂ノ件

明治二十九年第一〇九號
明治二十九年二月二十五日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ上告論旨タル判決原本ニ判事ノ捺印ニ欠缺アリヤ否ノ事實ヲ審査スルヲ得サルトキハ原判決ハ破毀セラルヘキモノトス

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 合田 庄吉 辯護人 江 木 衷

右故殺未遂被告事件ニ付明治二十八年十二月二十六日大阪控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審裁判所カ被告ヲ輕懲役七年ニ處シタル判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタリ被告ハ右判決ニ對シ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事長林誠一ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
辯護士江木衷上告擴張書ノ第二前段ハ原判決書ニハ原院判事ノ捺印ヲ缺クモノニシテ無効ナリト云フニ在リ○而シテ本件ハ記録ハ大阪控訴院書記ハ證明スル如ク火災ニ罹リ燒失シテ判決原本中果シテ判事ノ捺印ヲ存セシモハナルヤ否ヤヲ鑑定スルニ由ナシ故ニ原判決ハ破毀セサルヲ得サルモノトス既ニ此點ニシテ破毀スヘキモノト認ムル上ハ其他ノ上告論點ニ對シ既明チ與フルノ要ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ廣島控訴院ヘ移ス

明治二十九年二月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○毆打致死ノ件

明治二十九年第一一〇號
明治二十九年二月二十五日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ原判決ノ適法ニ成立シタルモノナルヤ否ノ事實ヲ鑑定スルニ由ナキトキハ其判決ハ破毀セラルヘキモノトス

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 下和佐 松之助 辯護人 富塚 政馬

右毆打致死被告事件ニ付明治二十八年十二月二十四日大阪控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理シタル末和歌山地方裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重懲役九年ニ處ス但前發重懲罰三年監視六月ト通算執行ス小刀一挺ハ沒收シ血痕アル衣類ハ差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト宣渡シタル判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ

訴訟記録ノ燒失

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 辯護士宮塚玖馬ノ擴張論旨ハ本件ノ訴訟記録ハ一切燒失シタルヲ以テ原院ニ於テ果シテ適法
 ノ判決ヲ爲シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク即チ原判決ハ適法ト認メ難キニ付破毀ノ上更ニ相當
 ノ判決ヲ受ケタシト云フニ在リ○右論旨ハ如ク本件ハ原院ニ於テ本年一月四日火災ニ因リ訴訟
 記録總テ燒滅シタルニ付果シテ原判決ハ適法ニ成立シタルモハナルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由
 ナク隨テ適法ノ判決ト認メ難シ故ニ本論旨ハ破毀ハ理由アルモハトス已ニ此點ニ於テ破毀ノ
 理由アル上ハ被告ノ上告趣旨及ヒ擴張論旨ニ對シ逐一其當否ヲ説明スルコトヲ要セス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本案ヲ廣島控訴院ニ移
 ス

明治二十九年二月二十五日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印偽造等ノ件

明治二十九年第一一四號
 明治二十九年二月二十五日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ原判決ノ適式ニ審判セラレタルモノナルヤ否ノ事實ヲ

鑑査スルニ由ナキトキハ其判決ハ破毀セラルヘキモノトス

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 塚原乙次郎 辯護人 花井卓藏

右私印偽造地所賣渡證書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年十二月十九日大阪控訴
 院ニ於テ富山地方裁判所カ被告ヲ重禁錮六月罰金五圓監視六月ニ處シ押収書類ハ各差出人ニ
 還付シ公訴裁判費用ハ被告之ヲ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末
 本控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シ以テ原判決ノ破
 毀ヲ要求セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ
 被告辯護士花井卓藏カ上告趣旨擴張第三點原院ハ如何ナル審理手續ヲ履踐シ如何ナル判決ヲ
 爲シタルヤ公判始末書並ニ判決原本燒失シテ存在セサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシ從テ原判決
 ハ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ○因テ本案訴訟書類ヲ査閱スルニ原院裁判所書記
 澤路茂樹ハ證明スル所ニ依レハ原院ハ公判始末書及判決原本等ハ燒失シテ存在セサルコト明
 カナリ故ニ上告論旨ニ對シ原判決ハ適式ニ審判シタルモハナルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由ナク對
 底破毀セサルヘカラサルモハトス既ニ此點ニ對シ原判決ヲ破毀スヘキモノタルヲ以テ他ノ上
 告論旨ニ對シ逐一説明ヲ爲サス
 以上ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ照シ原判決ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受

ケシムル爲メ本案ヲ名古屋控訴院ニ移送ス

明治二十九年二月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十九年第一三〇號
明治二十九年二月二十五日宣告

○判決要旨

第三者ノ醜行ヲ新聞紙ニ掲載セント恐喝シ之カ爲メ畏懼ノ心ヲ起スヘキ事由
アルニ乘シ財物ヲ騙取シタル所爲ハ恐喝取財罪ナリトス

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 山下岩之助 辯護人 高木益太郎

右岩之助ニ對スル恐喝取財被告事件ニ付明治二十九年一月二十九日名古屋控訴院ニ於テ被告
ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲
シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告岩之助上告趣意第一ハ非現行犯ノ場合殊ニ違法ノ警察調査ハ斷罪ノ證ト爲スヘカラサル
コト言テ俟タス然ルニ松坂警察署ニ於テ警部カ作製シタル宮里隆輝小澤忠四郎ノ聴取書ナル

モノハ數回召喚シタルモノニシテ其性質毫モ訊問調査ト異ル處ナキ違法ノモノナリ然ルニ一
審裁判所ニ於テハ之ヲ取テ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ違法ノ判決ナリ是ヲ以テ原院ハ
該調査ヲ斷罪ノ證據中ヨリ除却セラレタリ是明カニ一審判決ニ違法ノ點アルコトヲ認メラレ
タルモノニシテ換言スルトキハ即チ被告ノ控訴理由アリト認メラレタルモノナリ然ルニ前判
決ヲ取消サスシテ却テ被告ノ控訴ヲ棄却セラレタルハ前後矛盾シタル違法ノ判決ナリ又假リ
ニ該調査ニシテ違法ノモノニアラストスルモ一審裁判ニ於テ斷罪ノ證トセラレタルモノヲ原
院之ヲ删除セラレタルハ必ス其删除スヘキ所以ノ理由アリテ然ルヘキナリ已ニ删除スヘキ理
由アル失當ノ一審判決ナラハ之ヲ取消スヘキハ理ノ當然ナリ然ルニ原判決ハ一方ニ此失當ヲ
認メナカラ一方ニ却テ相當ナリト認メラレタルハ前後相齟齬シタル判決ナリト云フニ在レ
トモ○右聴取書ヲ閱スルニ隆輝等カ自ラ任意ニ警察署ニ出頭シテ陳述ヲ爲シタルヲ警部カ其
聴取リシ儘ヲ錄取シタル迄ニシテ訊問ヲ爲シタル形跡一モ之ナキヲ以テ之ヲ訊問調査ナリト
シ違法ノモノト云フヲ得ス既ニ違法ニアラサル以上ハ探テ斷罪ノ資料ニ供スルモ亦違法ニア
ラサルナリ而シテ其聴取書ヲ證料ニ供セスシテ第一審判決ノ認定ヲ相當ナリト認ムルコトヲ
得ル場合ニ於テ之ヲ探ラサルモ原審官ノ隨意ニシテ即チ證據取捨ノ特權ニ屬ス本論旨ハ結
局辭ヲ理由齟齬ニ籍リテ没リニ右ノ特權ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理
由トナラス其第二ハ原判決文ニ「押收ノ書類中三重新聞一葉第四號符鑑アル被告ヨリ宮里隆輝
宛端書一通第五號符鑑アル被告ヨリ小澤忠四郎宛書狀一通云々」トアリ然ルニ一件書類ヲ檢閱

スルニ第四號符箋ノ端書第五號符箋ノ書狀ハ共ニ松坂警察署新町派出所巡査森田健吉カ隆禪及忠四郎ヨリ一時借受ケ來リタルモノナルコト同人ノ搜查報告書ニ明カナリ而シテ又是等ノ書類ニ對シテハ曾テ押収ノ手續ヲ爲シタル跡一件書類中ニ絶テ之ナシ是違法モ甚シキモノト云フヘシ而シテ是等違法ノ書類ヲ採テ以テ斷罪ノ證トセラレタル原院判決ハ亦違法ナリ翻テ一審判決文ヲ見ルニ「押収セル證據書類」トハアレトモ押収セル新聞紙ナルモノ更ニ之ナシ左レハ原院ハ如何ナル手續ニ依テ三重新聞紙ヲ押収セラレタルカ知ルヘカラスト雖モ兎ニ角取テ以テ斷罪ノ證據中ニ新タニ加ヘラレタルハ一審判決ニ於テハ證據ノ不備ナルコトヲ認メラレタルモノナリ故ニ如此新證據ヲ加ヘサレハ處斷スルコト能ハサル一審判決ヲ却テ相當ナリト認可セラレタルハ前後矛盾ニシテ理由齟齬ノ判決ト云フヘシ加之一件書類ヲ隠スルトキハ宮里隆禪ノ豫審調査中明治二十八年十月一日ノ分ニ豫審判事問フ其新聞紙ハ如何カ致シタ隆禪答切斷シテ反古ニ仕外シタト明記アリ左レハ切斷シテ反古ニ爲シタル新聞紙ニシテ豈茲ニ再ヒ生レ出テ原院ニ押収サルハノ道理アラシキ思フニ該新聞紙ハ原院カ擅ニ取テ以テ證據中ニ加ヘラレタルモノニシテ故ラニ被告ヲ罪セントシタルモノナレハ不法ナリ尙百歩ヲ譲リ隆禪カ切斷シタル新聞紙ヲ蘇生セシメ之ヲ裁判所ニ提供シ且押収ノ手續モ總テ爲シアルモノト假定スルモ原院判決文ニ新聞紙ヲ示シ隆禪ヲ恐喝シタル旨ヲ記載シアレハ右ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナルヲ以テ之ヲ沒收セサルヘカラスト然レトモ本案ハ被告ノミノ控訴ナレハ第一審ニ於テ之ヲ沒收セサリシヲ以テ原院ハ被告ノ不利益ニ變更セスト云ハンカ然ラハ其變更セサル

所以ノ理由ト法條トヲ明示セサルヘカラスト然ルニ原院判決ノ茲ニ出テサルハ理由ヲ付セス法則ヲ適用セサル判決ナリト云フニ在レモ○右等ノ書類ハ明治廿八年八月二十二日押収セシコトハ記録中ニ存在スル押収目錄ニ依リテ明瞭ナレハ本論旨ハ全ク謂ハレナシ但シ切斷シタル新聞紙沒收云々ノ點ハ原院判決ノ認メサル事實ニ基クモノナレハ此又上告ノ理由トナラス其第三ハ要スルニ原院文ニ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ處斷ス云々トノミアリテ右第三百九十四條ノ第何項ナルカヲ明示セサルハ不法ナリ尙第一審判決ニハ刑法第三百九十四條第一項ト記載シアレテ以テ右第一項ヲ適用セサルトキハ第二審裁判所ニ於テ法律ノ適用ヲ改メタルモノナレハ第一審判決ヲ取消スヘキニ却テ之ヲ相當ナリトセシハ前後理由ノ齟齬ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十四條ヲ適用シアレハ其第一項ナルコト瞭然タレハ其第一項ト明記セサルモ之ヲ不法ト云フヘカラスト而シテ第一審判決ニ之ヲ明記シアリト雖モ第二審ニ於テ擬律ヲ改メタルモノト云フヘカラスト本論旨ハ上告ノ理由ナシ其第四ハ要スルニ原院ハ公訴裁判費用負擔ノ言渡ヲ爲スニ單ニ刑法第四十五條ノミヲ適用シテ刑事訴訟法第二百一條ヲ適用セサルハ違法ナリ然リ而シテ第一審判決ニハ之ヲ適用シアレテ法律ノ適用ヲ改メタルモノト云フヘシ然ルニ第一審判決ヲ認可シタルハ即チ前後理由齟齬シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○裁判費用負擔ノ言渡ハ刑ノ言渡シニアラサルヲ以テ法條ヲ明示セサルモ違法ニアラス故ニ第一審判決ニ法條ヲ明示シ第二審ニ於テ之ヲ明示セサルモ第一審判決ヲ取消スノ必要ナキヲ以テ本論ノ如キ違法ナキノミナラス第一二審判決共ニ同一ノ

法條ヲ適用シテ裁判費用負擔ヲ言渡シタルモノナルコトハ其言渡ノ趣旨ニ依テ明瞭ナレハ唯
 法條ノ明示ヲ爲スト爲サ、ルトニ依テ法律ノ適用ヲ異ニシタリト云フヘカラス旁々本論旨ハ
 上告適法ノ理由ナシ其第五ハ原判決文ニ「右新聞紙ヲ示シ三重新聞紙ニ於テハ尙ホ他ニ孝譽ノ
 醜聞ヲ探知シ居ルニ付金員ヲ差出ササレハ概々掲載スヘキ旨申聞ク云々」トアレトモ原院カ明
 示セシ各證據中右ノ事蹟毫末モ之ヲシト云ヒ其第六ハ要スルニ本案被告事件ニ付テハ被告カ
 己レヲ利セント欲スル惡意ナキニ犯罪ナリト斷定シタルハ違法ナリト云ヒ其第七ハ本案ハ三
 重新聞紙々債主トナリ出資シタル者ニハ其返済方法トシテ永久新聞紙一葉ツ、ヲ與フル規定
 ナルヲ以テ謂ハレナク金錢等ヲ騙取シタリト云フ可カラサレハ刑法第三百九十條ニ間擬スヘ
 キモノニアラスト云ヒ其第八ハ恐喝取財ノ犯罪ハ必ス恐喝サルヘキ人即チ被害者其者ヨリ取
 財シタル場合ナラサルヘカラス然ルニ本件ニ於テハ田中孝譽コソ新聞紙ニ掲載セラルコト
 ヲ恐ルヘキモ隆禪ハ敢テ恐怖スヘキモノニアラスト云フニ在リテ○皆原承審官ノ職權ニ屬ス
 ル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難シ又ハ原院ノ認メサル事實ニ依リ論難ヲ試ムルニ過キス如何
 トナレハ右第五ハ説明ヲ要セスシテ明了ナルヘク其第六ニ付テハ原判決ニ「己レモ亦恐喝手段
 ナ以テ尙多額ノ金員ヲ得ンコトヲ企テ云々」トアルニ依テ其惡意ヲ認メタル明カナリ其第七ニ
 付テハ原判決ニ「返済方法トシテ永久新聞紙一葉ツ、與フル規定等ノ事實ハ認メアラス」其第
 八ニ付テハ原判決ニ「隆禪ヲ恐喝シ遂ニ云々」トアレハ隆禪カ恐喝ヲ受ケ其結果遂ニ金員ヲ騙取
 セラレタルモノナルコトヲ認メタルコト明カナリ故ニ右論旨ハ總テ上告適法ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎ノ擴張趣旨第一ハ原院ハ上告人岩之助ニ於テ宮里隆禪ヲ恐喝シ同人ヨリ金
 圓ヲ騙取シタリト斷定セラレタレトモ其恐喝ナリト認メラレタル行爲ハ即チ三重新聞紙上ニ
 田中孝譽ノ醜聞ヲ掲載セント申聞ケタル事アルニ止マレリ而シテ設令第三者タル孝譽ノ私行
 上ニ關スル記事ヲ新聞ニ掲載セラレタリトスルモ本件ノ被害者ナリト目セラレタル隆禪ノ名譽
 ニ影響ヲ及ホス恐レナキヲ以テ他ニ格段ナル事實理由ノ説明ナキ以上ハ上告人申込ニ依リ隆
 禪ヲシテ畏懼ノ念ヲ生セシメタル譯合ナシトス然ルニ原判決ハ是點ノ事實ヲ辯明セスシテ漫
 然上告人ニ恐喝取財罪アリト斷定シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云ニ在レトモ○恐喝方法ハ
 如何チ間ハ、ス荷モ其恐喝ニ因リ人ニ畏懼ノ念ヲ生セシメテ財物ヲ騙取シタル以上ハ恐喝取財
 ノ罪ヲ構成スヘキハ論ヲ俟タス故ニ假令醜聞ノ記事ヲ新聞紙ニ掲載セラルハコトニヨリ名譽
 ナ毀損セラレハハ恐アル者ハ孝譽其人ナリト雖モ隆禪ニ於テ其事ヨリ畏懼ノ念ヲ起スヘキ事
 由アリテ現ニ畏懼ノ念ヲ起シ之ニ乘シテ財物ヲ騙取シタル已上ハ其犯罪ハ成立スルコト明カ
 ナリ事苟モ他人ニ關スル以上ハ其人ニ如何ナル危害アルモ痛痒相關セサルコトカ一般ハ人情
 ニ普通ハ状態ナリト云フコトヲ得ヘクハ或ハ特別ニ其理由ヲ明示スルハ要アルヘキモ其否
 ナサル以上ハ現ニ畏懼ノ念ヲ生シタル事實ヲ認メアルニ於テハ犯罪構成上必要ハ事實理由ヲ
 明示セサルモノト云フヘカラス而シテ其現ニ畏懼ノ念ヲ起シテ金員ヲ騙取セラレタリトハ事
 實ハ原院ハ認メアルコトハ既ニ前項ニ於テ説明セシ處ナリ故ニ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ
 其第二ハ其論旨被告ノ上告趣旨第一ノ趣旨ト同一ニ歸着スルヲ以テ上告ノ理由ナキコトハ其

附帶控訴ノ明言○證人資格ノ調査

趣旨ニ對シテ與ヘタル説明ヲ以テ了解スヘシ
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年二月二十五日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財及印紙再貼用ノ件

明治二十九年第五號
明治二十九年二月二十七日宣告

○判決要旨

（判旨第七點） 附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ附帶控訴ナル法律語ヲ明言スルヲ要セス其趣意ヲ認メ得ヘキ陳述アルヲ以テ足レリトス（明治二十八年第九一四號登載參照）

（判旨第九點） 證人ノ資格ニ付刑事訴訟法第二百二十四條ニ記載シタルモノナルヤ否ヤハ訊問スヘキモノニアラス

（參照） 左ニ記載シタル者ハ證人トナルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考

ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得（刑事訴訟法第二百二十三條）

左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ第一、十六歳未満ノ幼者第二、知覺精神ノ不十分ナル者第三、瘖啞者第四、公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者第五、重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付公判ニ付セラレタル者第六、現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ニ付管テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者（刑事訴訟法第二百二十四條）

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 海老澤八十吉 辯護人 上原鹿造
久松龜藏 山浦武四郎

右兩名詐欺取財及印紙再貼用被告事件ニ付明治二十八年十二月十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士上原鹿造ノ辯論檢事岩田武儀ノ意見ヲ聽キ審問ヲ爲シタル後裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ再ヒ審問ヲ爲シ裁判スル左ノ如シ
被告海老澤八十吉ノ上告趣意第一點ハ原判決ニ被告ハ明治二十六年十一月中新治郡石岡町大字石岡久保松平外二名ヨリ島田定助ニ係ル契約履行ノ訴訟ニ付辯護士小川與吉ヘ無効ノ訴訟印紙ヲ正當ノモノナリト詐リ拾錢ノ印紙三拾枚ヲ交付シ其代金三圓ヲ松平等ヨリ騙取シタルト認定シタルハ違法ナリ何トナレハ小川與吉ハ被告ヨリ賣渡シタル訴訟用印紙ヲ該訴訟事件ニ付貼用シテ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルハ松平等ハ毫モ損害ヲ蒙リタルトナケレハナリト云フニ在レトモ○小川與吉カ本案ノ訴訟用印紙ヲ貼用シテ裁判ヲ受ケタルニ依リ松平等ハ損害

附帶控訴ノ明言○證人資格ノ調査

害ヲ受ケサリシトノ事實ハ原判決ノ認メサル所ナリ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス○第二點ハ小川與吉ハ辯護士ナレハ訴訟印紙ノ不正ヲ辨別スル能ハサルモノニアラス同人カ古印紙ナルコトノ情ヲ知テ貼用セシコトハ其豫審調書ニ依リ明カナリ又小川與吉ハ訴狀ニ貼用セシ印紙ノ外ニ同一事件ノ書類中臨檢申請書證人申請書等ニ貼用シ置キナカラ其出所ヲ疏明シ能ハサリシコトハ豫審調書ニ依リ明カナレハ同人ノ陳述ハ信ヲ置クニ足ラス然ルニ原判決ニ其證言ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ論争スルモノナレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス○第一上告趣旨辯明書ノ要旨ハ原判決ハ被告八十吉カ酒井雄平ニ對シ立替ヲ受ケタル辯護士ノ謝金ヲ返濟スルニ當リ無効ノ訴訟用印紙ヲ正當ノモノナリト許リ現金貳圓ト無効ノ印紙三圓分ヲ交付シ金五圓ノ受取證書ヲ騙取シタリト認定シタル上ハ抑収セラレタル該受取證書ハ犯罪ニ依リ得タルモノナルニ之ヲ沒收セサルハ不法ナリト云フニ在リテ○自己ノ不利益ニ歸スル論旨ナルヲ以テ被告ノ上告理由ト爲スヘカラス○第二辯明書中第一點ハ原判決ハ被告ノ控訴ニ依リ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲シナカラ被告ノ控訴ヲ棄却シタルヲ以テ違法ナリト云フニ在レテ○原判決ハ檢事ノ附帶控訴ニ基キ第一審判決ヲ取消シタルモノナルヲ以テ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニアラス○第二點ハ主タル控訴ヲ理由トシテ棄却スル場合ニハ附帶控訴ハ其効力ヲ失フヘキモノナリ然ルニ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルニモ拘ラス附帶控訴ヲ受理シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○控訴ノ成立セザ

判旨第七點

ル場合ニ於テハ附帶控訴ノ効力ヲ失フヘシト雖モ控訴ヲ理由トシテ棄却スル場合ハ附帶控訴ノ効力ヲ失フヘキモノニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ辯護士上原處造ノ上告趣意ハ訴訟印紙ノ果シテ無効ナルヤ否ヤハ其訴訟印紙ノ果シテ一旦効力ヲ爲シタルヤ否ヤニ存スルモノナリ其印紙ノ汚濁シタルト否トハ其印紙ノ無効ヲ判定スヘカラス然レハ本件犯罪ニ付訴訟印紙ノ無効ヲ説明スルニハ既ニ一旦使用シタルモノナル事實ヲ明示スヘキ答ナルニ原判決ニ其説明ナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ其事實現理由ノ冒頭ニ「被告八十吉ニ於テハ既ニ一旦使用シテ無効ニ歸シタル訴訟用印紙ノ消印ヲ洗滌シタルモノ數多所持シ居ルヲ奇貨トシ左ノ數罪ヲ犯シタリ云々」トアリテ本案ノ印紙ハ總テ既ニ貼用セシモノナルコトヲ明示シタルニ依リ上告論旨ハ其理由ナシ同辯護士ノ第一擴張書第一點ハ被告八十吉ノ上告趣意第一點ト同一ナルヲ以テ重子テ説明セス○第二點ハ原院檢事ハ公判ニ付第一審判決ハ輕キニ失スルヲ以テ重クセヨト陳述シタルニ止リ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述アラサルニ原院カ檢事ヨリ附帶控訴アリタルモノト爲シ被告ニ重刑ヲ科シタルハ違法ナリト云フニ在レテ○凡ソ附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ附帶控訴ナル法律語ヲ明言スルヲ要セズ其趣意ヲ認メ得ヘキ陳述アルヲ以テ足レリ而シテ公判始末書ヲ查閱スルニ原院檢事ハ「原裁判所カ重禁錮六月ニ處シタルハ輕キニ失スルヲ以テ被告兩名ニ對シ附加刑共ニ更ニ重ク尙ホ懲戒ニ對スル言波ニ二罪ニ從ヒ云々」トアリテ第二罪ハ如クニ爲シタルモ此犯罪ハ數罪ナレハ其中ニ就キ重キヲ認メサルハカラス原判決ハ右等ノ點ニ付殺遺アルヲ以テ是ヲ更正シ被告等ニ對シ更ニ重

カ處斷セシコトヲ請求ス。ト陳述シタル旨、録取シアリテ、檢事ヨリ、附帶控訴ヲ提起シタルコト、分明ナルニ依リ、上告論旨ハ、適法ノ理由ナシ、尙ホ本論旨中第一審判決ノ處斷シタル刑期ト檢事カ之ヲ指摘シタル陳述ト其刑期ノ月數ニ相違アル點ニ付論述スル所アレトモ、是レ主要ノ論旨ト認メサルヲ以テ殊ニ説明ヲ與ヘス。第三點ハ、原院ノ認メタル被告カ第三ノ所爲ハ、無効印紙三圓ト現金二圓トヲ與ヘテ五圓ノ受取證ヲ騙取シタリト云フニ在レトモ、刑法ニ所謂證書ノ騙取ハ其證書カ騙取者ニ於テ相當ノ價額ヲ有スル場合ヲ指スモノニシテ、騙取者ノ爲メニ證末ノ價額ナキモノハ、騙取ノ目的トナルモノニアラス。右第三ノ所爲中ニハ、現金トシテ二圓ヲ渡シタル事實ヲ認メアルカ故ニ此場合ニ於テ騙取ノ目的物トナリ得ルモノハ、三圓ノ受取證ニシテ其餘ノ二圓ニ對スル受取證ハ、被告ニ於テ騙取シタルモノニアラス。然ルニ原判決ニ金五圓ノ受取證書ヲ騙取シタリト認定シタルハ、違法ナリト云フニ在レトモ、○原判決ニ認定シタル事實ナレハ被害者ハ、被告ヨリ三圓ノ印紙ト現金二圓トヲ合シテ五圓正當ニ支拂ヒタリト信シタルカ故ニ其受取證書ヲ差出シタルモノニシテ若シ其印紙ノ無効ナルコトヲ知ラハ、固ヨリ五圓ノ受取證書ヲ差出サ、ルコト勿論ナリ。然レハ被告カ騙取シタルハ、五圓ノ受取證書ニシテ三圓ノ證書ニアラス。即原判決ノ認定ハ、相當ニシテ上告論旨理由ナシ。第二擴張書ノ趣旨ハ、原判決ニ「證據トシテ採用セラレタル小川與吉ノ訊問調查ニ、本日ハ云々直チニ訊問ヲ受ケ異議ナキヤ、於是小川與吉ハ刑事訴訟法第百二十三條ニ觸ル、廉ナキヲ以テ如式宣誓ヲ爲サシメタリトアリテ、第百二十三條ニ觸ル、コトナキハ、裁判所ニ於テ認メタル事實アルモ、同法第百二十四條ニ觸レサル

ヤ否ヤテ訊問シタルコトノ記載ナキヲ以テ違法ノ調查ナルニ原院カ之ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ、違法ナリト云フニ在レトモ、○同法第百二十四條ハ、事項ハ、證人ニ對シ、訊問スルコトヲ必要トセサルニ依リ、其事項ヲ證人ニ問ヒタルコトハ、記載ナキモ、不法ニアラス。被告久松龜藏ノ上告趣意第一點ハ、被告ハ、無効ノ訴訟用印紙ヲ賣渡シ金四圓ヲ騙取シタルコトナキニ原院カ其事事實アリト認定シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ、不法ナリト云フニ在リ。第二點ハ、第一點ノ論旨ヲ詳述シタルニ過キスシテ、○共ニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲ス。テ得ス。辯護士山浦武四郎ノ擴張書第一點ハ、證人長南健助ノ宣誓書ニハ、長南賢助トアルニ此宣誓書ヲ改メスシテ訊問シタル豫密調查ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ、違法ナリト云フニ在レトモ、○該宣誓書ヲ査閱スルニ上告論旨ノ如キ誤記アルコトナシ。第二點ハ、印紙再貼用ノ罪ハ、單ニ之ヲ貼用シタルノミナラス、其無効ヲ知テ貼用シタルモノナラサルヘカラス。一件記録ニ徴スルニ被告ハ、無効ノ印紙タルヲ知ラサリシコト明カナリ。然ルニ原院カ其再貼用ノ事實ノミチヲ以テ直チニ再貼用ノ罪アリト認定シタルハ、違法ナリト云フニ在レトモ、○原判決ハ、被告カ故意ヲ以テ印紙ヲ再貼用シタル事實ヲ認メタルモノナルコト其說明ニ依リ、判然タルハ、上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ。第三點ハ、被告龜藏ハ、數多ノ訴訟ニ付代理ヲ爲スモノナレハ、本件飯村久五郎外二名ヨリモ、其訴訟代理ノ委任ヲ受ケタルヲ以テ訴訟書類ニ被告ハ、印紙ヲ貼用シ委任者ヨリ其費用ヲ支拂ヒタルニ過キスシテ、被告ハ、金錢ヲ騙取セシコトアラサルニ原院カ其犯罪アリト認定シタルハ、違法ナリト云フニ在リテ、○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難ス

ルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十九年二月二十七日大審院刑事聯合部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○證書毀棄及詐欺取財ノ件

明治二十九年第八七號
明治二十九年二月二十七日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 私書偽造行使罪ハ偽造證書自體ヲ行使シタルニアラサレハ成立
セス從テ其贖本ヲ裁判所ニ提出スルモ罪トナラス

(參照) 賈買貸借附遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シ
タル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ
私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二回
以上二十四回以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二二)
(判旨第二點) 他人ノ帳簿ヲ抹消シ其効用ヲ失ハシメタル所爲ハ器物毀棄罪ヲ

以テ論ス

(參照) 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三回以上三
十回以下ノ罰金ニ處ス(刑法第四百)

(判旨第三點) 債權證書ヲ偽造シ裁判所ニ提出シテ財產差押ヲ爲シタル所爲ハ
詐欺取財ノ未遂犯ナリトス

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 渡邊志馬
保和門四郎
助川己之平

右三名カ證書毀棄及渡邊志馬カ私書偽造行使被告事件ニ付明治二十八年十二月二十七日東京
控訴院ニ於テ新潟地方裁判所ノ判決ニ對スル各被告人ノ控訴及ヒ同院檢事ノ附帶控訴ヲ審判
シ原判決ハ之ヲ取消ス被告三名ハ各無罪押収ノ證書類帳簿ハ各差出人ニ還付ス本院檢事ノ附
帶控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル第二審ノ判決ヲ不當ナリトシ同控訴院檢事長野村維章ハ上
告ヲ爲シ本院檢事岩田武儀ハ附帶ノ上告ヲ爲シタリ因テ裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ刑事
部聯合裁判ヲ開キ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
上告ノ要旨第一本院ノ判決ニ依レハ被告志馬ハ井上庄次郎ヨリ自己ニ宛タル念書ト題スル權
利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ其證書元本ハ之ヲ裁判所ニ差出サ、ルモ其贖本ヲ裁判所ニ差出

贖本ノ行使○帳簿ノ抹消○偽造證書ノ提出

判旨第一點

シ之ニ基キテ庄次郎ノ財産ヲ差押ヘタリ蓋シ證書贈本ノ元本ニ於ケルハ猶ホ影ノ形ニ於ケルカ如ク元本アリテ始メテ生スルモノナレハ假令其元本ヲ提出セサルモ其贈本ヲ提出シテ相當ノ効用ヲ爲シタル以上ハ其偽造證書ハ之ヲ行使シタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ被告ノ所爲ハ刑法第二百十條ヲ適用シ處斷セサルヘカヲサルニ本院ハ其元本ヲ提出セザリシトテ無罪ト判定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在ルモ○刑法第二百十條ハ罪ハ證書ヲ偽造シ之ヲ行使シタルニ因リ成立スルモノニシテ證書ヲ偽造スルモ之ヲ行使セザレハ其罪ナキモハトス被告志馬ノ所爲ハ偽造證書ハ寫ヲ裁判所ニ差出シタルニ止マリ偽造證書其物ヲ差出シタルニ非サルヲ以テ偽造行使罪ハ成立セザルモノナリ故ニ原控法院カ偽造本書ハ行使ナキヲ以テ罪トナラスト判定シタルハ正當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ第二本院判決ニ依レハ被告三名ハ申合セ井上庄次郎所有ノ帳簿ヲ抹殺シタルモノナリ右帳簿ハ權利義務ニ關スル證書類ニ非サルコト勿論ナリト雖モ簿籍者ノ計算ニ供スル爲メ備ヘタルモノナリ故ニ該帳簿記載ノ事項ヲ抹殺スルトキハ該器物ノ効用ヲ失ハシムルモノナレハ假令其器物ノ本體ヲ破毀セスト雖トモ尙ホ器物毀壞罪ト爲シ刑法第四百二十一條ヲ適用シ處斷セサルヘカヲス然ルニ本院ニ於テ此事實ヲ認メナカラ罪ト爲ラサルモノトシ無罪ノ宣告ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リテ○本論旨ハ正當ノ理由アリトシ何トナレハ本件帳簿ハ證書タルハ効力ナキモノト雖トモ既ニ他人ノ所有物タル帳簿ヲ抹消シ其効力ヲ失ハシムルモノトナレハ即チ器物ヲ毀棄シタル所爲ト認ハサルヲ得ザレハナリ然ルニ原控法院カ此事實ニ對シ無罪ヲ宣告シタルハ擬律ノ錯誤ナリ

判旨第二點

逸法ノ外決カルヲ免カレシ
本院檢事附帶上告ノ要旨ハ原判文ニ依レハ被告ニ於テ庄次郎ニ對スル債務ハ已ニ消滅セシノミナラス却テ百五拾圓ノ債權アルニ付之ヲ反求スル旨反訴狀ヲ提出セリトアリ此事實ハ豫審並ニ第一審共ニ認ムル所ナリ由是觀之ハ此反訴ハ純然一方ヲ欺同シテ該金圓ヲ騙取セントセシ所爲ナルヲ明白ナリ故ニ起訴狀中特ニ詐欺取財ノ罪名ヲ附記セサルモ證書偽造罪中ニ自カヲ包含セシモノナレハ即チ詐欺取財未遂ノ罪ヲ論スヘキモノナルニ之ヲ不問ニ付シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ○因テ之ヲ密按スルニ被告志馬ハ證書ヲ偽造シ井上庄次郎ニ對シ百五拾圓ノ債權アリト詐稱シ反訴ヲ提起シ以テ其金圓ヲ騙取セント企圖シ竟ニ庄次郎ハ財産差押ヲ爲スニ至リタルモノナレハ其詐欺取財未遂ハ所爲アルハ明瞭ナリ而シテ其所爲ハ證書偽造ニ原因セシモノナルヲ以テ既ニ證書偽造罪ハ起訴アリタル上ハ詐欺取財罪ヲモ包含シ共ニ起訴アリタルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原判文ニ於テモ亦明カニ前記ノ事實ヲ認メナカラ之ニ對シ何等ノ判決ヲ爲サザリシハ即チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サル者ニシテ直チニ擬律ノ錯誤ト爲ステ得スト雖モ要スルニ原判決逸法ノ點アルモノナレハ本論旨ハ結局其理由アリ又被告門四郎己之平兩名ハ被告志馬ト共謀シ井上庄次郎所有ノ帳簿ヲ抹消シタル所爲アルニ止マリ其詐欺取財事件ニ付テハ各兩名カ共謀シタリト認ムヘキ點ナキヲ以テ本論旨ハ單ニ被告志馬一人ニ係リ被告門四郎己之平ハ之ニ關係ナキモノタリ而シテ被告志馬カ帳簿抹消ノ所爲ハ詐欺取財事件ト相牽聯スルヲ以テ其事件ト共ニ他ノ裁判所ニ移スヘキモノト

判旨第三點

贈本ノ行使○帳簿ノ抹消○偽造證書ノ提出
九十九

ス

右ノ理由ナルヲ以テ被告志馬ニ對シ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ之ヲ宮城控訴院ニ移ス被告門四郎己之平ニ對シ同第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ左ノ言渡ヲ爲スモノナリ

保荻門四郎

助川己之平

原判文ニ認メタル事實及證據ニ依リ被告兩名ハ人ノ器物ヲ毀棄シタル罪アルモノトス因テ刑法第四百二十一條ニ照シ被告門四郎ヲ重禁錮四月ニ處シ己之平ヲ重禁錮三月ニ處ス公訴裁判費用ハ被告兩名ヲシテ連帶負擔セシム

明治二十九年二月二十七日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜再審ノ件

明治二十九年第一五號
明治二十九年二月二十八日宣告

○判決要旨

公正證書ヲ以テ原判決ニ認メタル前科ニ錯誤アルコトヲ證明シタルトキハ再

審ノ訴ヲ爲スコトヲ得

(參照) 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(刑事訴訟法第三百一條)

公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(同條)

原裁判所 德島地方裁判所

被告人 庄野岩藏

右竊盜及ヒ竊盜未遂持兇器竊盜被告事件ニ付明治二十七年十二月十一日德島地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

再審ノ訴旨ハ原判文ニ被告岩藏ハ明治二十三年十月十四日竊盜罪ニ依リ重禁錮十月監視六月ニ處セラレ云々トアレトモ被告ハ同年月日ニ右ノ處斷ヲ受ケタルコトナシ而シテ其處斷ヲ受ケタルハ被告ト同氏名ナル庄野岩吉ナル者ニシテ其住所及ヒ年齡全ク異ナレリ要スルニ原判決ハ被告カ本案ノ輕罪ハ初犯ナルニ再犯トシテ處斷シタルハ不法ナリト云ヒ明治二十三年十月十四日前掲庄野岩吉ニ對シ德島地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決書ノ謄本及ヒ名東郡北井上村長阿部五郎ノ籍面取調證明書ヲ提出シタリ○因テ右判決書ハ謄本及ヒ籍面取調證明書ヲ査閱スルニ明治二十三年十月十四日德島地方裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ重禁錮十月監視六月ハ處斷ヲ受ケタルハ被告ト同氏名ナル德島縣名東郡八万村大字下八万村百二十番屋敷平民日

原・孫・庄・野・岩・藏・ナル者ニシテ被告ニアラサハ事實明白ナリ然ラハ則原裁判所カ被告カ本案ハ輕
罪ハ初犯ナルニ再犯トシテ處斷シタルハ即テ訴訟記録ニ錯誤アリタルニ由ルモハト認ム因テ
刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當スル再審ハ原由アルモハトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七條ニ依リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本案ヲ高知地方裁判
所ニ移ス

明治二十九年二月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事春木義彰立會宣告ス

○私書偽造等私訴ノ件

明治二十九年第一二二號
明治二十九年二月二十八日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事
訴訟法ノ規定ニ則ルヲ要セス從テ其攻撃方法ニ對シ特ニ判定ノ理由ヲ付スル
ヲ要セス

(參照) 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其
公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ

參加スルコトヲ得(刑事訴訟法第四條)

(判旨第三點) 裁判所ハ一方ノ請求ナキ事物ヲ他ノ一方ニ歸セシムルヲ得ス

(參照) 裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムルノ權ナシ裁判所ハ終局
判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲ス可シ然レト
モ一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得(民事訴訟法第
二百三十一條)

第一審 山形地方裁判所 第二審 宮城控訴院

上告人 日向豐明 訴訟代理人 村松龜一 幸太郎

被告 伊藤充次 山崎元吉 訴訟代理人 岡崎正也
山口重三 鈴木重三 野副伊代治
本間治郎 右衛門 伊藤林藏 野副重一

明治二十八年十一月二十一日宮城控訴院ニ於テ右當事者間ニ於ケル本間佐左衛門カ私書偽造
等被告事件ノ公訴附帶ノ私訴ニ付官渡シタル判決ニ服セス日向豐明川上鐵三郎代理人ヨリ上
告ヲ爲シ伊藤充次郎代理人ハ上告及ヒ附帶上告ヲ爲シタルニ依リ本院ニ於テ刑事訴訟法第二
百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
日向豐明川上鐵三郎代理人村松龜一耶カ上告趣意ハ原判決中右ノ各證書ハ共ニ佐左衛門ノ偽
造ニ係リ各被告控訴人ノ承諾ニ出テタルモノニアラサル事ハ原公訴判決ニ於テ明カナルヲ以テ

私訴ノ審判ノ請求ナキ事物

此點ニ對スル控訴ノ理由ナシト言渡サレタレ原院ノ採用スル公訴判決ノ理由ニ依レハ何レ
 用皆被上告人等ノ承諾上成立シタルモノナル事甚々明瞭ナルヲ以テ上告人ハ該判決ノ文詞ヲ
 採用シ且被上告人等ノ豫審ニ於ケル自白ヲ以テ其承諾アル事ヲ立證シタルニ此有力ナル攻撃
 方法ニ對シ判斷セサルハ民事訴訟法第四百三十條ニ背ク不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ
 刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニ總テ民事訴訟法ニ則ルハシトハ規定アル
 ニアラサルカ故ニ原院カ上告人ノ提出シタル攻撃方法ニ對シ一々判定ノ理由ヲ付スルコトハ
 ク、主要概括ノ理由ヲ付シ以テ總テハ攻撃方法ヲ排斥シタルハ敢テ不法ニアラス

同代理人關幸太郎カ上告趣意擴張第一點ハ要スルニ金七百圓ノ證書ヲ始メ金四百五拾圓ノ證
 書及ヒ金千七百圓ノ證書共總テ該證書ノ記名者ノ承諾ヲ得タル上ニ於テ作為セラレシモノナ
 ルコト第一審公訴判決ノ理由上明白ナルニ依リ假令公訴被告人佐左衛門ニ於テ當初其人々ニ
 對シ申入レタル言ニ反シ之ヲ使用シタル點ニ於テ處刑セラルヘキ者トスルモ善意ノ第三者タ
 ル上告人等ニ對シ被上告人等ハ其責ヲ免ル可カラサルヲ法理上明白ナリ畢竟スルニ最初ノ申
 入レニ反スル如キ不正ナル佐左衛門ヲ輕信シ自紙ニ記名調印スル如キハ被上告人等ノ過失ナ
 レハ被上告人其責ヲ負フヘキハ當然ナリ然ルニ原院ハ其怠慢過失ヲ不問ニ付シ正シキ上告人
 ノ損失ニ歸スヘキ判決ヲ下シタルハ全ク不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ其判決理由ノ既
 明ニ供セシ第一審公訴判決文ヲ閱スルニ其要旨ハ公訴被告人本間佐左衛門ニ於テ金員騙取ノ目
 的ニテ伊藤充次郎ニ對シ日向豐明ヨリ金二百圓ヲ連帶ニテ借用スルコト及ヒ充次郎ノ地所ヲ

抵當ニ借入ル、事ヲ承諾セシメ鈴木重三郎ニハ右二百圓ノ債務ノ保證人タルコトヲ承諾セシ
 メ金高記載ナキ白紙ニ各調印セシメ之ニ金高千七百圓ト記シ山口元吉本間正富及ヒ充次郎重
 三郎等ノ所有田地ヲ抵當ニ借入レ佐左衛門充次郎ハ負債主又重三郎外二名ハ抵當貸主兼保證
 人トシテ債主日向豐明ニ宛テタル金七百圓ノ借用證書ヲ偽造シ之ヲ同人ニ交付シ同人チ欺キ
 數度ニ金四百圓ヲ騙取シタリトノ事又金四百五拾圓ノ證書ニ付テハ佐左衛門ニ於テ前同様金
 員騙取ノ目的ニテ鈴木重三郎ニ對シ無盡ノ金受取ルニ付保證人ニ成リ吳ヘシト欺キ承諾セシ
 メ同人ノ實印ヲ預リ阿部善太郎ノ地所ヲ抵當トシ負債主本間佐左衛門地所貸主兼保證人阿部
 久吉保證人鈴木重三郎ヨリ債主日向豐明ニ宛テタル金四百五十圓ノ借用證書ヲ偽造シ之ヲ共
 同商業損失金ノ償却ノ爲メ豐明ニ交付シタリトノ事又金千七百圓ノ證書ニ就テモ佐左衛門ハ
 前同様ノ目的ニテ鈴木重三郎本間次郎右衛門伊藤充次郎伊藤林藏ニ對シ生絲荷造會社ヲ設立
 シ横濱茂木商店ヨリ右資本金壹萬圓受取ニ付テハ親屬共ノ資力ヲ證明スル必要アリ又該社長
 ニハ日向豐明ヲ推撰スルニ付同人ヨリ安利ノ金員ヲ借受テ遣ハス杯ト申シ欺キ白紙ノ紙紙ニ
 各調印セシメ之ニ重三郎次郎右衛門充次郎林藏成之助ノ田地ヲ抵當ニ借入レ負債主本間佐左
 衛門抵當貸主兼保證人鈴木重三郎同本間次郎右衛門同伊藤充次郎同伊藤林藏同本間成之助ヨ
 リ川上鐵三郎ニ宛テタル金千七百圓ノ借用證書ヲ偽造シ之ヲ鐵三郎ニ交付シ同人ヨリ金四百
 拾六圓八拾九錢四厘ヲ騙取シタリトノ事ナレハ被上告人等ハ各證書ノ債務ニ對シ曾テ承諾チ
 與ヘシコトナキハ勿論全ク佐左衛門カ上告人チ欺ク爲メ偽造シタルニ過キサレハ該證書ニ對

シ何等ノ責務ヲ預フヘキ者ニアラサルナリ上告人ハ被上告人等カ佐左衛門ヲ輕信シテ實印ヲ貸與シ又ハ白紙ニ調印シタルコトヲ允ムレトモ上告人モ亦佐左衛門ノ言ヲ輕信シ印影ノミニ安シ之ヲ被上告人ニ確メサルノ怠慢アルコトヲ免レサルナリ要スルニ原院カ被上告人ニ其責務ナシトシ上告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ相當ノ判決ニシテ上告ハ適法ノ理由ナシ

同第二點ハ上告趣意ヲ數減スルニ過キサレハ右ニ對スル説明ニテ了解スヘシ

伊藤充次郎代理人野副重一ヨリ上告ヲ申立タルモ定期内ニ趣意書ヲ呈出セサルニ依リ該上告ハ成立セス

伊藤充次郎代理人岡崎正也岩岡伊代治カ附帶上告ノ趣意ハ原院ハ充次郎カ第一審裁判所ニ於ケル請求ハ金七百圓ノ借用證書ニ付テハ其債額ヲ二百圓ニ減少受度ト云フニ止マリ全額ノ取消ヲ求メタルニアラストノ理由ヲ以テ第一審判決ヲ取消シ日向豐明ハ伊藤充次郎カ金七百圓借用證書ノ負債額ヲ二百圓ニ減少スヘシトノ判決ヲ下サレタルハ不法ナルカ故ニ此點ノ破毀ヲ求ム何トナレハ充次郎カ第一審裁判所ニ提出シタル私訴狀ニハ原院説明ノ如キ請求ヲ爲シタルモ口頭辯論ノ際全額取消ノ請求ニ變更シタルモノナレハ第一審裁判所カ言渡シタル判決ハ何等ノ不法ナキノミナラス偽造證書ハ絶體ノ無効ニシテ其一部ノミ生存スヘキモノニアラサレハナリト云フニ在レトモ○一件記録ヲ調査スルニ第一審私訴公判始末書ニ原告ハ私訴狀ニ基キ一定ノ申立ヲ爲シカハトアルハ外請求ハ變更ヲ申立タル旨ハ記載ナカ又記録中斯ル申立書ハ存セサルニ依リハ變更ハ申立ヲ爲シカハトハコトハ之ヲ採用スルニ由ナシ裁判所ハ他

判旨第三點

ハ請求ナキ事物ハ一方ニ歸セシムルヲ得サルカ故ニ第一審裁判所カ原告ハ請求以外ハ五百圓ヲモ取消シタルハ不法ニシテ原院カ該判決ヲ取消シ更ニ其主文ハ如ク判決ヲ下シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スル左ノ如シ

日向豐明川上鐵三郎ノ上告伊藤充次郎ノ上告並ニ附帶上告共ニ之ヲ棄却ス

各上告費用ハ各上告人ノ負擔トス

明治二十九年二月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○故殺未遂ノ件 明治二十九年第一一二號
 明治二十九年二月二十八日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ上告論旨タル公訴提起ノ手續ヲ徵スヘキ書類存在セサルトキハ原判決ヲ破毀シテ公訴不受理ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 前田虎太郎 辯護人 太田資時

右虎太郎ニ對スル故殺未遂被告事件ニ付明治二十八年十二月二十六日大阪控訴院ニ於テ被告

訴訟記録ノ燒失

大審院刑事判決録

訴訟記録ノ焼失

百八

ノ控訴及原院立會檢事ノ附帶控訴ヲ受理シ審理ノ未原判決全部ヲ取消シ更ニ被告虎太郎ヲ無期徒刑ニ處シ押収物件ノ内拳銃一挺刀一本ハ之ヲ沒收シ其他ノ物件ハ各差出人ニ還付スル旨言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告虎太郎辯護人太田資時上告趣旨擴張後段ノ論旨ハ本件ノ記録ヲ調査スルニ檢事ノ公訴ナキヲ以テ受理裁判ヲ爲スヘキモノニアラス依テ本件ハ公訴受理スヘカラストノ裁判アラシトナシテ云フニ在リ○依テ之ヲ察スルニ一件記録中公訴ハ手續アリシ事蹟ヲ徵スヘキ書類一モ之レアルコトナシ原院書記ハ證明スル處ニ據レハ本件記録ハ明治二十九年一月四日大阪控訴院火災ニ罹リタル書類焼失セシヲ以テ右公訴ハ手續ニ關スル書類モ共ニ焼失セシヤモ知ルヘカラスト雖モ現ニ其書類ノ存セサル已上ハ本件ニ付起訴ハ手續アリシモハト云フ能ハス故ニ上告論旨ノ如ク公訴受理スヘカラスト旨ハ判決ヲ爲スヘキニ原院ハ本件ヲ受理シ有罪ハ判決ヲ爲シタルハ失當ナリトス既ニ此點ニ於テ右ノ説明ヲ爲ス已上ハ他ノ上告論旨ハ説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ノ全部ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

本件公訴ハ之ヲ受理セス

明治二十九年二月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

大審院刑事判決録

第二輯

第三卷

○器物毀棄ノ件

明治二十九年非常上告第一號
明治二十九年三月二日宣告

○判決要旨

器物毀棄罪ニ付重禁錮及ヒ罰金ノ制裁ヲ併科シタル裁判ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノニシテ非常上告ノ理由トナスコトヲ得

(參照) 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ第十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑法四百二十一條)

第一審裁判所ト第二審裁判所トチ間ハ法律ニ於テ間セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ受クル權アル裁判所ノ檢察ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第二百九十二條)

原裁判所 熊本地方裁判所八代支部

被告人 山下幸次

重刑ノ非常上告

重刑ノ非常上告

右幸次方毀棄器物被告事件ニ付明治二十八年五月十四日熊本地方裁判所八代支部ニ於テ被告ノ所爲ヲ有罪ト認メ刑法第四百二十一條ニ從ヒ重禁錮二十日ニ處シ罰金三圓ヲ附加スト旨渡シタル判決確定ノ後本院檢察事總長春木義彰ハ非常上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處檢察事總長非常上告ノ趣意被告ハ明治二十八年五月十四日熊本地方裁判所八代支部ニ部テ毀棄器物ノ罪ニ依リ重禁錮二十日罰金三圓ノ旨渡チ受ケ其刑已ニ確定セリ然ルニ本案刑法第四百二十一條ニ據レハ重禁錮又ハ罰金ノ刑ヲ旨渡スヘキモノナルニ重禁錮二十日罰金三圓ヲ併科シタルハ此レ刑事訴訟法第二百九十二條ニ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ旨渡シタルモノナルニ付原判決ヲ被毀シ適法ノ判決セラルヘキモノト思考シ非常上告ニ及フト云フニアリ○因テ原判決ヲ査スルニ被告ハ明治二十八年四月二十九日夜、熊本縣警察署ニ引致セラレ、留置ヘ、連レ行カレ、際、故、ヲ、ニ、手、ヲ、伸、シ、テ、同、署、廊、下、傍、側、ニ、建、テ、アリ、シ、硝子、戸、一、枚、ヲ、破、碎、シ、且、ツ、留、置、後、同、署、備、付、ハ、蒲、團、一、尺、五、寸、許、ヲ、破、毀、シ、タル、モ、ノ、ト、認、メ、刑、法、第、四、百、二、十、一、條、ニ、依、リ、被、告、ヲ、重、禁、錮、二、十、日、ニ、處、シ、罰、金、三、圓、ヲ、附、加、ス、ト、ア、リ、テ、其、判、決、既、ニ、確、定、セ、リ、然、ル、ニ、刑、法、第、四、百、二、十、一、條、ノ、明、文、ニ、依、レ、ハ、人、ノ、器、物、ヲ、毀、棄、シ、タル、者、ハ、重、禁、錮、又、ハ、罰、金、ハ、內、其、一、ヲ、科、ス、ル、ノ、法、意、ニ、シ、テ、二、者、併、科、ス、ヘ、キ、モ、ハ、ニ、ア、ラ、サ、ル、ニ、原、判、決、所、カ、重、禁、錮、罰、金、ハ、二、刑、ヲ、併、科、シ、タル、ハ、相、當、ノ、刑、ヨ、リ、重、キ、刑、ヲ、旨、渡、シ、タル、モ、ハ、ニ、シ、テ、非、常、上、告、論、旨、ノ、如、ク、破、毀、ハ、原、由、アル、モ、ハ、ト、ス、

於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

山下幸次

原裁判所カ認メタル事實ニ依リ被告ノ所爲ヲ法律ニ照スニ刑法第四百二十一條ニ該當スルヲ以テ其刑期範圍内ニ於テ被告山下幸次ヲ重禁錮二十日ニ處ス
明治二十九年三月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察事春木義彰立會宣告ス

○強盜教唆等ノ件

明治二十九年第一五一號
明治二十九年三月二日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 第一審ニ於テ沒收スヘカラサル物件ヲ沒收シタル不法ヲ看過シ原判決ノ取消ヲ爲サス反テ被告ノ控訴ヲ棄却シタル裁判ハ不法ナリトス
(判旨第二點) 第一審ニ於テ一罪トシテ處斷シタル所爲ヲ數罪ト爲シ數罪俱發例ヲ適用シ重キニ從テ處斷シタルハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナシタルモノトス

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條)

一審判決ノ取消○増罪ノ裁判

一審判決ノ取消○増罪ノ裁判

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

四

第一審 浦和地方法裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 坂本福壽 高木益太郎
小河原金十郎 花井卓藏
杉山丈助 辯護人

右福壽ノ強盜教唆金十郎ノ強盜文助ノ贓物故買被告事件ニ付明治二十八年十二月二十四日東京控訴院ニ於テ浦和地方法裁判所ノ判決ニ對スル被告等ヨリノ控訴ヲ審理シ被告福壽金十郎ノ控訴ハ之ヲ棄却ス被告丈助ノ控訴ハ之ヲ取消ス被告丈助ヲ重禁錮三年九月罰金三十七圓五錢監視二年ニ處ス各被害者ニ假下ノ贓品ハ其儘還付シ宮入榮吉ヨリ差出シタル衣類ハ同人ニ差戻シ押收ノ衣類雜品ノ内福壽丈助ナカ政行ノ所有品ハ各所有者ニ神崎龜吉服部重次耶田村小四耶方ニ遺留シアリタル物件ハ各差出人ニ還付シ其他ハ沒收ス押收ノ兇器ノ内丈助方ヨリ差押タルピストルニ挺奈長カシヨリ差押ヘタル刀福田幸右衛門方ヨリ差押ヘタル仕込杖ハ各差出人ニ還付シ其他ハ沒收スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告三名ハ各自ニ上告ヲ爲シ原院檢察長野村維摩ハ答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木益太郎同花井卓藏ノ辯論檢察官岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
小河原金十郎坂本福壽ノ辯護士高木益太郎上告辯明書第三點原判決ハ其前段ニ於テ被告ハ第一審判決ノ言渡シタル沒收ノ點ニ付テモ控訴ヲ爲シタル旨ヲ掲ケタル上理由ノ後段ニ第一審判決ハ沒收スヘカラサルモノヲ沒收シタルノ不法アルトテ認メ即チ「被害者方ニ遺留シアリタル物件ハ之ヲ各提出者ニ還付スヘキニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリト說明シナカラ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ法則ニ違反セリ云々ト云フニアリ」○因テ、原院判決ヲ查閱スルニ法律適用ノ末尾ニ「原裁判所ニ於テハ被害者方ニ遺留シタル物件ハ總テ沒收スル旨判決シタルモ被害者神崎龜吉服部重次耶田村小四耶方ニ遺留シアリタル物件ハ贓品又ハ犯罪用ノモノト認メ得ラレス又被告ノ所有品トモ認メ得ラレサルニ依リ之ヲ各提出者ニ還付スヘキニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリト雖トモ該處分タルヤ被告等ニ何等ノ利害關係ヲ及ササルニ付假令之ヲ不當ナリトスルモ他ニ瑕疵ナキ限リハ單ニ此點ノミチ以テ被告ノ控訴ヲ理由アリト謂フ能ハス而シテ被告福壽秀六金十郎ニ對スル判決ハ右沒收ノ點ヲ除キテハ他ニ不當ノ廉ナキニ依リ福壽秀六金十郎ノ控訴ハ其理由ナキモノトス然レトモ被告丈助ニ對スル判決ハ事實ノ認定法律ノ適用共ニ不當ノ廉アルヲ以テ丈助ノ控訴ハ其理由アルモノナリトアリテ原院ハ第一審裁判所カ被害者方ニ遺留シアリタル物件ヲ沒收シタル物件ハ贓品又ハ犯罪用ノモノハ又ハ被告ノ所有品トモ認メ得ラレサルニ依リ提出者ニ還付スヘキ答ナルニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリトノ點ヲ判示シナカラ被告等ニ何等ノ利害ヲ及ササルニ付云々トハ理由ナシ被告等ハ控訴ヲ棄却シタルハ失當ナリトス何トナレハ刑法第十條ノ規定ニ依リテ沒收ハ附加刑ハ一ナルニ依リ苟モ原裁判所カ沒收スヘカラサル物件ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ヲ認メタル上ハ直ニ其判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキハ當然ナレハナリ然ルニ原院ハ裁判茲ニ出テス前陳ノ理由ヲ付シ控訴棄却ノ言渡シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ判決タルヲ免レサルモノトス」

判旨第一點

ル物件ハ之ヲ各提出者ニ還付スヘキニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリト說明シナカラ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ法則ニ違反セリ云々ト云フニアリ」○因テ、原院判決ヲ查閱スルニ法律適用ノ末尾ニ「原裁判所ニ於テハ被害者方ニ遺留シタル物件ハ總テ沒收スル旨判決シタルモ被害者神崎龜吉服部重次耶田村小四耶方ニ遺留シアリタル物件ハ贓品又ハ犯罪用ノモノト認メ得ラレス又被告ノ所有品トモ認メ得ラレサルニ依リ之ヲ各提出者ニ還付スヘキニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリト雖トモ該處分タルヤ被告等ニ何等ノ利害關係ヲ及ササルニ付假令之ヲ不當ナリトスルモ他ニ瑕疵ナキ限リハ單ニ此點ノミチ以テ被告ノ控訴ヲ理由アリト謂フ能ハス而シテ被告福壽秀六金十郎ニ對スル判決ハ右沒收ノ點ヲ除キテハ他ニ不當ノ廉ナキニ依リ福壽秀六金十郎ノ控訴ハ其理由ナキモノトス然レトモ被告丈助ニ對スル判決ハ事實ノ認定法律ノ適用共ニ不當ノ廉アルヲ以テ丈助ノ控訴ハ其理由アルモノナリトアリテ原院ハ第一審裁判所カ被害者方ニ遺留シアリタル物件ヲ沒收シタル物件ハ贓品又ハ犯罪用ノモノハ又ハ被告ノ所有品トモ認メ得ラレサルニ依リ提出者ニ還付スヘキ答ナルニ之ヲ沒收シタルハ不當ナリトノ點ヲ判示シナカラ被告等ニ何等ノ利害ヲ及ササルニ付云々トハ理由ナシ被告等ハ控訴ヲ棄却シタルハ失當ナリトス何トナレハ刑法第十條ノ規定ニ依リテ沒收ハ附加刑ハ一ナルニ依リ苟モ原裁判所カ沒收スヘカラサル物件ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ヲ認メタル上ハ直ニ其判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキハ當然ナレハナリ然ルニ原院ハ裁判茲ニ出テス前陳ノ理由ヲ付シ控訴棄却ノ言渡シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ判決タルヲ免レサルモノトス」

一審判決ノ取消○増罪ノ裁判

五

一審判決ノ取消○増罪ノ裁判

六

被告丈助ノ辯護士花井卓藏ノ上告趣意擴張書ノ第一點本件ニ付第一審裁判所ハ「被告杉山丈助ハ明治二十六年二月以降同年六月マテノ間岸庄太郎等カ強姦盗ノ情ヲ知り乍ラ其事犯ノ都度阪本福壽ヨリ同人方若クハ自宅ニ於テ買受ケタリ」ト認定シ刑法第三百九十九條同法第四百條ヲ適用シテ之ヲ處斷セリ而シテ此判決ノ主趣ハ明ニ本件ノ所爲ヲ以テ一罪ト爲シタルニアリ然ルニ原院ノ判決ハ全ク之ニ反シ本件ノ所爲ヲ以テ十罪各自ニ成立スヘキ者トシテ數罪俱發ノ例ニ則リ刑法第百條ニ從ヒ犯情重キ最終ノ所爲ニ依リ處斷スヘキ者ト判決セリ右ハ一罪ヲ十罪ト爲シタルモノニシテ犯罪ヲ増加シタルモノトス然ルニ本件ハ被告人ノ控訴ニ係リ不利益ノ變更ハ法律ノ許サレ所ナリ果シテ然ラハ此點ニ對スル原院ノ裁判ハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ法則ニ背戾セル不法アリト云フニアリ○因テ第一審、第二審、判文、ヲ查閱スルニ第一審ハ被告丈助カ贓物故買ノ所爲ハ之ヲ一罪トシテ處斷シ第二審ハ同所爲ヲ數罪トシテ處斷シタルモノナル下ハ二個ハ判文ニ徴シ明カナリトス而シテ本件ハ被告人ハミハ控訴ニ係ルハ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ從ヒ原判決ヲ被告人ハ不利益ニ變更スルヲ得サルハ勿論ナリトス然ルニ原院ハ判決茲ニ出テ第一審カ一罪トシテ處斷シタル所爲ヲ數罪トナシ數罪俱發ノ例ヲ適用シ重ニ從テ處斷シタルハ即チ原判決ヲ被告ハ不利益ニ變更シタルモノニシテ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ所謂法則ヲ適用セサル不法ハ裁判タルヲ免レサルモノトス右ニ說明セシ如クニシテ被告三名ノ上告ハ破毀ノ理由アリト認メタル上ハ他ノ上告點ニ付テハ一々說明ヲ與ヘス

判旨第二點

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治二十九年三月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官文書偽造行使ノ件

明治二十九年第一六九號
明治二十九年三月二日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 官ニ於テ作成スヘキ文書ニ擬シテ偽造ノ所爲ヲ行ヒ而シテ其文書タル人ナシテ官文書ト誤信セシムルニ足ルモノナルトキハ則チ官文書偽造罪ヲ構成ス而シテ實際上果シテ之ト同一ノ文書アリシヤ否ヤハ敢テ問フ所ニアラス

(參照) 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條一項)

(判旨第二點) 其職ニアラスシテ擅ニ官ノ文書ヲ偽造シタル上ハ其目的權利ノ回復ニ在ルヲ口實トナシ惡意ナキ證據ト爲スヲ得ス

官文書ノ擬成○權利恢復ノ口實

官文書ノ擬成○權利恢復ノ口實

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 庄司元亨

明治二十九年一月二十一日東京控訴院ニ於テ右元亨ニ對スル官文書偽造行使被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告趣意書第一第二ハ明治二十一年四月十日ノ大審院判決ニ凡ソ官文書偽造罪ニハ其文書ノ体裁アルコト及之ニ模擬シタリト看認ムヘキ官署ノ用紙若クハ押印アルヲ要スレトアリ然ルニ原判文ニハ單ニ郵便端書ノ裏面ニ活字ヲ以テ東京地方裁判所檢察局ノ名義ヲ用ヒ來ル二十八日出頭スヘキ旨ノ呼出ノ通知書ヲ偽造シ云々トノミ判示シ此判旨ニ依レハ右郵便端書ハ原院ニ於テモ東京地方裁判所檢察局ニ於テ用ユル所ノ呼出狀ニ模擬シテ之ヲ造リタルニアラスシテ被告ノ立案ニ成リタルモノト認メラレタルコト明瞭ナリ又實際ニモ此ノ如キ呼出狀ハ非サルヘシ故ニ人ヲシテ之ヲ官ノ文書ト誤信セシムルコト能ハサルモノナルニモ拘ラス原院ニ於テ前掲ノ判決例ニ背キ之ヲ官文書偽造ノ罪アルモノト判決シタルハ疑律錯誤ナリト云フニ在

レトモ○原院カ認メタル所ハ被告ハ所爲ハ東京地方裁判所檢察局ハ文書ニ擬シテ偽造シタルモノハト爲スニ在ルハ上告人カ摘示セル前掲原判文ニ依ルモ自ラ明カナリ已ニ官ニ於テ作成シタルモノハ擬シテ偽造ヲ爲シ人ヲシテ之ヲ官文書ト誤信セシムルニ足ルモノハナルトキハ則官文書ハ偽造ニシテ實際上果シテ同一ハ文書アリタルヤ否ハ敢テ問フヘキ所ニアラス而シテ該

判旨第一點

文書ハ人ヲシテ官文書ト誤信ヒシムルニ足ラスト云フハ上告人カ裁判官ト事實ノ認定ニ付キ意見ヲ異ニスルニ過キサルヲ以テ是等ハ固ヨリ原判決ヲ攻撃スル理由トナラス又上告人カ引用セル明治二十一年四月十日ノ本院判決ニハ「凡ソ官文書偽造罪ニハ(中略)之ニ模擬シタリト看認ム可キ官署ノ用紙若クハ押印アルヲ要ス」云々トアレトモ其後右用紙若クハ押印アルヲ必要ト爲サイル判決アリテ右解釋ハ已ニ變更シタルヲ以テ採テ上告ハ證據ト爲サテ得ス同第三乃至第五ハ被告ノ所爲ハ原院カ認メタル如ク其目的自己ノ權利ヲ回復セントスルニ在テ而シテ此目的ハ訴訟ニ依リ法律ノ保護ヲ受クルノ途アルヲ以テ故ラニ法律ヲ犯スノ意思ヲ生ス可キ謂レナク即全ク惡意ナキモノニシテ惡意ヲ要スル犯罪ノ要素ヲ欠キタルモノナリト云フニ在

レトモ○其職ニ在ラズシテ擅ニ官ノ文書ヲ偽造シタル上ハ單ニ其目的權利ハ回復ニ在ルチ口實トナシ惡意ナキ證據ト爲サテ得ス本論旨モ畢竟裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

官文書ノ擬成○權利恢復ノ口實

○恐喝取財ノ件

明治二十九年第一七六號
明治二十九年三月三日宣告

○判決要旨

數人共謀ノ事實アル以上ハ其共謀者中何人カ之ヲ實行スルモ共謀者一體ノ行爲ナリトス

第一審 東京地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 吉田金太郎

辯護人

花井卓藏
羽田彦四郎

右金太郎カ恐喝取財被告事件ニ付明治二十九年一月十七日宮城控訴院ニ於テ大審院ノ移送ニ係ル東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理シタル末第一審判決ヲ取消ス被告金太郎ヲ重禁錮三年罰金二十圓監視一年ニ處スト旨渡シタル判決ニ服セスシテ被告ハ上告ヲ爲シ之カ破毀ヲ求メ原院檢察ハ上告適法ノ理由ナキ旨答辯シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告上告趣意第一點ノ要旨ハ原判文中恐喝ノ事實トシテ掲ケタル者ハ虎造又ハ英之助ノ所爲ノミニ係リ上告人ノ所爲トシテ掲ケタルモノ一モ之アラヌ又上告人ハ虎造及ヒ英之助等ト共謀シ云々トアルモ其共謀ノ事實ヲ掲ケアラス乃チ原判決ハ恐喝及ヒ共謀ノ事實ヲ明示セサル不法アル者ナリ又原判決ニ虎造カ金五圓ヲ騙取シタル事ヲ認メアリ然レハ上告人ハ虎造ノ恐喝取財ノ所爲ヲ幫助シタルモノト論シ得ヘキモ恐喝取財者ナリトハ論スル事ヲ得サルヘシ然

ルニ刑法第三百九十條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判文中附スルニ被告金太郎ハ云々虎造及ヒ第一審ノ相被告永堀英之助等ト相謀リ右單衣ノ寸法ニ相違アリト稱シ前掲狩野惣兵衛ヲ恐喝シ金員ヲ騙取セント企テ先ツ虎造ハ大丸屋出店ニ趣キ衣類ノ寸法ニ相違アル旨ヲ申聞ケ云々ト既キ起シ其以下ニ總テ其實行ハ手段方法ハ狀況ヲ掲ケアルニ依レハ上告人ハ總テハ實行方法即チ共謀者中何人カ何ノ局ニ當リ何ヲ演ズル等ハ事マテ共ニ相謀リ決行シタルコト明白ナリトス其レ斯ハ如ク共ニ謀リテ事ヲ行フ以上ハ何人カ局ニ當ルモ其行爲ハ共謀者一體ノ行爲ニ外ナラスシテ虎造英之助カ恐喝取財ハ所爲ハ乃チ上告人ハ所爲タルヤ勿論ナリ故ニ原判決ハ共謀恐喝取財ノ事實ニ於テ欠カアルニアラス又上告人ニ對シ刑法第三百九十條第一項ヲ適用シタルハ決シテ擬律ノ錯誤ニアラスシテ上告論旨ハ其理由ナシ同第二點ノ要旨ハ原判決第二ノ事實ニ實吉ヲ恐喝シ金圓ヲ騙取シ來ルヘシト教唆シ云々ト記載シ教唆ノ文字ハ用ヒアルモ其文ノ冒頭ニ被告金太郎ハ右ノ如ク恐喝其圖ニ當リタルヲ奇貨トシ云々ト起シ來リテ結末ノ文ニ至ル迄全體總テ上告人カ松澤文明等ヲ使喚シテ恐喝取財ヲ爲サントシタル事實ヲ論シタル精神ナリ然レハ上告人ノ事實ハ教唆者ヲ以テ論スヘキ者ニアラスシテ恐喝取財ノ當行者ヲ以テ論スヘキ者ナリ然ルニ法律適用ニ至リ刑法第百五條ヲ適用シ教唆者トシテ之ヲ論シタルハ擬律ノ錯誤アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判文中通讀スルニ被告カ文明ヲ教唆シタル事實ヲ認メアルモ被告自ラ恐喝取財ヲ行フカ爲ニ文明ヲ使用シタリトノ事實ハ毫モ認メアラス只其敘事ノ冒頭ニ奇貨云々ノ語アリテ被告自ラ利用

スルガ如キ語氣アルモ個ハ被告カ教唆ヲ爲スノ原因ハ先キニ一回ノ經驗アリシニ依ルトノ事
 ナ言ヒタルニ過キス本論旨モ亦理由ナシ
 辯護士花井卓藏カ擴張趣意第一點ノ要旨ハ原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告ノ意思ハ狩野惣兵
 衛ヲ恐喝スルニ在リテ其實行ハ市川寅吉ニ對シ騙取ノ所爲ヲ行ヒタルモノナリ從テ原院ハ意
 思ニ伴ハサル實行ヲ罰シタル不法アルモノト信ス如此場合ニアリテハ相當ノ理由ヲ付シ尙ホ
 法律ノ制裁ヲ免レサル所以ヲ說明セサル可カラズ然ルニ原判決爰ニ出テサルハ理由不備ノ瑕
 疵アルモノト信スト云フニアレトモ○狩野惣兵衛ハ大丸屋出店主ニシテ被告等カ同家ヲ威迫
 シタル後永堀英之助カ名ヲ仲裁ニ籍リ同家雇人ノ同行ヲ求ムルニ當リ其仲裁談判ニ應スル爲
 メ命ヲ受ケテ同行シタル同家ノ雇人ハ市川寅吉ニシテ寅吉ハ惣兵衛ノ代理人タルヲ判文上自
 ラ明白ナレハ寅吉ヨリ金ヲ出サシメタルハ即チ惣兵衛ヨリ金ヲ騙取シタルニ外ナラサルナリ
 故ニ原判決ハ論旨ノ如キ不法アルコトナシ同第二點ノ要旨ハ原判決ハ上告人ノ共謀ノ事實ヲ認
 メタルモ騙取ノ手段行爲ヲ以テ悉ク英之助虎造カ干與シタルモノト斷定セリ然レハ上告人ハ
 法律上何等ノ制裁ヲモ被ムルヘキモノニアラス然ルニ原院カ恐喝取財ノ法條ヲ適用シテ有罪
 ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコ
 トハ被告上告趣意第一點ノ說明ニ依リ了解シ得ヘキヲ以テ茲ニ贅セス同第三點ノ要旨ハ第二
 ノ被告事件ニ付原判決ハ三月十八日ノ教唆ハ被害者不在ノ爲メ其功ヲ奏セサリシコトヲ認メ
 アレトモ三月十九日ノ所爲ニ對シテハ何等ノ教唆ヲ爲シタル事實ヲ認定セス原院ハ之ヲ三月

十八日ノ教唆ヲ繼續シタルモノトスルカ果シテ然ラハ其然ル所以ノ理由ヲ付セサルヘカラス
 然ルニ原判決一言ノ之ニ及ハサルハ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○然レトモ
 原判決ハ三月十八日松澤文明ハ被告ノ教唆ニ依リ被害者方ニ趣キタルモ被害者不在ノ爲メ其
 事ヲ果サス翌十九日ニ於テ實行シタル事ヲ認メアリテ文明カ十九日ノ行爲ハ十八日ニ於ケル
 被告ノ教唆ノ結果ナルコトハ一讀判然ニシテ毫モ疑ナ容ルヘキ所ナケレハ原判決ハ事實理由
 ノ不備アルニアラス同第四點ハ原判決ハ其第二項ニ於テ被害者ハ果シテ請求ニ應スル意思ア
 リシヤ否ヤ又災害ヲ蒙ルヘク長怖心ヲ抱キシヤ否ヤノ事實ニ至リテハ一モ明瞭スル所ナシ本
 件ニ於テ道般ノ事實ヲ宣明スルハ最モ緊要ナリト信ス何トナレハ被害者ニ於テ請求ニ應スル
 ノ念ナク災害ヲ加ヘラルハノ恐レテ懷カサレハ到底上告人等ハ其目的ヲ達シ得ヘカラサレハ
 ナリ而シテ當初ヨリ目的ノ達シ得ヘカラサル不能ノ犯罪ニ未遂罪ノ成立セサルハ法理ノ通則
 ナレハナリ原判決ハ此點ニ於テ理由不備ノ瑕疵アル者ト信スト云フニ在レトモ○原判文ニ「文
 明ハ云々金太郎ノ子分太田龜吉ヲ率ヒ該家ニ至リ寅吉ニ對シ云々金圓ハ貸セシニ相違ナキヲ
 以テ是非トモ返金セヨ返金セサレハ徹夜スルモ引取ラス已ノ親方ニハ子分ノ百五十人モアリ
 テ云々警察杯ハ恐ルハニ足ラス訴ヘルナラ訴ヘテ見ヨト高聲ヲ發シ且ツ手腕ヲ露ハシ請求ヲ
 容レサルニ於テハ直チニ打掛ランス勢ヲ示シ以テ金圓ヲ騙取セント爲シタルモ早ク已ニ巡查
 ノ逮捕スル所トナリ其目的ヲ達セサリシ者ナリトアリテ文明カ普通ノ人ナシテ長怖ノ念ヲ起
 サシムルニ足ルヘキ言動ヲ以テ寅吉ヲ恐喝シタル事實ハ明カナレハ之ヲ以テ不能犯ナリト豫

斷ス可カラサルハ勿論ナリ而シテ文明カ此言動ヲ以テ恐嚇シツ、アリテ未タ實吉ヲシテ金圓ヲ出サシムルニ至ラサル間ニ在リテ巡查ノ爲メニ妨ケラレ目的ヲ遂ケサリシト云フニアレハ恐喝取財未遂ノ事實ハ充分ニシテ原判決ハ辯護士所論ノ如キ不法アルニアラス

辯護士羽田彦四郎擴張趣意第一ノ第一點ハ被告ノ上告趣意第一點ト其歸着ヲ同フシ其第二點ハ辯護士花井卓藏ノ第一點ノ趣旨ト同一ナレハ再ヒ說明スルノ要ナシ

同第二ノ第一點ハ第一審ニ於テ相被告タリシ松澤文明ノ豫審調書ハ先ニ當院ニ於テ無効ノモノトセラレタルカ故ニ被告カ右文明ヲ教唆シテ金員ヲ詐取セントシタル事實ハ他ニ之ヲ觀ルヘキモノナシ原院ノ採用セル太田龜吉中村吉五郎ノ調書及ヒ被告ノ申立ニ依ルモ見ルヲ得サルノミナラス右等ノ調書ハ反テ被告ニ於テ文明ヲ使喚シタル反對ノ事實ヲ觀ルニ足ル然ルニ原院カ此點ニ對シ刑法第百五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ被告ハ當然無罪タルヘキモノナリト云フニ在リテ

○要スルニ名ヲ擬律錯誤ニ籍リ原院ノ職權ニ存スル事實ノ認定證據ノ採擇ヲ非難スルニ過キスシテ適法上告ノ理由ナシ同第二點ハ假リニ被告ニ教唆ノ所爲アリトセンカ原院ハ宜シク詐欺取財ノ本條ヲ適用シテ處斷セサル可カラス然ルニ原院ハ「第百五條ニ基キ別記兩條ヲ適用シ」云々ト判決シタリ其別記兩條トハ何レノ條ナリヤ之ヲ觀ルコトヲ得ス法律ノ適用ハ之ヲ明確ニセサレハ其効力ヲ有セサル事ハ論ヲ俟タス之レ擬律ニ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ

○原判決原本ヲ閱スルニ其法律ノ理由ノ部ニ「第一ノ所爲ハ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該當シ第二ノ所爲ハ教唆ニ係ルヲ以テ同第百五條ニ基キ前記

兩條ヲ適用シ尙ホ未遂ニ依リ同第三百九十七條第百十二條ニ照シ云々トアリテ別記兩條トハ記載シアラス而シテ其前記兩條トハ其前掲ノ兩條即チ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ノ謂ヒナルコト明カニシテ擬律上何等不法ノ點アルコトナシ要スルニ本論旨ハ判決原本ノ誤讀又ハ判決原本ノ誤寫ニ基キタルニアレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲ルヘキニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十九年第一九九號
明治二十九年三月三日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第九十二條ノ法則ハ豫審判事自ラ被告人等ヲ訊問シタル場合ニ於ケル調書ニ適用スヘキモノニシテ其他ノ文書ハ固ヨリ同條ノ法式ニ據ルヘキモノニアラス

豫審判事證據ヲ蒐集スルニ當リ始末書若クハ上申書ヲ徵スルハ法律ノ禁スル

調書以外ノ文書○始末書

所ニアラス

(参照) 豫審判事臨檢搜索物件差押又ハ被告人證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシムヘシ前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其効ナカル可シ(刑事訴訟法第九十二條)

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院
被告人 河合徳三郎

右徳三郎ニ對スル恐喝取財被告事件ニ付明治二十九年一月二十四日宮城控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告人ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金六圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス犯罪供用ノ委任狀ハ之ヲ沒収シ其他ノ押収物ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ニ服セス原院檢察長犬塚盛雄及ヒ被告人ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

原院檢察長犬塚盛雄上告趣意ハ本件事實タル被告徳三郎ハ辯護士木村熊三郎ノ事務員ナル處熊三郎ニ於テ訴訟事件ニ付渡邊勘之助ナル者ノ依頼ヲ受居ナカラ猶又其對手人タル遠藤省三ヨリ同一事件ノ依頼ヲ請シ双方ヲ隔着シ省三ニ約シタル謝金ヲ請求スルニ際シ被告徳三郎ハ

之ニ同意シ省三ヲ恐喝スル行爲ヲ幫助シ共ニ金員ヲ騙取シタルモノニシテ其事實ハ當院判決ニ認メタル所ノ如シ故ニ第一審判決ハ事實ノ認定法律ノ適用共ニ失當ノ點アルコトナシ然ルニ當院ニ於テ第一審判決ヲ取消シタル理由ヲ視ルニ佐藤作次郎ノ始末書ハ豫審判事ノ尋問ヲ受ケ差出タルモノナレハ其名ハ始末書トアルモ其實訊問ヨリ成立タル調書ニ外ナラス既ニ訊問調書タル以上ハ刑事訴訟法第九十二條ノ法式ヲ履行セサルヘカラサルモノナルニ其法式ヲ履行セサルハ法律ニ背キタル無効ノ調書ナレハ之ヲ探テ斷罪ノ證ト爲シタルハ第一審判決モ亦失當ヲ免カレスト云フニアリ抑モ豫審判事ハ現行犯非現行犯ヲ論セス證據ノ蒐集ニ就キ付與セラレタル全能ノ職權ヲ有スル此ニ喋々スルハ俟タス自ラ之ヲ訊問シテ以テ調書ヲ作製スルト或ハ始末書ヲ徴シ又ハ上申書ヲ收受スル等臨機宜シキニ應スヘク其親ラ訊問シテ之カ取調ヲ爲スニ當リ刑事訴訟法ニ定ムル處ノ法則ヲ遵守スヘキノ外徵憑ノ一部トナシ又ハ參考ノ料トシテ始末書ヲ徴シ上申書ヲ收受スルハ固ヨリ職權上自由ニシテ決シテ他ニ羈束セラレヘキモノニアラス且始末書上申書ノ如キハ刑事訴訟法第九十二條ノ法式ヲ適用スヘキ限リニアラサルヲ論テ俟タサル處ナリ既ニ前論ノ如ク豫審判事ハ取調上全能ノ職權ヲ有スルモノナレハ彼ノ司法警察官カ非現行犯事件ニ對スル訊問ヨリ成立タル始末書ノ無効ニ屬スル例ヲ執テ此ニ引用スヘカラサルコト亦以テ明カナリ又第一審ニ於テ本始末書ヲ以テ證人ノ證言トシテ採用シタルニアラサルコトハ判文上是亦明瞭ナリトス以上ノ如ク本始末書ハ固ヨリ違法無効ノモノニ非サルヲ以テ第一審ニ於テ之ヲ採用シタルハ相當ニシテ毫モ瑕瑾ナキモノナリ然ル

ニ當院ハ法律ヲ不當ニ適用シ以テ瑕疵ナキ第一審判決ヲ取消シタルハ却テ失當ノ判決ナリト謂ハサルヘカラスト云フニ在リ。○依テ按スルニ刑事訴訟法第九十二條ハ豫審判事自ラ被告人等ヲ訊問シタル場合ニ於テ作ルヘキ調書ニ適用スヘキ法規ニシテ訊問ヲ爲サズ單ニ尋子タル事項ニ付書類ヲ徴スルカ如キ場合ニ在テハ其書類ハ訊問調書ニアラサルヲ以テ固ヨリ同條ハ法式ニ據ルノ要ナシ而シテ豫審判事カ證據ヲ蒐集スルニ當テ始末書若クハ上申書ハ如キモハヲ徴スルコトハ之ヲ禁スルハ法規アルコトナケレハ其書類ハ不法ニシテ無効ナリト云フコト能ハサルハ又明白ナリ故ニ第一審裁判所カ佐藤作次郎ノ豫審判事ニ宛テ呈出シタル始末書ヲ證恐トセシハ之ヲ不法ト云フヘカラス

然ルニ原院ハ右始末書ヲ刑事訴訟法第九十二條ノ法式ヲ欠ク不法無効ノモノナリトシタルハ即チ同條ノ規定ヲ不當ニ適用シタルモノト云フヘシ隨テ原院カ右規定ノ不當ノ適用ニ依リ第一審判決ヲ取消シタルハ本上告論旨ノ如ク不法ノ判決ニシテ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキ理由アルモノト認ムル以上ハ被告ノ上告趣意ニ付テハ殊ニ説明セス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス

明治二十九年三月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○有夫姦ノ件

明治二十九年第二一六號
明治二十九年三月三日宣告

○判決要旨

親告罪ニ付告訴ノ拋棄ヲ待テ公訴權ノ消滅スルハ公訴提起ノ前後ニ依リ其効力ニ區別ヲ生スルモノニアラス

有夫姦被告事件ニ付控訴審理中被害者タル本夫ヨリ告訴取消願ヲ提出スルトキハ公訴權ハ當然消滅ニ歸ス

(參照) 有夫ノ姦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ(刑法第三百五十三條)

公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス(刑事訴訟法第六條一項)

告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄(同條二號)

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 橋大三郎

告訴ノ拋棄〇告訴取消願

告訴ノ拋棄○告訴取消願

右有夫姦被害事件ニ付明治二十九年一月三十一日大阪控訴院ニ於テ被告ノ控訴審理中相姦者ノ本夫ヨリ告訴取消願ヲ提出シタルニ依リ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ免訴シタル判決ニ對シ同院檢察事長林誠一ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ要ハ抑モ姦通罪タル獨リ本夫ノ名譽ノミヲ損スルモノニアラスシテ固ヨリ社會ノ秩序ヲモ害スルモノタリト雖モ之ヲ親告罪トシ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル所以ノモノハ蓋シ本夫ノ意思ニ反シ事實ノ存在ヲ公認スルトキハ其榮辱ニ關スルノ事情アルヲ慮リ即チ被害者ノ名譽ヲ保護スルノ趣旨ヨリ之ヲ訴追スルニハ先ツ其告訴ヲ要シタルニ過キスシテ處分權ヲ被害者ニ屬セシメタルノ法意ニアラサルナリ本件タル始メ本夫ノ告訴ニ依リ訴追ヲ受ケ相姦者加地ヲサノ如キハ第一審判決ニ服罪確定シタルモノニシテ被告大三郎ノ犯罪事實ハ該確定判決ノ公認スル所ナリ故ニ該告訴願下ノ當時假令被告大三郎ニ對スル判決上訴中ニ係ルト雖モ素ヨリ無効ノ願下ニシテ治罪上何等ノ結果ヲ生セサルヤ敢テ疑ヲ容レサル處ナリ要スルニ原院ハ本案訴訟進行ノ程度ヲモ審查セス單ニ被害者カ告訴願下ヲ爲シタルノ一事ヲ理由トシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ所謂法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決タルヲ免レスト云フニアリ○然レトモ刑事訴訟法第六條第二ニ於テ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ハ拋棄ヲ以テ公訴權ハ消滅ト爲シタルハ公訴提起ハ前後ニ依リ區分アルモノニアラスシテ被告人ハ死去刑ハ廢止又ハ大赦等ハ場合トモ異ナルコトナシ故ニ本件姦罪被告事件ニ付テモ控訴ハ

審理中本夫ヨリ告訴取消願ヲ提出シタル上ハ當然公訴ハ消滅ニ歸シタルモノナレハ原院ニ於テ被告大三郎ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ハ判決ニシテ違法ハ點アルコトナシ依テ上告論旨ハ適法ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十九年三月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢察事安居修藏立會宣告ス

○私訴々訟費用確定決定ノ件

明治廿九年抗告第五號
明治廿九年三月五日決定

○決定要旨

私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノニアラス

私訴ニ關スル抗告期間ハ民事訴訟法ノ規定ニ基キ七日以内ナリトス

(參照) 私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ(刑事訴訟法第(二百一)條二項)

裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ計算書ヲ付與シテ裁判所ノ定ムル期間内ニ陳述ヲ爲スヘキ旨ヲ之ニ催告スルコトヲ得此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ

私訴費用ノ負擔○私訴費用ノ抗告

得(民事訴訟法第)

即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ此期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス(民事訴訟法第四百)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

抗告人 小島貞雄 代理人 利光鶴松

被抗告人 村田信十郎

右抗告人ヨリ被抗告人ニ係ル私訴々訟費用確定決定ノ申請ニ對シ横濱地方裁判所刑事第一部ニ於テ明治廿八年十月四日抗告人請求ノ通り金四百八圓九十九錢ヲ被抗告人ノ負擔スヘキモノト決定シ其後同年十二月七日右訴訟費用確定金額ヲ變更シ金二百八十二圓六十九錢ト更正シタル處抗告人ハ之レニ對シ東京控訴院ニ抗告申立ヲ爲シ同院ニ於テ本件抗告ハ之ヲ棄却スト決定シタルヲ不法ナリトシ抗告人ハ更ニ抗告申立ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百九十七條ノ式ニ從ヒ檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
本件ハ抗告人ヨリ被抗告人ニ係ル私訴々訟費用確定決定ノ申請ニ對シ横濱地方裁判所刑事第一部カ抗告人請求ノ通り金四百〇八圓九十九錢ハ被抗告人ノ負擔トスト決定シタルヲ被抗告人ノ抗告ニ依リ該決定ヲ變更シ異ニ當裁判所カ與ヘタル訴訟費用確定額金四百〇八圓九十九

錢ヲ金二百八十二圓六十九錢ト更正スト決定シタルニ服セス抗告人ヨリ東京控訴院ニ抗告ヲ爲シタルニ同院ニ於テハ刑事訴訟法第二百九十五條ニ規定セル抗告ノ期間内ニ申立ヲ爲サハルトノ理由ヲ以テ該抗告ヲ棄却シタルニ對シ抗告人ハ本件ノ抗告ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニアラスシテ民事訴訟法第四百六十六條第二項ニ依ルヘキモノトシテ再抗告ヲ爲シタルモノナリ○因テ審按スルニ刑事訴訟法第二百一條未項私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノハニシテ刑事訴訟法ニ依ルヘキモノニアラス而シテ民事訴訟法第八十五條未項及ヒ同法第四百六十六條第一項ノ規定ニ依リテ抗告ハ期間ハ七日内ナリトストアリ抗告人ハ其期間内即チ裁判ノ送達ヨリ七日以内ニ抗告申立ヲ爲シタルコトハ訴訟記録ニ徴シ分明ナレハ原院カ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ抗告人ハ抗告ヲ形式上不適法ナリトシテ棄却シタルハ違法タルヲ免レサルモノトス而シテ本件ハ抗告人ハ實質上再抗告ノ理由ト全ク關係セサルモノハニシテ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノトス因テ本件再抗告ハ適法ハ理由アリトス

以上ノ理由ナルニ依リ民事訴訟法第四百六十四條ノ規定ニ則リ東京控訴院ノ決定ヲ廢棄シ同院ニ委任シテ更ニ裁判セシム

明治廿九年三月五日於大審院第二刑事部

○虚偽負債増加ノ件

明治二十九年三月五日宣告

○判決要旨

家資分散ノ際虚偽ノ負債ヲ増加シタル罪ノ成立ニハ家資分散ノ決定アルヲ必要トセス

(参照) 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑法第三百八)

民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲ス可シ(家資分散項一)

第一審 宮崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 長野吉次郎

明治二十八年十二月十四日長崎控訴院ニ於テ右吉次郎外一名ニ對スル虚偽負債増加被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ(中略)被告吉次郎ヲ重禁錮二月ニ處ス押収ノ證書等ハ總テ其差出人ニ還付スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告吉次郎ハ上告ヲ爲シ原院檢察長大島貞敏ハ答辯書ヲ差出シタリ本院ニ於テ裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

被告人上告趣旨ハ家資分散ノ決定カ本件犯罪構成ノ一要素タルハ勿論ナリトス故ニ其決定カ檢察ノ起訴後ニ生シタル場合ニ於テハ檢察ノ起訴ハ其効力ヲ起訴後ニ生スル所爲ニ迄及ホスモノニアラサルカ故裁判所ハ不告不理ノ原則ニ依リ當然無罪ノ言渡ヲ爲サル可カラサルモノナリ況ンヤ本件ノ如キハ第一審判決ノ後即控訴中ニ於テ家資分散ノ決定アリタルモノナルニ於テオヤ然ルニ原院カ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ○而シテ原院ニ於テモ其判決未文ニ是故ニ原裁判所カ家資分散決定前ニシテ要素ヲ闕キタリト理由ヲ以テ無罪ヲ言渡タル其判決自體ニハ瑕疵ナキモ其判決言渡後家資分散ノ決定アリタルヲ以テ結局檢察ノ控訴ヲ理由アルモノトシ云々ト判示シ家資分散ノ決定ヲ以テ本件犯罪構成ノ一要素ト認メタリ然レトモ刑法第三百八十八條ニ家資分散ハ際云々トアルハ明治二十三年法律第六十九號家資分散法施行ノ後ニ在テハ其第一條前段ハ事實即分散ノ事實アルハ足ルモノニシテ必シモ其分散ハ決定アルヲ要セサルモノト解釋セサルハカラス何トナレハ右家資分散法ハ手續ハ舊時行ハレタル身代限規則ト其趣キチ異ニシ分散決定ニ先チ已ニ分散ノ事實ヲ顯スモノニシテ其決定ハ只々同法第四條ノ公權喪失ハ効力ヲ生セシムル爲メハミナレハナリ故ニ分散ノ決定ヲ以テ本件犯罪構成ノ一要素ト爲スハ誤謬ハ見解ニシテ原院カ此誤謬ハ見解ヲ以テ判決ノ理由ト爲シタルハ畢竟法則ヲ不當ニ適用シタル不法ナルヲ免カレズ已ニ此點ニ於テ原判決ハ全部破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ他ハ説明ヲ要セス因テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

原判決中被告吉次郎ニ係ル部分ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴院ニ移ス
明治二十九年三月五日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○強盜ノ件

明治二十九年第一八六號
明治二十九年三月五日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ス
コトヲ許サストアル原判決トハ第二審ノ場合ニ於テハ即チ第一審判決ヲ指ス
モノナレハ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ其事件ヲ乙控訴院ニ移シタ
ル場合ノ如キハ甲控訴院ノ判決ハ原判決ナル法文中ニ包含ス可キモノニアラ
ス

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被
告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦
同シ(刑事訴訟法第二百六十五條)

第一審 東京地方裁判所

第二審 函館控訴院

被告人 武田末吉

辯護人

渡邊要三郎
高木益太郎

右強盜被告事件ニ付明治二十九年二月六日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨ
リ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長山本昌行ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三
條ノ定式ヲ履行シ辯護士渡邊要三郎高木益太郎ノ辯論檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スル左
ノ如シ

上告趣意第一點ハ原判決ニ金錢在中ノ包ナラント思考シ云々トアルハ法律ニ違背シタル不法
ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右ノ説明ハ法律ニ違背シタル廉アルコトナシ第二點ハ豫審決
定書正本一枚目十七行中ニ前ノ字ノ削除アルモ認印ナク又二枚目三行中及十一行中ニ文字ノ
改竄アリテ違法ノ決定ナルニ之ニ基ヒテ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○豫審
決定原本ヲ査閱スルニ上告論旨ノ如キ違法ノ廉ナキヲ以テ其決定正本ニハ違法アリトスルモ
之ヲ以テ豫審決定ノ瑕瑾ト爲スヘカラス第三點ハ本件下調ノ調書ニ被告ノ捺印ヲ爲サシメス
且讀聞ケサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○下調調書ハ被告ニ讀聞ケ署名捺印セシムル規
定ナキヲ以テ其手續ヲ必要トセス第四點ハ原院カ判決ヲ言渡スニ當リ事實ノ認定法律ノ適用
ハ前審ノ如シト告ケタルノミニテ理由ヲ告ケサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○公判始末
書ニ被告人ニ對シ別紙ノ通判決ヲ言渡シタリトアルニ依リ其判決ニ掲ケタル理由ハ之ヲ言渡
シタルモノト認メサルヘカラス第五點ハ判決ニ立會檢事ノ辯論ヲ爲シタルヤ否ヤチ明示セサ

ルハ違法ナリト云フニ在レトモ○判決書ニハ立會檢事ノ辯論ヲ爲シタルヤ否ヤヲ掲クヘシトノ規定ナキヲ以テ之ヲ原判決ニ明示セサルハ違法ニアラス第六點ハ判決旨渡ノ際趣意書ヲ差出スヘキ期間ヲ告知セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○判決旨渡ノ際上訴ヲ爲シ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知スヘシトアル刑事訴訟法第二百七條ノ規定中ニハ上告趣意書提出ノ期間ハ之ヲ包含セサルヲ以テ其告知ヲ爲サ、リシハ違法ニアラス第七點ハ疊ニ大審院ノ判決ニ於テ宮城控訴院カ本件ノ犯罪ニ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用シタルハ不當ナリト爲シ法律第九十九條第一條ヲ適用スヘキ犯罪ナリト認メラレタルニ原院カ之ニ反シ刑法第三百七十八條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○前ノ本院ノ判決ニハ上告論旨ノ如キ斷定ヲ下シタルコトナシ而シテ原院ノ認メタル事實ニ據レハ之ニ刑法第三百七十八條ヲ適用シタルハ相當ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第八點ハ證人久世清五郎ノ證言ト小島定次郎ノ證言トハ彼此反對シ居リテ孰レカ直ナルカ判然タラサルニ此等ノ信スヘカラサル證言ヲ採テ強盜罪ヲ犯シタリト認定セラレタルハ違法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ論争スルモノナレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス辯護士高木益太郎ノ辯明ハ本案ハ宮城控訴院ニ於テ被告ノ所爲ヲ竊盜罪ト認メ重禁錮二年監視六月ニ處スト旨渡シタルニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シ大審院ニ於テ原判決ヲ破毀シ函館控訴院ヘ移サレタルモノナリ而シテ本件ニ付テハ檢事ヨリ附帶上訴アリタルニアラサルニ函館控訴院カ被告ノ所爲ヲ強盜ト認メテ輕懲役七年ニ處斷シ宮城控訴院ノ判決ヨリ重キ刑ヲ旨渡シタルハ違法ナリト云フ

ニ在レトモ○刑事訴訟法第二百六十五條ニ原判決ヲ變更シテ被告ハ不利益ト爲スコトヲ許サストアルハ第一審判決ヲ被告ハ不利益ニ變更スヘカラサルコトヲ規定シタルモノハニシテ他ハ判決ハ此法文中ニ包含セス故ニ原院カ本件第一審判決ヲ認可シ既ニ破毀ヲ受ケタル宮城控訴院ハ判決ヨリ重キ刑ヲ科スヘキモノナリト判決シタルハ違法ニアラス被告ノ上告趣意擴張書ハ辯護士高木益太郎ノ辯明ト同一ナルヲ以テ重子テ說明セス辯護士渡邊要三郎ノ擴張辯明ノ要旨ハ原判決理由ノ前段ニハ「被害者小島定次郎ハ風呂敷包ヲ抱持シ被告ハ之ヲ奪ハントスルモ放ダス云々」ト說明シ其後段ニ至リ「被告ハ該包ヲ振廻シ云々」ト說明シテ被害者ハ之ヲ放チタルカ如クナリ何トナレハ對手ノ抱持スルモノナラハ之ヲ奪ヒタル後ニアラサレハ之ヲ振廻スヲ得サレハナリ是前後理由ノ組織スルモノナリ又原判決ノ說明ニ據レハ被告ハ物品ヲ奪ヒタル後ニ被害者ヲ毆打セシモノ、如シ然ラハ單純ナル毆打罪ナラサルヘカラス即盜罪ニ牽連スルコトナシ然ルニ強盜罪ナリト判決シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ說明ニ據レハ被告ハ定次郎カ活字ノ風呂敷包ヲ抱持スルヲ見テ之ヲ強取セント欲シ定次郎ノ抱持シ居ル包ニ被告ハ両手ヲ掛ケテ之ヲ對手ノ持チタル儘振回シ且右手ヲ以テ定次郎ノ後頭部ヲ毆打シ終ニ該風呂敷包ヲ強奪シタル事實ニシテ其理由前後組織スル所ナク且毆打ハ風呂敷包強取ノ方法タルコト明カナルニ依リ原判決ハ上告論旨ノ如キ違法ノ點アルコトナシ第二點ハ參考人武田ワカ及ヒ被告ノ豫審調書中ニハ文字ノ挿入削除等アリテ其欄外ノ記載ニ認印ナキ無効ノ調書ナルニ原判決ニ之ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ訊問

公訴ノ提起○共犯人ノ公訴提起

調書中ニ文字ノ挿入削除アリテ之ニ認印ナク又削除シタル字數ノ記載ナキトキハ其挿入削除ノ効ナキノミニテ其調書全體ノ無効ニ歸スヘキモノニアラス故ニ原院カ此等ノ調書ヲ斷罪ノ證據ニ採用シタルハ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十九年三月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財委託金費消ノ件

明治二十九年第二〇六號
明治二十九年三月五日宣告

○判決要旨

公訴ノ提起ハ適法ノ文書ニ依ル(明治廿八年第五九三號私書偽造行使)
共犯者ノ一人ニ對シ提起シタル公訴ヲ以テ他ノ共犯者ニ及スコトヲ得ス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 中川克一

明治廿九年二月一日東京控訴院ニ於テ右中川克一カ被告事件ノ控訴ニ付立合檢事ヨリ爲シタル公訴受理スヘカラサルノ申立ヲ審理シ本件公訴受理ス可カラサルノ申立ハ之ヲ却下スト旨渡シタル判決ヲ不當ナリトシ同控訴院檢事長野村維章ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
上告ノ要旨ハ本件中川克一ニ對シ豫審判事カ淺野富之助被告事件審理中共犯者タルノ事實發覺セシヲ以テ檢事ニ通知シ檢事ハ之ニ對シ起訴ヲ爲シタルモ其起訴書類ニ官署ノ印ヲ捺捺シアラサレハ即チ刑事訴訟法第二十條ニ基キ無効トセサルヘカラス從テ起訴モ亦適法ニ成立シタルモノニ非ス既ニ適法ノ起訴ナキ上ハ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノナルニ當院カ公訴ヲ受理スヘキモノト判定シタルハ不法ナリ且豫審判事ノ通知ノミニシテ檢事ノ起訴ナキトキ公訴ヲ受理スヘカラサルノ理由ハ已ニ大審院ノ判例ノアルアリテ敢テ辯スルノ要ナシ依テ原判決ヲ破毀シ更ニ公訴不受理ノ判決アラシトテ請フド云フニ在リ
○因テ之ヲ審按スルニ公訴ヲ提起スルニハ必ス適法ノ文書アルヲ要シ又必ス被告人ヲ指定スルヲ要ス其共犯者數人アル場合ニ於テハ一ニ其人ヲ指定スルニ非サレハ其中一人ハミニ對シ起シタル公訴ヲ以テ其他ハ人ニ及ホスコトヲ得ス公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスルカ故ニ被告人ハ即チ其主體ニシテ主體アルニ非サレハ公訴ノ成立スヘキ理由ナキヲ以テナリ本件訴訟記録ニ依レハ被告克一ニ對シ豫審判事カ淺野富之助ハ共犯人ト思料スル旨檢事ニ通知シタル文書アリ其背面ニ右了承ハ三字及ヒ年月日ヲ記載シ檢事某ハ官印ヲ捺捺シアルニ止マリ其他克一ニ對シ

公訴ノ提起○共犯人ノ公訴提起

檢事ハ起訴アリト認ムヘキ文書ナシ而シテ本件ハ非現行犯ナルニ檢事ハ起訴ナクシテ豫審ヲ爲シタルモハナレハ其豫審處分ハ無効ニシテ公訴受理スヘカヲサルモハタルヲ論テ俟タズ然ルニ原控訴院ニ於テ公訴ハ犯罪事件ニ對シ起ルモハニシテ檢事ハ指定シタル特定人ハミニ對シ起ルモハニ非ストハ理由ヲ以テ公訴不受理ハ申立テ却下シタルハ上告論旨ハ如何不法ハ判決ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ本件第一審第二審ノ判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ左ノ言渡ヲ爲スモノナリ

本件公訴ハ之ヲ受理セス

申 川 克 一

明治廿九年三月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財未遂ノ件

明治二十九年第九一號
明治二十九年三月六日宣告

○判決要旨

(判旨第十四點)

豫審處分ノ一部ヲ行フモ其終結ニ干與セサル判事ハ除斥セラ

ルヘキモノニアラス

(參照) 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ(刑事訴訟法第四十條一項)

判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ(同條四號)

(判旨第二十六點)

私書偽造行使罪ハ偽造證書自體ヲ行使シタルニアラサレハ

成立セス從テ其贖本ヲ裁判所ニ提出スルモ罪トナラス(明治二十九年八七號證書編輯第二卷九六頁登載參看)

(判旨第二十七點)

第二審裁判所ハ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲

スコトヲ得サルニ止マリ事實ノ認定ヲ爲スハ其自由ニ任ス

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サズ被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ(刑事訴訟法第二百六十五條)

第一審 名古屋地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人

小原富吉
杉浦篤三郎
大橋菊松

辯護人 高木益太郎

豫審一部ノ干與○贖本ノ行使○二審ノ認定權

右詐欺取財未遂被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十二月二十三日名古屋控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ハ何レモ之ヲ取消ス被告富吉篤三郎ハ何レモ私書偽造偽造行使二罪詐欺取財未遂二罪アリトシ一ノ重キ第一ノ私書偽造行使ノ罪ニ從ヒ富吉ヲ重禁錮四年六月ニ處シ罰金四十圓ヲ附加シ監視一年六月ニ付シ篤三郎ヲ重禁錮二年六月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ監視一年ニ付ス被告菊松吉松ハ何レモ私書偽造行使詐欺取財未遂各一罪アリトシ一ノ重キ私書偽造行使ノ罪ニ從ヒ重禁錮一年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付シ吉松ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告富吉篤三郎菊松ニ對スル私印盗用ノ件ハ無罪トス押収ニ係ル各偽造書類ハ之ヲ沒収シ其他ノ證據書類ハ總テ各所有主ニ還付ス公訴裁判費用ノ内金七圓四十四錢ハ被告富吉篤三郎菊松ヲシテ第一審ノ相被告岡本アイト共ニ連帶負擔セシメ金一圓五十錢ハ被告富吉篤三郎吉松ヲシテ第一審ノ相被告杉浦與三郎ト共ニ連帶負擔セシムト言渡シタル判決中有罪ノ部分ニ對シ被告富吉篤三郎菊松ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢察事長代理檢察事香阪駒太郎ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告富吉方上告趣意書ノ要旨第一點ハ原判決ニ被告富吉ハ香奕トシテ金三圓ヲ差出シ(中畧)同家二階ニ於テ云々(中畧)被告菊松ヲ同行シテ共ニ愛知縣碧海郡知立町屋敷不詳ノ某料理店ニ會合シ云々トアリ被告ハ相被告タル岡本アイトノ申立ノ無根無實ナルコトノ反證ヲ得テ犯罪ノ場所即チ碧海郡知立町ニ柏屋ト申ス料理店ノナキコトヲ辯明シ原院ハ乃チ之ヲ變更シ右ノ如ク

屋敷不詳ノ某料理店トノミ示シタリ如斯同人ノ申立ハ虛偽ニシテ香奕云々モ亦不實ナリ又判文ニ二階ニ於テ云々トアレトモ右家ハ二階構造ニ非ス是等ハ事實ノ批難ニ涉ルヲ以テ姑ク擱クモ刑法第百條トノミ示シ何項ナルヤヲ示サス又裁判費用ニ關シ刑法第四十七條ヲ記載シタルモ刑事訴訟法第二百一條ヲ示サ、ルハ失當ナリト云フニ在リテ○前段ハ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ適法上告ノ理由ト爲ラス其後段ハ原判決ニ於テ數箇ノ輕罪俱罪セルコトヲ認メ刑法第百條ヲ適用シタル上ハ殊更ニ其何項ナルヤヲ示スノ要ナク又裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スルニ當リ刑法第四十五條第四十七條ヲ明示シタル上ハ別ニ刑事訴訟法第二百一條ヲ適用スルニ及ハス故ニ是亦上告ノ理由ト爲ラス

其第二點ハ原判決ニ於テ刑法第百四條ヲ適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○數人共犯ノ事實ヲ認メ各自ニ其刑ヲ科シタル上ハ第百四條ノ如キ刑法ノ總則ヲ適用スルヲ要モサルモノトス因テ此論旨モ相立タス

其第三點ハ原判決ニ被告ノ内富吉ハ明治十六年九月中名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ證書照取ノ科ニ由リ重禁錮一年罰金二十圓監視十月明治二十四年五月名古屋地方裁判所岡崎支部ニ於テ詐欺取財ノ科ニ由リ重禁錮三年罰金三十圓監視一年ニ處セラレタルモノナリト明記シタル證據物アルニ拘ハラヌ云々ト列記シタルハ何事ナラン被告ハ明治十六年九月八日岡崎支廳ニ於テ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ニ依リ處斷セラレタルコトアルアリ尙判文中明治二

十四年五月詐欺取財ノ科ニ由リ重禁錮三年云々トアレトモ此判文ノ如クセハ被告ハ明治二十七年五月ナラテハ刑期満期ニ至ラス本按第一ノ事件ニ付相被告愛知縣碧海郡知立町平民岡本アイノ夫吉三郎カ死亡シアイニ於テ葬式費用ニ困難シ居ル旨ヲ聞キ明治二十七年一月上旬同家ニ趣キ云々ト示シタルハ審理不盡ニ依ルナラン若シ被告カ當時假出獄ヲ得又ハ特赦ト爲リタル事實アリトセハ兎モ角モ其事柄ノ何レニ依ルヤ判明ナラス畢竟事實理由ノ不備アル裁判タルコトヲ免カレスト云フニ在レトモ○原判決ハ本件犯罪ノ事實ヲ明示シ毫モ其理由ニ不備ノ點ナキノミナラス右論旨ハ孰レモ原院ノ事實認定ニ對シ非難ヲ加フニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

其第四點ハ原判文ニ「三百圓ノ借用證書及其添書ヲ偽造行使シタルノ所爲チ一罪ト認メタル點ハ第一項中ノ所爲ニシテ被告人ノミノ控訴ニ係ルチ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ニ依リ不利益ニ變更セス」ト示シタルハ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決シタルモ同一ナリト云フニ在レトモ○原判決第一項ノ點ニ付テモ被告ヨリノ控訴アリ唯原院ハ第一審カ二罪チ一罪ト認メタルヲ失當ナリトスルモ被告ノミノ控訴ニ係ルチ以テ不利益ニ變更セスト説明シタルノミ之ヲ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決シタル違法ノ裁判ナリト論スルコトヲ得ス

其第五點ハ第一審以來第二審公廷ニ於テ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルニ拘ハラズ判決ニ至リ本按ノミヲ言渡シ共ニ此申立ニ付キ判決ヲ言渡サルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院及ヒ第一審ノ公判始末書ヲ査閱スルニ被告ヨリ右申立ヲ爲シタル事實ノ見ルヘキモノナシ此論

旨ハ即チ採ルニ足ラサルモノトス

其第六點ハ原判決證據ノ部ニ三治秀松ニ對スル巡查ノ搜查復命書トアルモ右三治秀松ナル者ハ如何ナル關係アリ巡查ノ搜查ニ係リタルモノナルヤ被告ハ未タ同人ニ對スル訊問等アリタルコトヲ聞知セス然ルニ之ヲ斷罪ノ料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録中岡崎警察署在勤巡查玉城芳三カ三治秀松ニ對スル搜查復命書アリテ該書ハ違法ニ成立タルモノニ非ナレハ原院カ之ヲ採用シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ナリ其三治秀松ナル者カ何故巡查ノ搜查ニ係リ又訊問ヲ受ケタルヤ否ヤハ右探證上毫モ關係チ有セサルモノトス

其第七點ハ第一審以來相被告ト認メラレタル鈴木吉松ノ如キハ如何ノ關係ニ依テ處斷セラレシモノナルヤ檢事ノ起訴狀ニ同人ノ記名ナク豫審判事ノ通知書ニモ亦同人ノ記名ナシ是レ即チ刑事訴訟法第六十二條乃至第六十六條等ニ違背スト云フニ在レトモ○右ハ他人ニ關スル事柄ナレハ被告ニ於テ彼是論難スルコトヲ得ヘキモノニ非ス

其第八點ハ明治十六年中輕罪ノ刑ニ處セラレタル清水重吉チ豫審判事ニ於テ證人トシテ訊問シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○清水重吉カ公權停止中ナリトノ事蹟見ルヘキモノナキノミナラス原院ハ同人ノ豫審訊問調書ヲ證據ニ採用シタルコトナケレハ此論旨ハ到底上告ノ理由ト爲ラス

被告富吉カ第一上告辯明書ノ要旨第一點ハ原判決第一ノ部ニ貸金請求ノ訴訟事件ヲ岡崎支部ニ提起シ明治二十七年六月十五日口頭辯論ノ際前記ノ偽造證書ヲ立證トシテ提出シタルカ爲

メ遂ニ勝訴ノ判決ヲ受ケ云々ト記サレ岡本太三郎名義ノ三百圓ノ借用證書及ヒ本人伊奈田善助證人太三郎ノ添書ヲ岡崎支部ニ提出シタリト認定セラレタルモ該添書ノ如キハ同支部ニ提出セザリシ事ハ一件記録ニ依リ明ナルニ架空ノ事實ヲ構造シ認定セラレタルハ違法ナリト云フニ在リテ〇原院ノ事實認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲ラス

其第二點ハ原判決第一ノ部ニ認定セラレタル如ク岡本太三郎ノ死後其借用證書ヲ作成シタリトスルモ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス然ルニ之ヲ有罪トセラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇證書ノ日附ヲ太三郎カ生前ニ溯ラセ同人カ善助ノ後見中後見名義ニテ他ヨリ金員ヲ借入レタル體ノ借用證書ヲ偽造シタル事實ハ原院ノ認ムル所ナレハ原判決之ヲ有罪トシタルハ相當ニシテ毫モ疑律ヲ錯誤シタルモノニ非ス

其第三點ハ原判決ニ「富吉篤三郎菊松ニ付テハ第三百九十條第二項及ヒ第三百條ヲ適用シ云々ト記サレ何レノ點ト何レノ點トニ對シ第三百九十條第二項ヲ適用シ何レノ點ト何レノ點トニ對シ第三百條ヲ適用シタルヤチ明示セラレサルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇文書ヲ偽造シ因テ全圓ヲ騙取セントシタル點ニ對シ第三百九十條第二項ヲ適用シ其偽造及ヒ騙取未遂共ニ二以上アルヲ以テ第三百條ヲ適用シタルコト勿論ナレハ特ニ其旨ヲ明示セサルモ違法ニ非ス

其第四點ハ原判決第一ノ部ニ「抵當ノ姿ニ爲シタル證書ノ數ヲ五通ノ如ク示サレタルモ現在ノ證書ハ四通ニシテ原判決ハ誤判ナリト云ヒ其第五點ハ原判決第二ノ部ニ「明治二十七年十一月中與三郎ヲ自宅ニ招キ(中畧)宛名ナキ金高百八十圓(中畧)明治二十五年十二月二十日附杉浦與三郎杉山傳七兩名ヲ連帶債務者トナシタル借用證書一通ヲ偽造シ置ケリ(中畧)越後屋ニ行キ熱誠ヲ凝ラシタル後其墨色ノ相違セザランカ爲メ特ニ與三郎ニ於テ該偽造證書ヲ自宅ニ持歸リ同人ニ於テ被告篤三郎ノ氏名ヲ記入シテ偽造ヲ完成シタリトアリ最初被告富吉宅ニ於テ宛名ナキ證書ヲ偽造シ而シテ越後屋方ニテ宛名ヲ記入セントスルニ際シ墨色ノ異ナルヲ恐レ其場ニテ書加ヘサル程注意シタル事實アリトセハ被告富吉方ヘ證書持去リ宛名ヲ書加フヘキ筈ナルニ與三郎カ自宅ヘ持歸リ記入シタリトハ何レモ無根ニシテ違法ノ判決ナリト云ヒ其第六點ハ原判決第二ノ部ニ「右偽造證書ノ贈本ヲ岡崎區裁判所ニ提出シ杉山傳七ニ對シ元利金合計百九十四圓ノ支拂命令云々トアリテ杉山傳七一名ニ對スル如ク示サレタルモ右支拂命令ハ杉浦與三郎杉山傳七兩名ニ對スルモノナルコトハ掩フヘカラサル事實ナルニ右ノ如ク示サレタルハ違法ナリト云ヒ其第七點ハ原判決第二ノ部ニ「明治二十七年十一月中與三郎ヲ自宅ニ招キ云々トアルモ當時被告ハ入監中ノ身ナレハ與三郎ヲ自宅ニ招キ此事ニ加功共謀シタリトノ事實アルヘキ筈ナシ右年月ノ如キ其他渾テ無實ノ事柄ヲ以テ認定ノ材料ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在リテ〇孰レモ事實ノ認定ヲ非難シ漫ニ不服ヲ訴フルニ止マリ一モ適法上告ノ理由ナシ

被告富吉カ第二上告辯明書ノ前段ハ原院檢事ノ答辯書ニ對シ論駁スルニ過キササルモノナレハ別ニ説明ヲ與ヘス其後段ハ被害者伊奈田善助ト亡太三郎長女タイトハ異母兄妹ナルニ善助ヲ本件ノ證人トセラレタルハ違法ナリト云フニ在リテ〇其意ハ右タイノ母アイハ本件被告ノ一

人ニシテ善助ハ其親族ナレハ證人ト爲ルノ資格ナシト云フモノ、如シ然レトモ善助トタイト
 兄妹ノ關係アリトハ被告カ口頭無證ノ陳辯ニ止マルノミナラス假ニ兄妹ノ關係アリトスルモ
 善助トアイトノ間ニハ法律上親屬ノ關係アルコトナシ故ニ此論旨モ到底相立タサルモノトス
 被告富吉カ第三上告辯明書ノ要旨第一點ハ本件豫審ニ干與セラレタル判事申村鶴太郎カ第一
 審公判ニ干與セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ原判決第一項
 ハ豫審終結ニ干與シタルハ豫審判事百島一八又同第二項ハ豫審終結ニ干與シタルハ豫審判事
 安藤守忠ニシテ申村判事ハ單ニ被告ニ對シ密室監禁ハ言渡チ爲シタルニ過キス故ニ同判事カ
 第一審判決ニ干與シタルハ決シテ違法ニ非ス何トナレハ法律ハ豫審終結ヲ爲シタル判事ハ公
 判ニ干與スルヲ禁スルモ豫審處分ハ一部分ヲ行ヒタル者ニ付テハ之ヲ除外スルコトナケレハ
 ナリ

判旨第十四

其第二點ハ本件偽造ト云フ金高三百圓ノ證書并ニ副證書ニ岡本太三郎ト記載アルハ亡太三郎
 ノ自跡ナルハ勿論民事訴訟中偽造ナリトノ申立ナク又檢事ノ立會ナキヲ以テ見ルモ偽造ニ非
 サルコト明ナリ又原判文ニ太三郎名下其他ノ要所ニハ同人ノ實印ヲ押用シテアルモ實印ハ改
 印用ヲ爲シタル當時已ニ消滅シタルモノニシテ實印アルヘキ筈ナシ假ニ之アリトスルモ廢滅
 シテ用ヲ爲サルモノナリ然ルニ實印ヲ取出シ云々ト認定セラレタルハ違法ナリト云フニ在
 リテ○事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲ラス
 其第三點ハ各罪ニ付刑期ヲ明示セラレサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○數罪俱發一ノ重キ

ニ從テ處斷スル場合ニ於テハ其處斷スヘキ一ノ重キ刑ヲ定ムルヲ以テ足レリトス餘ノ輕キ刑
 ハ一々之ヲ定示スルノ要ナケレハ此論旨モ亦相立タス
 其第四點ハ被告ニ對シ豫審終結決定書ノ送達ナシ即チ終結決定ヲ爲サル事件ヲ審判セラレ
 タルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ豫審終結決定書正本ノ送達狀アリ
 テ四人ニ付拘置監ノ首長ニ送達スル旨記載シアリ即チ適法ノ送達アリタルモノナレハ此論旨
 ハ其謂レナキモノトス

其第五點ハ三治秀松ハ有名無實ノ者ナルコト一件書類ニ照シ明ナルニ此無關係ナル者ヲ擔キ
 出シ證據ノ材料ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在リテ○上告論旨第六點ヲ復説スルニ過
 キサレハ更ニ辯明ヲ與ヘス

被告富吉カ第四上告辯明書ノ要旨第一點ハ原判決ニ以上ノ事實ハ岡本カチコトアイ大橋菊松
 伊與田善助福岡精一杉浦與三郎杉浦篤三郎小原富吉鈴木吉松杉山傳七ノ豫審訊問調書(中略)當
 法廷ニ於ケル各被告人共ノ供狀ニ徴シ證據十分ナリトアルモ右氏名ノ頭部ニ證人參考人又ハ
 被告被害者鑑定人トノ記載ナキハ失當ナリ殊ニ各被告人ト各ノ字ヲ記セラレタルモ相被告岡
 本カチコトアイ杉浦與三郎ノ如キハ第一審判決ニ服從シタルニ原院公廷ニ出頭シタルモノ、
 如ク爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右記名ノ者カ證人タルヤ參考人タルヤ等ハ訴訟
 記録ニ依リ明知シ得ヘキヲ以テ一々其資格ヲ示スノ要ナシ又原判決ニ當法廷ニ於ケル各被告
 人トアルハ控訴ヲ爲シ原院公廷ニ出頭シタル被告四名ヲ指シタルコト明白ナレハ原判決ハ證

濫明示ノ點ニ於テモ違法ノ厭アルコトナシ

其第二點ハ原院ニ於テ證據物件ヲ被告等ニ示シテ辯解ヲ爲サシメサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニハ告訴狀及ヒ被告等ノ豫審調書ヲ摘讀シ押収ニ係ル證據書類ヲ被告等ニ示シ辯解ヲ爲サシメル旨ノ記載アリテ此論旨ハ甚タ其罪レナキモノトス

其第三點ハ上告趣意書第八點中清水重吉カ證人ノ資格ナキコトヲ證センカ爲メ所轄役場ノ證明ヲ得ントスルモ原院ハ其願書ニ「發信ヲ許サス」ト附箋セラレ最早奈何トモスルコト能ハスト云フニ在リテ○固ヨリ上告ノ理由トナラス

被告富吉カ第五上告辯明書ノ要旨ハ被告カ公訴ヲ受ケタル事件ハ甲乙丙三件アリ其乙丙兩件ハ最初ヨリ同一ノ豫審判事ニ於テ併セテ取調ヘラレタルニ兩件ノミ第一審判決ニ至ラス又乙丙兩件ハ未タ豫審終結決定ナク被告ヘ右決定書ノ送達ナキト乙ノ件ニハ前回陳述ノ如ク豫審ニ干與シタル中村判事カ公判ニ干與セラレタルハ不法ナリト云フニ在リテ○前段ハ被告所論ノ如ク別件ニ付未タ判決ナキモノトスルモ以テ本件判決ニ對スル上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス後段ハ第三上告辯明書第一點第四點ニ對スル辯明ニ依テ了解スヘシ

被告富吉ハ尙ホ第六上告辯明書ヲ提出シテ明治二十四年五月岡崎支部ニ於テ詐欺取財ノ科ニ由リ云々トアルコト「三治秀松ニ對スル巡查復命書云々」トノコトハ共ニ架空ノ事柄ナリト陳辯スルモ○右ハ前論旨ヲ覆説スルニ過キサレハ更ニ辯明ヲ與ヘス

被告富三郎カ上告趣意書ノ要旨第一點ハ杉山傳七テ證人トシテ喚問セラレシコトヲ請求シタ

ルニ之ヲ開用ケス有罪ノ判決ヲ下サレタルハ不服ナリト云フニ在レトモ○被告カ右證人喚問ノ請求ヲ取消シタルコトハ原院公判始末書ニ記載シアリテ此論旨ハ其罪レナキモノトス

其第二點ハ伊奈田善助カ岡本アインニ依頼シ種々ナル事實ヲ構造シ被告ニ不利ナル陳述ヲ爲サシメタルモノナルニ第一審第二審共被告ヲ有罪トシタルハ不服ナリト云フニ在リテ○單ニ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス道法上告ノ理由ナシ

被告富三郎辯護士高木益太郎カ上告辯明ノ要旨第一點ハ私書偽造ノ所爲アルモ其偽造ニ係ル證據ノ原本ヲ第三者ニ行用スルニ非スンハ私書偽造行使罪ヲ以テ論ス可キモノニ非ス原判決第二ノ事實ニ付テ被告ハ未タ偽造證據ノ原本ヲ行使シタルコトナク只自ラ其贖本ヲ作り之ヲ岡崎區裁判所ニ提出シタルニ過キサレコトハ原院ノ認ムル所ナルニモ拘ハラズ刑法第二百十條第一項第二百十二條ノ已達ヲ以テ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ私書偽造行使ノ罪ハ私書ヲ偽造シ之ヲ行使スルニ因テ成立スルモノニシテ己ニ之ヲ偽造スルモ未タ其偽造ニ係ル本書ヲ行使スルニ非サレハ此罪成立スルコトナシ故ニ本件ハ如ク別ニ其贖本ヲ作り之ヲ行使シタルトスルモ本書ハ行使ト同視シカサレハ勿論其贖本タル固ヨリ獨立ナル信憑力ヲ有スルモノニ非サレハ到底私書偽造行使ノ罪アリト爲スコトヲ得ズ然ルニ原院ハ第二ノ事實ニ付金額百八十圓ノ連帶借用證書ヲ偽造シタルモ未タ之ヲ行使セズ單ニ其贖本ヲ行使シタルニ過キサレ事實ヲ認メナカラ此所爲ニ對シ刑法第二百十條第一項第二百十二條ヲ適用シタルハ法律ノ錯誤ニシテ此論旨ハ其理由アリトス

其第二點ハ第一審判決ハ金三百圓ノ借用證書及其添書ヲ偽造行使シタル所爲チ一個ノ犯罪ト認メテ處斷シタリ然レトモ此點ニ付檢察ヨリ控訴ノ申立ナカリシヲ以テ原院モ亦之チ一個ノ犯罪トシテ法則ヲ適用セサル可カラズ故ニ原判決理由ノ未段ニハ第一審裁判所ニ於テ金三百圓ノ借用證書及其添書ヲ偽造行使シタル所爲チ一罪ト認メタル點ハ第一項中ノ所爲ニシテ被告人ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ニ依リ原判決ヲ變更セスト右法則ヲ認メナカラ其法律適用ノ部ニ於テ借用證書偽造ノ所爲ト添書偽造ノ所爲トチ二個ニ區別シタル上篤三郎ニ付テハ添書偽造行使ノ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノトスト說明シタルハ理由雖變更シテ其不利益ト爲スコトヲ得サルニ止マリ第二審裁判所ハ自由ニ事實ヲ認定シ而シテ其認定シタル事實ニ對シ相當ノ法律ヲ適用ス可キモノナレハ原院カ第一審判決ニ於テ一罪ト認メタルヲ失當トシ更ニ之チ二罪ト認メ而シテ其一ニ從ヒ被告ヲ處斷スヘキモノト說明シ猶ハ被告ハミハ控訴ニ係ルヲ以テ不利益ニ變更セスト判定シタルハ相當ニシテ其理由ニ於テ毫モ阻礙スル所ナシトス

判旨第二十

同辯護士ハ相被告人ノ論旨ヲ被告篤三郎ノ上告理由トシテ採用スル旨申立タリ右ハ他被告ノ上告論旨ニ對スル辯明ニ依テ了解シ得ヘキヲ以テ別ニ辯明ナ與ヘス
被告菊松カ上告趣意書ノ要旨第一點ハ本件犯罪ノ場所ニ付テハ單ニ相被告岡本アイノ供述ニ依リ豫審終結及ヒ第一審ニ於テ碧海郡知立町料理屋柏屋ト斷定シ又原院ニ於テハ不法ニモ家

親不詳ト波々ノ中ニ看過セラレタルハ不服ナリト云ヒ其第二點ハ偽造證書ナリトセラレタル金三百圓ノ證券ハ料理屋柏屋ニ會合シ調製シタルモノト如クナルモ會合シタルコトモナケレハ偽造シタルコトモナシ且添書ノ如キハ亡太三郎ノ存命中同人ノ依頼ニ應ジ認メ遣ハシタルモノニシテ如何ナルモノト代用スルヤハ被告ノ知ラサル所ナリ然ルニ被告ヲ以テ偽造ノ共犯ナリト斷定セラレタルハ失當ナリト云フニ在リテ右ハ孰レモ事實ノ認定ヲ非難シ漫ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲ラス

被告菊松カ上告趣意追加書ノ要旨第一點ハ偽造證書ナリト認メラレタル金三百圓ノ借用證書ノ岡本太三郎ノ名下ニ押捺シアル印影ハ太三郎カ死去ノ當時マテ使用シ居リタル實印ナルカ如ク判定セラレタルモ這ハ大ナル相違ニシテ已ニ該印ノ如キハ太三郎死去ノ數年前マテ使用シ居リタルコト明瞭ナリ押捺セラレタル實印ト其形影ノ異ナルヲ論テ俟タスト云フニ在リテ

○是レ亦事實認定ノ非難ニ外ナラサレハ上告ノ理由ト爲ラス
其第二點ハ原判決ニ明治二十七年一月二十六日頃相被告富吉篤三郎カ被告チ同行シテ某料理店ニ會合シ證書類ヲ偽造シタリトアルモ其證書ハ被告三名ノ内何者ノ手ニ成リタルヤチ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○執筆者ノ如何ハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ而シテ原判決ニハ被告等共謀ノ上偽造シタル事實チ明示シアルハ其理由ニ於テ毫モ缺ケル所ナシトス

其第三點ハ伊奈田善助ノ捺印アル白紙ヲ利用シ私書ヲ偽造シタリト認メナカラ其印影盜用ノ

所爲ヲ聞セサルハ刑法ノ適用ヲ脱漏シタル失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○此論旨ハ被告ノ不利益ニ歸スヘキモノナレハ上告ノ理由トナラス

被告菊松カ上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ上告趣意書ノ第一點ヲ敷衍スルニ過キサレハ更ニ辯明ヲ與ヘス其第二點ハ偽造ナリト判定セラレタル證書ト被告カ明治二十二年七月申遺産相續ヲ爲シタル登記願等トハ筆蹟鑑定ノ結果トシテ違筆ナルコト判明シタルヤ必セリ其添書ハ被告ノ筆ニ成ルモ違ハ太三郎ノ依頼ニ應シ案文ヲ遺ハシタルモノニシテ其姓名ノ如キハ各自ノ筆記ニ係ルコト喋々ヲ要セス年月ノ箇所ニ四ノ字ヲ塗抹シ其脇ニ三ト改メアルモ何者ノ手ニ成リタルヤ被告ノ知ラサル所而シテ該四ノ字ハ七ノ跡形ナリト認定シ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモ之ヲ透カシ視レハ四ノ字ナルコト明ナリ然ルニ證書ヲ偽造シタリト斷定セラレタルハ不法ナリト云フニ在リテ○要スルニ事實ノ認定證據ノ判斷ヲ非難スルモノナレハ上告ノ理由ト爲ラズ

被告菊松ハ相被告等ノ上告趣意及ヒ其辯護士ノ擴張スル理由ヲ援用スル旨申立タリ右ハ他被告及ヒ辯護士ノ上告論旨ニ對シ已ニ與ヘタル辯明ニ依テ了解シ得ヘキヲ以テ別ニ辯明ヲ與ヘス

以上辯明シタル如ク被告等カ上告論旨及ヒ高木辯護士カ上告辯明第二點ハ其理由ナキモ同辯護士カ上告辯明第一點ハ其理由アリ因テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條及ヒ第二百八十九條ニ則リ原判決中有罪ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

上告人

小原 富吉

同

杉浦 篤三郎

同

大橋 菊松

第二審相被告

鈴木 吉松

原判決第一項ニ認メタル被告富吉篤三郎菊松カ私書偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該リ其金圓騙取未遂ノ所爲及ヒ原判決第二項ニ認メタル被告富吉篤三郎吉松カ金圓騙取未遂ノ所爲ハ共ニ同法第三百九十七條第三百九十二條第三百九十條第三百九十四條ニ該リ富吉ハ三犯ナルヲ以テ同法第九十八條第九十二條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ加ヘ而シテ富吉篤三郎ニ付テハ同法第三百九十條第二項第百條ヲ適用シ菊松ニ付テハ同法第三百九十條ヲ適用シ富吉篤三郎菊松ハ一ノ重キ添書偽造行使ノ所爲ニ從ヒ富吉ヲ重禁錮四年六月ニ處シ罰金四十圓ヲ附加シ監視一年六月ニ付シ篤三郎ヲ重禁錮二年六月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ監視一年ニ付シ菊松ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付シ吉松ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス

押收ニ係ル偽造行使ノ書類ハ刑法第四十三條第一號第四十四條ニ依リ之ヲ沒収シ其他ノ書類ハ各所有主ニ還付ス

公訴裁判費用ノ内金七圓四十四錢ハ被告富吉篤三郎菊松ニ於テ第一審ノ相被告岡本アイト共ニ連帶負擔シ金一圓五十錢ハ被告富吉篤三郎吉松ニ於テ第一審ノ相被告杉浦與三郎ト共ニ連

帶頁擔ス可シ

原判決第二項ニ認メタル被告富吉吉松爲三郎カ私書ヲ偽造シ其謄本ヲ岡崎區裁判所ニ提出シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪

明治二十九年三月六日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財未遂ノ事件

明治二十九年第一一六號
明治二十九年三月六日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ上告論旨タル公訴提起ノ手續ヲ徴スヘキ書類存在セサルトキハ原判決ヲ破毀シテ公訴不受理ノ裁判ヲナスヘキモノトス

第一審 德島地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 鈴木伊三太

鈴木伊三太

明治廿八年十二月十二日大阪控訴院ニ於テ右哲三外二名被告事件ノ控訴ヲ審理シ哲三伊三太ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却シシケノ控訴ハ其理由アルニ付原判決ヲ取消シ更ニ重禁額六月ニ處シ罰金六圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告三名ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處被告哲三カ上告擴張費第三點ハ要スルニ豫審判事ハ檢事ノ起訴ナキ詐欺取財未遂ヲ以テ決定ヲナシ公判ニ移サレタルニ第一審第二審共ニ之ヲ受理シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ之ヲ案スルニ一件記録中詐欺取財未遂事件ハ公訴ヲ提起シタル事蹟ヲ徴スヘキ書類一モ之レアルコトナシ原院書記ハ證明スル處ニヨレハ本件記録ハ明治二十九年一月四日大阪控訴院火災ニ罹リタル書類燒失セシヲ以テ右公訴ハ手續ニ關スル書類モ共ニ燒失セシヲモ知ルヘカラスト雖モ現ニ其書類ノ存セサル以上ハ本件ニ付檢事ヨリ起訴ハ手續アリシモハト云フ能ハス故ニ原院ハ公訴受理スヘカヲサルハ判決ヲ爲スヘキニ之ヲ受理シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ失當ニシテ破毀ノ原由アルモノトス而シテ共同被告人勝本伊三太佐々木シケニ對シテハ刑事訴訟法第二百八十九條ノ規定ニ從ヒ其利益ヲ及ホシ共ニ原判決ハ破毀スヘキモノトス已ニ此點ニテ破毀ト認メタル以上ハ他ハ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ與ハス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條同第二百八十九條ニ則リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

本件公訴ハ之ヲ受理セズ

明治廿九年三月六日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第二〇七號
明治二十九年三月六日宣告

○判決要旨

訴訟記録ノ燒失ニ依リ上告論旨タル證人資格ノ有無ヲ調査スルヲ得サルトキハ原判決ハ破毀セラルヘキモノトス

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 岡林岩吉

私訴被上告人 西尾元輔

右岩吉カ詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十二月七日大阪控訴院カ與ヘタル公訴及私訴ノ判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ之カ全部ノ破毀ヲ要求シ原院檢事ハ本上告ハ適法ノ理由ナキ旨答辯書ヲ差出シ私訴被上告人ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣意ノ要旨ハ原院ハ西尾元輔ヲ民事原告人ト認メ公訴ニ附帶シテ私訴ノ判決ヲ爲シタルニ拘ハラズ同人ヲ證人ト爲シタルハ刑事訴訟法第二百二十三條第一項ニ背戾シタル不法ノ判決ナリ公訴判決ニシテ不法ナル以上ハ私訴判決ノ不法ナル辯ヲ須ヒス一件記録調査ノ上正當ノ判決ヲ求ムト云フニアリ
○依テ審察スルニ原公訴判決ニハ證人西尾元輔ハ豫審調査ヲ斷罪ハ證據ニ採用シアリ元輔ハ民事原告人ナルヲ以テ其證言ハ當時未カ民事原告人カチカリシトハ

事實アルニ非カレハ本件上證人ハ資格ナキハ勿論ナリ然ルニ其事實如何ヲ徵スヘキ唯一ノ具タル本件ノ記録ハ明治二十九年一月四日火災ニ罹リ悉皆燒失シテ現存セカレコト原院書記ハ證明スル如クナル以上ハ當時元輔ニ證人ハ資格アリシモノトハ認ムルニ由ナキカ故ニ原院判決ハ民事原告人ヲ證人トシテ取調ハタル不法ハ豫審調査ヲ被告有罪ハ證據ニ供シタル不法アリト論定セサルヲ得サルナリ既ニ公訴判決ニ不法アリトスル以上ハ其之レニ基キテ下カシタル私訴判決ハ不法ナル勿論ナルニ付公訴私訴ハ原院判決ハ共ニ破毀ノ理由アリトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原院ノ公訴私訴判決申被告岩吉ニ關スル部分ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス
明治二十九年三月六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治廿九年第一九四號
明治廿九年三月九日宣告

○判決要旨

故意ヲ以テ人ヲ毆打シ依テ創傷セシメタル所爲ハ毆打創傷罪ヲ構成ス而シテ當初ヨリ其被害者ノ何人タルコトヲ熟知スルヲ要セス

毆打創傷罪ノ構成

毆打創傷罪ノ構成

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 岡部平作 辯護人 花井卓藏

明治廿九年一月三十一日東京控訴院ニ於テ右平作ニ對スル毆打創傷被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告趣意第一點ハ被告人ハ岡部フジノ同ノア及蘆澤伊太郎ヲ毆打創傷シタル事實アルコトナキニ原院ニ於テ專ラ被害者ノ供述ヲ片信シ不當ニ事實ヲ確定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○全ク裁判官ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ナルヲ以テ上告適法ノ原由トナラス第二點ハ假リニ毆打創傷ノ事實アリトスルモ其起因ハ黨派上ノ關係ニ出テ且ツ岡部フジノ、挑發ニ刺撃セラレテ止ムヲ得サルニ出タタルモノナルコトハ原院ニ於テモ認メラレタルニモ拘ラス宥恕減輕若クハ酌量減輕ノ法則ヲ適用シテ處斷セサリシハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原院文ヲ檢スルニ岡部フジノ、挑發ニ因テ被告カ同人等ヲ毆打シタリトノ事實ハ原院ノ認メサル所ナルヲ以テ宥恕減輕ノ處斷ヲ爲サ、リシハ相當ナリ而シテ酌量減輕ノ事實モ原院カ認メタルモノニアラサルコトハ判文上明瞭ナルヲ以テ原院決ハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ不法アルコトナシ辯護士花井卓藏上告趣意擴張書第一點ハ意思ハ犯罪構成ノ要件ナルニ原院決ハ被告人カ蘆澤伊太郎ヲ毆打シタル所爲ヲ認メタルニ止マリ始メヨリ同人ヲ毆打スルノ意思アリシヤ否ノ點ニ至テハ何等ノ説明ヲ付セス寧ロ其判文蘆澤伊太郎カ其聲ヲ聞テ駈來リ被告ヲ制止セシ

ト背後ヨリ抱キ付キタルニ被告ハ短刀ヲ以テ云々トアルニ依レハ被告ハ其被害者ノ何人タルヤヲモ熟知シ居ラサリシモノ、如シ而シテ此文字ハ反テ被告カ被害者ヲ毆打スルノ意思ナカリシ反面ノ事實ヲ證明スルニ餘アリトス果シテ然ハ原院決ハ理由不備并擬律錯誤ノ不法アルモノト云フニ在リテ○結局初メヨリ被害者ノ何人タルコトヲ、然知シテ之ヲ毆打スルニアラサレハ毆打罪ハ構成セサルモノト云フニ外ナラサレハ其論旨ハ不成立何トナレハ毆打ハ犯罪ニ付テハ苟モ故意ヲ以テ人ヲ毆打シタルトキハ即其犯罪ヲ構成スルモノニシテ初メヨリ其被害者ノ何人タルコトヲ、然知スルト否ハ敢テ問フヘキモノニアラサレハナリ故ニ原院文ニ蘆澤伊太郎カ其聲ヲ聞キ駈來リ被告ヲ制止セシト背後ヨリ抱キ付キタルニ被告ハ短刀ヲ以テ伊太郎ハ右方前胸ヲ切リ云々ト掲記シ被告カ故意ヲ以テ其背後ヨリ抱キ付キタル者ヲ毆打創傷シタルハ事實ヲ明示シテ之ニ對シ毆打創傷罪ヲ科シタルハ相當ニシテ理由不備擬律錯誤等ハ不法アルコトナシトス第二點ハ被告人ヲシテ最終ニ供述セシムヘキコトハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリ而シテ所謂最終ノ供述ナル文字ハ事實ニアラスシテ法律上ノ用語ナリ故ニ單ニ最終ノ供述ヲ聽キト始末書ニ記載シタルノミニテハ如何ナル事實上ノ供述ヲ爲シタルヤ之ヲ知ルニ由ナク恰モ被告事件ノ取調ヲ爲シ裁判ヲ言渡ストノ記事ヲ以テ密判ノ手續ヲ證明スル公判始末書ヲ作ルト異ナルコトナシ然ルニ第一審公判始末書ニハ單ニ被告等カ最終ノ供述ヲ聞キ云々トノミ記シ其供述シタル事實ヲ記載セサリシハ不法ナリ而シテ原院カ此欠點アル第一審判決ヲ看過シテ控訴ヲ棄却シ且同院モ同一ノ始末書ヲ取りタルハ法則ヲ適用セサル不法アルモ

毆打創傷罪ノ構成

ノナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ヲ檢スルニ其末尾ニ被告兩名ニ問フ別ニ申立ルコトアルヤ被告兩名答別ニ申立ルコトナシ裁判長ハ被告等カ最終ノ供述ヲ聞キ一件取調済チ皆ク云々トアリ右被告等カ最終ノ供述ヲ聞キ云々トアルハ其前段被告兩名答別ニ申立ルコトナシト供述シタル事實ヲ指シタルモノナルヲ以テ上告論旨ノ如ク供述シタル事實ヲ記載セサルモノト云フヲ得ス而シテ原院公判始末書ニ記載スル所モ右第一審始末書ト其意義同一ナルヲ以テ別ニ説明スルヲ要セス結局上告論旨ハ總テ不相立因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十九年第二一七號
明治二十九年三月九日宣告

○判決要旨

司法官試補ハ地方裁判所以上ノ檢事ヲ代理スルノ權能ナシ

司法官試補ニシテ檢事代理トナリ地方裁判所ノ公判ニ立會ヒタルトキハ其公

判ハ正當ナル檢事ノ干與ナキモノナレハ裁判所ノ構成ニ瑕疵アルモノトス從テ其公廷ニ於ケル證人ノ供述ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得ス

(參照) 司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢

事ヲ代理セシムルコトヲ得(裁判所構成法第十八條三項)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 齋藤建吉 辯護人 森 肇

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年二月七日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮三年罰金三十圓監視六月ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長野村維平ハ答辭書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事岩野新平辯護士森肇ノ辯明ヲ職キ判決スル左ノ如シ

辯護士ノ擴張要旨第一第三點ハ第一審公判ニ地方裁判所ノ職務ヲ代理スルノ權ナキ檢事代理カ立會ヒタルハ適法ニ裁判所ヲ構成シタルモノニアラス從テ其公判ニ於テ爲シタル審問供述ハ無効ナルニ原院ハ第一審公判ニ於テ取調ヘタル證人阿部徳七同清七伊藤音次郎大越惣次郎ノ供述ヲ採リテ本件ノ證據ニ供シタルハ適法ナリト云フニ在リ○依テ第一審公判始末書ヲ檢スルニ公判ニ立會タルハ檢事代理渡邊夏衛ニシテ同人ノ如キ檢事代理ヲ命セラレタル司法官試補ハ地方裁判所ニ在テ同裁判所檢事ノ職務ヲ代理スルノ權ナキモノトス左スレハ第一審公

司法官試補ノ權能○檢事不干與ノ公廷

公訴ノ提起○牽聯事件ノ罪名○私書偽造罪ノ實害

判ニハ正當ナル檢事ノ立會ナク完全裁判所ヲ構成シタルモノハニアラサルヲ以テ公廷ニ於ケル
證人ノ供述モ亦適法ニ爲シタルモノト謂フヲ得ス然ルニ原院カ其不適法ニ爲シタル證人阿
部徳七外三名ハ陳述ヲ錄取シタル公判始末書ノ部分ヲ採リテ本件ハ證憑トナシタルハ失當ニ
シテ上告ハ其理由アルモノトス既ニ此點ニ於テ破毀ノ原由アル上ハ他ノ論旨ニ對シ一々説明
スルノ必要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院ニ移
シ審判セシム

明治二十九年三月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使私印盜用詐欺取財ノ件

明治二十九年第一二二一號
明治二十九年三月十日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 公訴ハ抗告ノ決定ニ因テ提起セラルヘキモノニアラス

(同點) 私印偽造行使罪ニハ私印盜用罪ヲ包含ス

(判旨第六點) 私書偽造行使罪ハ一般ノ信用ヲ害スル罪ニシテ詐欺取財罪ノ成立

ニ伴隨シテ實害ヲ生スヘキモノニアラス

第一審 京都地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 黃瀬辰造 辯護人 東三郎 磯部四郎 高木益太郎

右私書偽造行使私印盜用詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年一月二十二日名古屋控訴院ニ於
テ本院ノ移送ニ因リ被告ノ控訴ヲ審理シタル末京都地方裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重
禁錮三年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押取物品ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁
判費用ノ内證人松井源次郎木村宗太郎ニ關スル金一圓六十錢ハ被告ニ於テ大島利兵衛野垣
ト連帶シテ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告カ上告趣旨ハ原判決事實ノ認定ニ依レハ被告ハ私印盜用私書偽造行使ニ關與セサルコト
明白ナリ然ルニ實行正犯ト爲シタルハ不當ナリ何トナレハ則原判文ニ「根ヨリ請取り之ヲ以テ
金員ヲ借入レシムル爲メ云々」トアルニ依レハ被告ハ根ヲ教唆シタルモノトセシカ理由齟齬シ
且教唆ニ關スル法條ヲ適用セサレハ理由ヲ付セサル者ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱
スルニ被告ハ第一審ニ於テ相被告タリシ大島利兵衛野垣ト共ニ元江越倉庫會社ノ米預リ證
券ヲ偽造行使シテ自己ノ爲メ金員ヲ融通セント謀リ而シテ根ヲシテ右米預リ證券五通ヲ偽造
シ及ヒ同會社印社長印支配人印ヲ盜捺セシメ被告ハ之ヲ請取り利兵衛ニ渡シ以テ同人ヲシテ

公訴ノ提起○牽聯事件ノ罪名○私書偽造罪ノ實害

平井權七ニ交付シ金三百圓ヲ借入レシメタリトノ事實ヲ認定セリ故ニ被告ハ本件ニ付共謀シタル上ハ縱令自ラ前掲ノ私印盗用及ヒ私書偽造行使ニ加功セサルモ利兵衛及ヒ横ノ所爲ハ即チ分身一體ノ所爲ナレハ被告ハ實行正犯ニシテ教唆者ニアラサルナリ因テ原判決ハ理由ノ闕斷又ハ理由ヲ付セサル不法アルコトナシ

辯護士東良三郎カ擴張論旨ノ第一點ハ被告ハ豫審ニ於テ免訴セラレ檢事ヨリ抗告ノ未公判ニ付セラレタルモノニシテ即チ抗告ノ決定ニ依リ起訴セラレタルモノナリ而シテ右決定ノ事實ニ依レハ要スルニ被告ノ行爲ハ社長ノ實權ヲ有シ社務全般ノ事ヲ擔當中現米ヲ預リ居ラサルニ拘ラス預リタル如キ米券ヲ發行シタリトノ事實ニ對シ刑法上ノ責任アリトノ趣意ニ外ナラスシテ被告カ擅ニ他人ノ印影ヲ捺シ私書ヲ偽造シタリトノ事實ニアラサルナリ然ルニ原判決ハ抗告決定ノ事實ヲ度外ニ措キ右現米ヲ預ラスシテ米券ヲ發行シタル所爲ハ刑法上責任ヲ負フ可キモノナリト否ノ趣旨ニ對シテ判決ヲ爲サスシテ米預リ證券ヲ偽造行使シ金員ヲ融通セシコトヲ謀リ云々何レモ同會社印社長印支配人印ヲ捺シシメ云々ト判示シテ抗告決定ノ事實以外ニ新ナル事實ヲ認定シ隨テ刑法第二百八條ヲ適用シ處斷シタルハ起訴以外ノ事實ヲ設ケ來テ判決ヲ爲シタルモノナルヲ以テ不告不理ノ原則ニ違フ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○公訴ハ抗告ノ決定ニ因テ提起セラレタルモノハニアラスシテ原告官タル檢事ヨリ提起セラルハハハナリ而シテ第一審裁判所檢事ハ起訴狀ヲ查閱スルニ本案被告事件ノ罪名ハ私書私印偽造行使詐欺取財トアリテ右私印偽造行使トアル罪名中ニ私印盗用罪ハ勿論包含シ而シテ

判旨第二點

抗告ハ決定モ亦之ト同一ナレハ原院カ私印盗用私書偽造行使罪トシテ處斷シタルハ決シテ不告不理ノ原則ニ違フモノニアラサルナリ

同第二點ハ豫審終結決定書ニ依ルニ會社ノ文書其物ヲ偽造行使シ又其偽造ヲ爲スニ付自己ノ看守内ニアル會社ノ印章ヲ捺シタルモノト云フコトヲ得スト說明シ免訴ノ決定ヲ爲シタリ而シテ檢事ヨリ抗告ノ結果トシテ抗告決定書ニ印章捺シタル事實ヲ認メタル際ナキヲ以テ私印盗用罪ニ關シテ免訴ノ決定確定シタルコト分明ナリ然ルニ原判決ハ新ニ會社印社長印支配人印ヲ捺シタルモノ云々ト判示シ印章盗用罪成立セルモノト認メタルハ既ニ確定セル豫審ノ決定ヲ無視シタルモノニシテ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第一審裁判所檢事ノ抗告申立書ヲ查閱スルニ私印盗用ノ點ニ付テモ亦抗告ヲ爲スノ趣旨ヲ明記シアルノミナラス抗告決定書ヲ查閱スルニ(前畧)被告展造ハ云々私ニ會社ノ名義ヲ以テ空米ノ證券ヲ發行シ以テ金員ヲ融通セント欲シ云々米二十五俵券五枚ヲ作製シ之ニ社印役印割印ヲ捺捺シ云々社印役印割印ヲ押用シタル所爲ハ同第二百八條第二項同第二百十二條ニ當リ云々ト明示シアルニ付乃チ私印盗用ノ點ニ付免訴ノ決定ヲ爲シタル豫審終結ノ決定ハ決シテ確定シタルモノニアラサルコト明瞭ナレハ原判決ハ決シテ違法ニアラサルナリ

辯護士磯部四郎カ擴張論旨ハ原院カ被告ニ罪責アリトセラレタル斷案ハ被告カ江越倉庫會社ノ米券ヲ偽造シ大島利兵衛ヲシテ平井權七ヨリ金三百圓ヲ借受ケタリト云フ事實ニ關ス然ルニ原判決ノ理由ヲ見ルニ被告カ利兵衛ヲシテ偽造米券ヲ以テ權七ヨリ金三百圓ヲ借入レタル

公訴ノ提起○牽聯事件ノ罪名○私書偽造罪ノ實害

所爲ハ罪責ナシトセラレタリ然ラハ則米券ニ關スル事實ハ當初ヨリ其原因ヲ欠缺スルモノナ
レハ亦罪責ヲ生ス可キ理ナク原院カ事實ノ審究ニ關シ前後相齟齬スル所案ヲ下シ漫ニ米券偽
造行使ノ罪責アリトシタルハ理由ヲ具セサル違法ノ判決ナリト云フニ在レモ○私書偽造行使
ノ所爲ハ獨立シテ別個ノ犯罪ヲ構成スルコトヲ得可キモノナレハ本案ニ付米券偽造行使ノ所
爲ヲ有罪ト爲シ右米券ヲ以テ平井權セヨリ金三百圓ヲ借入レタル所爲ヲ無罪ト爲シタルハ固
ヨリ當然ニシテ其金員ヲ借入レタル所爲ノ罪トナラサル理由ヲ明示シアル上ハ其他ノ理由ヲ
付スルコトヲ要セス故ニ原判決ハ相當ナリトス

辯護士高木益太郎カ辯明論旨ノ第一點ハ原判決理由ノ末段ニ「原裁判所ニ於テ云々社印社長印
支配人印ヲ盗用シタル所爲ハ各別罪ヲ構成スルモノナルニ合セテ之ヲ一罪ト爲シタル點云々
失當ナリト雖モ本件ハ被告ノミノ控訴ニ係ルニ付刑事訴訟法第二百六十五條ニ依リ此點ニ付
テハ原判決ヲ變更セス」トアレトモ既ニ其前後法律ノ理由ニ於テ社印社長印支配人印ヲ盗用シ
タル所爲ハ各同第二百八條第二項ニ依リ同第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減シ同第二百十二條ノ監視
ニ付シト掲ケ其各所爲ニ付相當ノ法則ヲ適用シアルヲ以テ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更
シタルモノナルヲ明ナリ乃チ原判決ハ理由ニ齟齬アリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱スル
ニ前後ノ理由ヲ對照スレハ則社印社長印支配人印ヲ盗用シタル所爲ハ各刑法第二百八條第二
項ニ依リ同第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減シ同第二百十二條ノ監視ニ付ス可キモノナルニ第一審ニ
於テ之ヲ一罪ト爲シタルハ失當ナレトモ被告ノミノ控訴ニ係ルニ付刑事訴訟法第二百六十五

判旨第六點

條ニ依リ第一審判決ヲ變更セストノ判旨ナルコト明白ニシテ被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變
更シタルモノニアラス隨テ原判決ハ前後ノ理由相齟齬スルコトナシ
同第二點ハ原院ニ於テ金員騙取ノ點ハ其事實ナキコトヲ認メ無罪ノ判斷ヲ下シタルニモ拘ラ
ズ獨私書偽造行使罪ノ成立ヲ認メタルハ理由ノ齟齬ナリ何トナレハ則右二個ノ犯罪ハ實體上
一個ノ所爲ニ過キササルヲ以テ之ヲ區別シテ論擬ス可キモノニアラス況ヤ偽造證書行使ノ目的
ニシテ既ニ詐欺取財罪ヲ構成セサルモノトセハ偽造證書行使ノ爲メ實害ヲ受クル者ナク隨テ
私書偽造行使罪成立スルモノニアラス因テ原判決カ此點ニ付有罪ノ判定ヲ下シタルハ不法ナ
リト云フニ在レトモ○右前段ノ論旨ハ辯護士磯部四郎ノ擴張論旨ニ對スル說明ニ依テ了解ス
可シ又後段ノ論旨ハ私書偽造行使ノ罪タルハ一般ノ信用ヲ害スルモノハナルニ付詐欺取財ノ罪
ヲ構成セサルモ之カ爲メ實害ヲ生スルコトナシト論スルコトヲ得ス故ニ私書偽造行使ノ罪
アリト斷定シタルハ相當ノ判決ナリトス

同第三點ハ原院公廷ニ於テ本訴ノ證據書類中江越 庫會社定款及ヒ米券四通ヲ朗讀シタルコ
トナキニモ拘ラス之ヲ斷罪ノ資料ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末
書類ヲ查閱スルニ裁判長ハ云々江越倉庫會社定款ヲ摘讀シテ被告ニ問證據書類ノ要領ハ右ノ如
クナリ異議ナケレハ全部ノ朗讀ヲ畧ス答覆聞セニ及ヒマセン裁判長ハ押收ニ係ル一切ノ證據
書類ヲ示シ被告ニ問如何答別ニ爭ハアリマセント記載シアルニ付乃チ江越倉庫會社ノ定款ハ
其要部ヲ摘讀シテ全部ノ朗讀ヲ省畧スルコトヲ被告ハ承諾シ又米券四通ハ一切ノ證據書類中

公訴ノ提起○牽聯事件ノ罪名○私書偽造罪ノ實害

ニ包含スルモノニシテ其期満ニ代エ被告ニ示シタルモノナレハ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年第一五二號
明治二十九年三月十日宣告

○判決要旨

詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタル所爲(刑法第三百九十條第二項ハ) 實質上ノ一罪ニシテ數罪ニアラス

(參照) 入ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(因テ官私ノ文書ヲ偽造シ及ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第三) 第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告 人 水野彦五郎 辯護人 高橋捨六 高木金太郎

私訴上告人

精舎 喜右衛門
三輪 倫太郎
美濃部 八十一郎

右彦五郎ニ對スル私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件及之ニ附帶スル私訴ニ付名古屋控訴院ハ公訴ニ付テハ第一審裁判所檢事ノ控訴ニ依リ私訴ニ付テハ民事原告人美濃部八十一郎ノ控訴ニ依リ本件ヲ受理シ審理ノ末公訴ニ付テハ原判決ハ之ヲ取消ス被告彦五郎ヲ私印偽造使用一罪私書偽造行使十二罪私印盜用詐欺取財各三罪アリトシ一ノ重キ私印偽造使用ノ罪ニ從ヒ重禁錮四年罰金四十圓監視一年ニ處ス押收書類中偽造ニ係ル委任狀五通賣渡證書正副共六通小作證書改印届書改印證明願書依頼書各通ハ沒收シ其他ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用金十一圓三十錢ハ被告彦五郎ノ負擔トス私訴ニ付テハ原判決中被告訴人精舎右衛門精谷辰太郎三輪倫太郎ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス被告訴人精舎右衛門ハ明治二十五年六月二十五日龜山區裁判所ニ於テ控訴人所有地伊勢國鈴鹿郡野村大字庄野千三百五十八番字里屋敷田一反九畝九步外二十七筆買得ノ登記ヲ受ケタル其登記ヲ取消シ速ニ其地所ヲ控訴人ニ返還スヘシ被控訴人精谷辰太郎ハ明治二十五年九月二十七日龜山區裁判所ニ於テ控訴人所有地伊勢國鈴鹿郡野村大字庄野千九百番字倉町田三畝十一步外五十一筆買得ノ登記ヲ受ケタル其登記ヲ取消シ速ニ其地所ヲ控訴人ニ返還スヘシ被控訴人三輪倫太郎ハ明治二十五年十月六日龜山區裁判所ニ於テ控訴人所有地伊勢國鈴鹿郡野村大字庄野二千二百七十六番字長久留田二反一畝十七步外五十七筆買得ノ登記ヲ受ケタル其登記ヲ取消シ速ニ其地所ヲ控訴人ニ返還スヘ

シ被控訴人水野彦五郎ニ對スル控訴人ノ控訴ハ之ヲ棄却ス私訴費用ノ内被控訴人水野彦五郎ニ關スル費用ハ惣テ控訴人ノ負擔トシ其他ノ費用ハ惣テ被控訴人箱喜右衛門槽谷辰太郎三輪猶作三名ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ服セス被告外三名ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告辯護人高橋捨六高木益太郎辯明第六ハ原判決主文ニ被告彦五郎ヲ私印偽造使用罪一罪私書偽造行使十二罪私印盜用詐欺取財各三罪アリトシ一ノ重キ私印偽造使用ノ罪ニ從ヒ重禁錮四年罰金四十圓監視一年ニ處ストアレモ其判決理由ニ寶渡證書依頼書委任狀等ノ偽造行使ハ詐欺取財ノ手段ナリトシテ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタルヲ以テ則チ私書偽造ニ依ル詐欺取財ノ罪アルコトヲ認メタルヲ明亮ナリ然ルニ原判決ハ實質上ノ一罪ヲ區別シ單純ナル私書偽造行使十二罪詐欺取財三罪ナリト斷定シタルハ不法ノ裁判ナリト云ヒ私訴上告代理人ハ原院私訴ノ判決ハ公訴判決ノ理由ヲ引用シアルヲ以テ公訴判決破毀アル以上ハ私訴判決モ破毀アルヘキモノナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ查閱スルニ其法律適用ハ部ニ於テ(前略)各委任狀各寶渡證書(正副)ニテ一罪及小作證書ヲ偽造行使シタル所爲ハ何レモ同法第二百十條第一項第二百十二條ニ該當シ改印屈改印證明願書依頼書ヲ偽造行使シタル所爲ハ何レモ同法第二百十條第二項第二百十二條ニ該當シ金具ヲ騙取シタル所爲ハ何レモ同法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該當ス因テ同法第三百九十條第二項及同法第三百九十四條第一項第三百九十四條第二項ニ從ヒ處斷シ云々トアリ既ニ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル已上ハ詐欺

取財ノ罪ト因テ私文書ヲ偽造シタル罪トハ彼是對比シテ其重シトスル所ヲ採テ一罪トナシ處斷スヘキモノナリ然ルニ判決主文ハ冒頭ニ私書偽造行使十二罪詐欺取財各三罪アリトシ云々トアリ此文詞ハ判決主文ノ冒頭ニ記載スルモ其被告ヲ重禁錮罰金監視ニ處分スル法律上ノ理由ニ外ナラス故ニ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル理由ト此點ノ理由トハ相齟齬スルコト明カニシテ判決全部ハ破毀ヲ免カレサル不法アリトス既ニ此點ニ於テ公訴判決全部ヲ破毀スヘキ理由アリト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々說明セス且ツ私訴ニ付原判決ヲ閱スルニ其理由中云々ノ事實ハ公訴判決ニ認ムル如クナレハ云々トアリハ右公訴判決ニシテ破毀スヘキモノナル以上ハ私訴判決モ隨テ全部ハ破毀ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

公訴私訴ニ對スル原判決ハ共ニ全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス

明治二十九年三月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治二十九年第二一〇號
明治二十九年三月十二日宣告

○判決要旨

郵便局ノ集配人ハ其局ノ雇員ニシテ局長ノ雇人ニアラス

(參照) 集配人ハ郵便電信局又ハ郵便局又ハ電信局ニ付屬スルモノトス但三等郵便局ノ

集配人ヲ雇入レ又ハ其雇ヲ解ケコトハ集配受雇人之ヲナスモノトス(集配人服務規則
第一條第一項)

第一審 福岡地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 小島太郎

明治二十九年二月四日長崎控訴院ニ於テ右太郎ニ對スル監守盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判
決ヲ取消シ被告太郎ヲ輕懲役七年ニ處ス押収品ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用金二圓
七十錢ハ被告ノ負擔トスト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長大島貞敏ハ
答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ本院檢事及辯護士ノ辯明
ヲ聽キ審理スル處

上告趣意書第一點ハ縷々陳辯スル所アルモ其要旨ハ一件記録中一モ被告ノ犯罪ヲ證スルモノ
ナク設ニ證人松田源次郎佐々木義一等ノ證言アルモ其證言ハ不實ニシテ採用スヘキモノニア
ラス然ルニ原院カ證據ニ反シ架空ニ有罪ノ認定ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○裁
判官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實認定ノ當否ヲ論争スルモノニシテ上告適法ノ原由トナラ

ス第二點ハ本件ノ爲替貯金ハ被告ノ保管ニ係リ若シ水火盜難其他疎虞憚念ニヨリ損失ヲ生セ
シメタルトキハ被告ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラサル責メアルモノナレハ躬ラ之レヲ竊取ス
ルノ理由ナシト云フニ在レトモ○賠償ノ義務アルモノハ必スシモ其物件ヲ竊取セサルモノト
云フヘカラサルハ勿論ナレハ本論旨モ畢竟裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過
キサルモノトス第三點ハ三等郵便電信局ノ集配人ナル者ハ同局長ノ雇人ニシテ一般官署ノ小
使ト異ナルコトハ明治二十年迄逓信署公達第百號集配人服務規則ニ依テ明カナレハ集配人松
田源次郎佐々木義一ハ局長タル被告人ノ雇人ナリ殊ニ右兩名ハ被告ト同居ノ者ニシテ本事件
ニ付キ證人タル資格ナキモノナルニモ拘ラス原院ニ於テ右兩名カ證人トシテ取調ヘラレタル
豫審調書ヲ採用シテ證據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右服務規則ニ依ルモ總テ
集配人ハ其局ノ雇員ニシテ決シテ局長其者一私人ノ雇人ト爲シタルニアラサルコト判明ナリ
而シテ又源次郎義一ノ兩名ハ被告人ト其住居ヲ異ニスルモノハナルコトハ訴訟記録ニ明カニシ
テ同居人ト認ムヘキ事實ナシ第四點ハ佐々木圓二ハ本件ニ付キ最モ嫌疑アルモノナルヲ以テ
被告人利益ノ爲メ證人トシテ召喚アランコトヲ辯護人ヨリ請求ヲ爲シタルニ原院ニ於テ故ナ
ク其請求ヲ棄却シタルハ越權ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ檢スルニ辯護人ノ
請求スル證人ノ喚問ハ不必要ト否決シタリト言渡タル旨記載アリテ故ナク棄却シタルニアラ
ストス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十二日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○公印盜用公私文書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年第二一四號
明治二十九年三月十二日宣告

○判決要旨

法律適用ニ關スル檢事ノ意見ハ必スシモ法文ノ明示アルヲ要セス其意思ヲ表明スルヲ以テ足レリトス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 高階丈吾 辯護人 岡崎正也

右丈吾カ公印盜用公私文書偽造行使詐欺取財等被告事件ノ控訴ニ付明治二十九年二月十日函館控訴院ニ於テ大審院ノ移送ニ係ル盛岡地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決中被告高階丈吾ノ控訴ニ係ル部分ヲ取消ス被告高階丈吾ヲ重禁錮三年ニ處シ監視八月ニ付ス抑收ノ偽造證書類ハ之ヲ沒収シ其他ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長山本昌行ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士岡崎正也ノ辯論立會檢事岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決ス

ルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ要旨原院ハ被告カ第二ノ行爲ニ關シ印鑑證明書ヲ公證人梅内直曹ニ差出シ結局之ヲ一條榮治ニ交付シタル事實ナルヲ以テ明治二十三年法律第百號及ヒ刑法第二百四條ニ該當スル犯罪ナリト判示シタルハ不當ナリ何トナレハ梅内直曹ノ證言ニ依レハ公證人トシテ法律上印鑑證明ヲ要セサルモノナレハ被告カ之ヲ示シタルハトテ公印ノ行使ヲ成サトルハ全然無關係ノ人ニ示シタルト一般ナレハナリト云フニアレトモ○原判文ニ依レハ被告ハ他ト共謀シテ掉地外作ノ印鑑證明書ヲ偽造シ之ヲ公證人役場ニ呈出シ公正證書ヲ作成セシメ尙其印鑑證明書ハ後日ノ證トシテ債主ニ渡置キトアリテ被告等ハ該證明書ヲ利用シテ證明ノ具トナシ尙後日ノ證トシテ之ヲ債主ニ渡シ信用ヲ措カシメタルノ事實ヲ認メソレハ法律上公證人役場ニ印鑑證明ヲ要スルト否トニ關セス之ヲ行使シタルモノト云ハサル可カラス因テ上告其理由ナシ岡崎辯護士上告趣意擴張要旨ノ第一點原裁判所ニ於テハ判文說明ノ如ク被告カ偽造ニ係ル掉地外作ノ印鑑證明書ヲ行使シ其結果トシテ村役場吏員カ不實ノ證明書ヲ作成シタル事實ヲ以テ官文書偽造罪ヲ構成スヘキ者ト判示セラレタレトモ證書偽造罪ハ其署名者ノ資格ヲ詐リ冒スノ事實アルヲ要スルハ當然ニシテ其記事ノ眞否ノ如キハ犯罪構成ノ要件ニアラサルヤ明カナリ本件ノ證明書ハ相當公吏ノ作成シタル者ナレハ其事項ノ事實ニ反シタレハトテ以テ偽造罪ヲ構成スヘキ筋合ナシ又被告カ右偽造ノ證明願ヲ行使シタル結果トシテ公吏ヲシテ本件證明書ヲ作成セシメタル事實ハ全ク偽造ノ私書ヲ行使シタル結果ニシテ之レカ爲メ被告ニ

法律適用ノ意見

法律適用ノ意見

七十

對シ官文書偽造罪ヲ構成スヘキ筋合ナシ云々ト云フニアレトモ○原判文ニ依レハ「被告丈吾良治ハ亡近藤順治ト相謀リ云々擅ニ掉地卯作ノ印鑑證明願書ヲ作成シ順治ハ當時衣川村々長タリシ故ヲ以テ自ラ其資格ヲ冒シ右願書ノ末尾ニ證明文ヲ記載シ且之ニ其職印及ヒ役場印ヲ捺シ以テ偽造ヲ完成シ之ヲ公證人役場ニ呈出シテ公正證書ヲ作成セシメ尙ホ後日ノ證トシテ該證明書ヲ債主ニ渡置タリ」ト判示シアリテ右ノ所爲ハ惣テ被告等ノ共謀上ヨリ生シタルノ事實ヲ認メアレハ即チ公文書偽造ノ行使ニシテ上告論旨ニ據陳セシ如キ違法アルコトナシ」第二點本件ハ警井支部ニ於ケル豫審ノ當初ヨリ明治二十六年四月十日佐々木太平カ本件ノ證人トシテ宣誓セシメラレ且訊問セラレタル當時ニ至ルマテ被告トシテ取調中ノ者ハ近藤順治高階丈吾山田眞治千葉幸右衛門高橋壽吉藤卷作之丞野村政成等ノ七名ナリ然ルニ右證人ヲ訊問スルニ付近藤順治外五名ニ對シ刑事訴訟法第二百三條ノ關係ヲ訊問シ宣誓セシメタル事跡アレトモ其他ノ被告人ニ關シ之ヲ聽キタルノ事跡ナシ依テ右證人調書ハ同法第二百一十一條ニ違背セル不法アルニ拘ラス原院カ之ヲ證據ニ採用セラレタルハ不法ナリト云フニアレトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ明治二十六年盛岡地方裁判所警井支部ヘノ第六十七號官金竊取等ノ事件ニ付明治二十六年四月十日同廳豫審判事カ佐々木太平ヲ該事件ノ證人トシテ訊問シタル當時ノ被告人ハ近藤順治高階丈吾山田眞治藤卷作之丞野村政成鈴木傳四郎ノ六名ナリトス故ニ其宣誓書及ヒ調書ニ近藤順治外五名トアルハ前記六名ヲ指シタルコト明カナレハ豫審判事ハ證人ニ對シ右六名ト身分上ノ關係ヲ調査シ宣誓セシメタル上訊問シタルモノナルコトハ認メ得

可キニ依リ該證人ノ調書ヲ違法ナリト云フヲ得ス因テ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ」第三點檢事ハ事件ノ第一審ナルト第二審ナルコトヲ問ハス證據調濟ノ後ニ於テ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述スヘキヲ要スルハ刑事訴訟法第二百二十條ノ規定ニ依リ明カナリ然ルニ原院公判始末書ヲ見ルニ檢事ハ第一審判決ニ錯誤アルヲ以テ之ヲ取消スヘキコトヲ申立タル事跡アルモ原院ニ於テ適用スヘキ法律ニ付毫モ意見ヲ述ヘタルコトナシ云々因テ原判決ハ訴訟手續ニ違背セル不法アリト云フニアレトモ○檢事ハ法律適用ニ關スル意見ハ一々法條ヲ明示セサルモ其意思ヲ表示スレハ足ルモノナリ茲ニ原院公判始末書ヲ查スルニ檢事ハ只第一審判決ハ法律適用ニ錯誤アルニ付之ヲ取消シ更ニ相當ハ判決相成度旨辯論セリトアリテ右ハ陳述ハ則チ法律適用ノ意見ヲ表示シタルモノナリト認メ得可キニ依リ上告論旨ハ其理由ナシ以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

法律適用ノ意見

七十一

〇私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年第二五六號
明治二十九年三月十三日宣告

〇判決要旨

司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲スニ付事毎ニ檢事ノ指揮ヲ待ツテ要セス

司法警察官ハ檢事ノ補佐官ナリ

(參照) 左ニ記載シタル官吏公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯

罪ヲ捜査ス可シ第一、警視、警部長、警部、警部補第二、憲兵將校、下士第三、島司第四、郡長第五、林

務官第六、市町村長(刑事訴訟法第四十七條二項)

第一審 安濃津地方裁判所山田支部

第二審 名古屋控訴院

被告人 倉内勝助

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年二月二十四日名古屋控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理シタル末安濃津地方裁判所山田支部ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮五月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押収書類ノ内偽造ニ係ル山裂地賣渡證一通ハ没収シ古田春松名義ノ證明書一通ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ上告趣旨ノ第一點ハ非現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官ハ檢事ノ指揮アル外犯罪ノ捜査ヲ爲ス權利ナキモノナレハ本件ニ付警部大河平教員カ作成シタル古田春松ノ聴取書及ヒ警部代理巡

査和田某ノ作成シタル品要旨ノ聴取書ハ即チ司法警察官カ檢事ノ指揮ヲ受ケス專斷ヲ以テ犯罪ノ捜査ヲ爲シタル不當ノ所爲ニ起因スルニ付無効ノモノナリ然ルニ原院カ之ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲スニ付檢事ノ指揮ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツコトヲ要セス告發等ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ直チニ捜査ハ處分ニ着手スヘキコトハ檢事ノ補佐官トシテ常ニ檢事ヨリ委任セラレタルモノト看做サハル可カラサル故ニ本件ニ付司法警察官カ捜査處分ヲ爲シ古田春松等カ任意ハ陳述ヲ錄收シ以テ聴取書ヲ作成シタルハ違法ニアラサルヲ以テ原院カ右聴取書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ是亦違法ニアラサルナリ

同第二點ハ原院文ノ冒頭ニ「被告勝助ハ明治二十八年十月中居村古田春松ヨリ山林賣却方ヲ依頼サレ云々」トアリテ即チ山林賣買ノ全權代理者タルコトヲ認メタルモノナレハ其代金ヲ受授スル權利アルハ當然ノ事ナリトス然ルニ其後段ニ至リ茲ニ金錢ヲ詐取スルノ目的ヲ以テ山林賣買ニ關シ代金ノ受取方ヲ委任セラレタルモノト如ク詐言シ云々トアルハ完全ノ代理權ニ抵觸シ事實理由ノ齟齬ナリト云フニ在レトモ〇原院文ヲ查閱スルニ其冒頭ニ「被告勝助ハ云々古田春松ヨリ山林賣却方ヲ依頼サレ云々」トアルハ即チ山林賣却ノ周旋ヲ依頼サレタリトノ判旨ニ過キスシテ山林賣買ノ取引ニ關スル代理權ヲ委任サレタリトノ判旨ニアラサルコト瞭然タリ故ニ其後段ノ山林賣買ニ關シ代金ノ受取方ヲ委任セラレタルモノト如ク詐言シ云々ト

司法警察官ノ犯罪捜査權〇檢事ノ補佐官

アル判文ト雖モ其理由ノ顯露スルコトアラサルナリ
 同第三點ハ被告ハ賣買ヲ爲スコトヲ依頼サレ而シテ委任者タル古田春松モ亦之ヲ明認スルコトハ原告ノ明示スル所ナリ故ニ被告ハ賣買約定ヲ爲シタルハ委任ノ權利ヲ執行シタルモノニシテ詐欺手段ヲ以テ山田宗七ヲ信用セシメタルモノニアラスシテ宗七カ實地臨檢シ賣主ノ代理者タル被告ト賣買ノ約定ヲ爲シタルハ當然ノ事ニシテ罪トナラサル所爲ナリ然ルニ原告カ有罪ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇已ニ前項ニ説明シタル如ク原告判文ニ認ムル所ハ被告ハ古田春松ヨリ山林賣却ノ周旋ヲ依頼サレタルニ過キスシテ山林賣買ノ取引ニ關スル代理權ヲ委任サレタルモノニアラサレハ本論旨ハ要スルニ原承審官カ認定外ノ事實ヲ以テ其認定シタル事實ナリト附會シ而シテ原告判決ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ採ルニ足ラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十九年三月十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

〇放火及竊盜ノ件

明治二十九年第二三六號
明治二十九年三月十六日宣告

〇判決要旨

重罪事件ト雖モ其判決言渡ニハ必スシモ辯護人ノ立會アルヲ要セス

(參照) 重罪ノ事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告入ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得書記ハ本條ニ付キ特ニ調査ヲ作ルヘシ(刑事訴訟法第七條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院
 被告人 新井重三郎

明治二十九年二月十四日東京控訴院ニ於テ右重三郎ニ對スル放火及竊盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ本院檢事及辯護士ノ辯明ヲ聽キ審理スル處
 被告人上告趣意書第一點ハ被告ハ原告決ニ掲ケル如キ犯罪ノ所爲ヲ行フタル事アラサルノミナラス假リニ犯罪行爲アリタリトスルモ犯時十二歳以上十六歳未満ニシテ而モ是非ノ辨別ナクシテ犯シタル者ナレハ刑法第八十七條(第八十條)ノ誤記ナルヘシニ依リ不論罪トナスヘキヲ

重罪ノ裁判言渡

相當トス然ルニ原判決ノ爰ニ出サリシハ憲法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○前段ハ全ク裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ固ヨリ上告ノ原由トナラス後段論旨ニ付キ判文ヲ檢スルニ其末文ニ被告ハ年齢十二歳以上十六歳未滿ナリシモ是非ヲ辨別シテ犯シタルモノナリト判示シアリ即原院ハ被告ハ是非ヲ辨別シテ犯シタルモノト事實ヲ認メタルモノナレハ本論旨ハ畢竟右事實ノ認定ニ對シ徒ラニ批難ヲ試ミルニ過キサルモノナルヲ以テ是亦上告ノ原由トナラス同第二點及辯護士上告趣意辯明書ノ趣意ハ重罪公判開廷ニ付テハ必スヤ辯護士ノ出廷ヲ要スルコトハ刑事訴訟法第二百三十七條ノ規定ニ依テ明カニシテ又同法第二百四十三條ニ依レハ辯護士ハ上訴スルノ權アルヲ以テ判決言渡ニ付テモ亦必ス辯護士ノ立會ヲ要スルコト明カナリ然ルニ原院ニ於テ判決言渡ノ期日ヲ辯護士ニ通知セス從テ當日辯護士ノ立會ナクシテ判決言渡タルハ違法ナリ右ノ如ク辯護士カ右判決言渡ニ立會タルコトナキハ一件記録中辯護士當日出頭ノ名刺ナク又公判始末書ニ判決言渡ノ期日ヲ辯護士ニ告知シタルコトノ記載ナキニ依テ明カナルニ同始末書ニ當日辯護士カ出頭シテ判決言渡ニ立會ヒタル旨記載アルハ不法ノ處置ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第七十九條第一項ニ被告ハ辯論ハ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得下アリテ其辯護人ヲ用ユルハ辯論ハ爲メナルコト明カナルヲ以テ設令重罪事件ト雖モ判決言渡ニ付テハ必スシモ辯護人ハ立會アルヲ要スルモノニアラズト爲ヘキハミナラス本件ニ付テハ現ニ辯護人モ判決言渡ニ立會タル旨公判始末書ニ明記シアルハ本上告論旨ハ相立サルモハトス上告人

ハ當日出頭ハ名刺ナキコト又ハ期日告知ノ記載ナキヲ以テ當日出頭セザリシ確證ト爲サントスルモハハ如キモ右等出頭名刺又ハ告知ノ記載アルニアラザレハ出頭スルコトヲ得サルモノニアラザルハ勿論ナレハ之ヲ以テ右公判始末書ハ明記ヲ打消スルコト亦論ヲ待タズ因テ同法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十六日大審院第三刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○酒精營業稅法違反ノ件 明治二十九年第二四〇號
明治二十九年三月十六日宣告

○判決要旨

故障ノ受理ニ依リテ欠席判決ハ當然消滅ニ歸スヘキモノトス

(參照) 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ(刑
三十三條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 新井代次郎 辯護人 鳩山和雄 指田義夫

故障ノ受理

故障ノ受理

右酒精營業税法違反被告事件ニ付明治二十九年二月十五日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ罰金二千七百圓ニ處シ販賣シタル酒精代價金一千三百六十七圓八十錢ヲ追徴スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察事長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察廳當該辯護士鳩山和夫指田義雄ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ被告ニ對シ無免許ニテ甲種ノ營業ヲ爲シタリトノ判決ヲ爲スニハ必ス自用者ニ非サル者ニ販賣シタルコトヲ必要トス然ルニ原判決ハ酒精ノ買受人ハ自用者ニ非サルモノナリトノ事實ヲ定メスシテ直チニ甲種ニ屬スル無免許營業ナリト判定セシハ理由ノ不備ナル裁判ナリト云フニ在レトモ○酒精營業税法第一條ヲ按スルニ酒精ヲ買入レ自用者ニアラサル者ニ販賣スル者ヲ甲種營業人トス然ラハ原判決ニ甲種ニ屬スル營業ヲ爲シタルモノト判示シアル上ハ特ニ買受人カ自用者ニアラサルコトハ明示セサルモ同法第十條ヲ通用スヘキ事實ナルコト明ニシテ事實理由ノ不備ナリトセス辯護士ノ擴張要旨第一ハ原判決ノ事實ニ依レハ被告カ買入レタル石數ハ三十六石ニシテ販賣石數ハ合計三十石二斗四升ニ過キス其餘ノ酒精ヲ販賣シタルノ事實ヲ定メスシテ三十六石ニ對スル營業稅三倍ノ罰金ヲ言渡シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○酒精營業税法第一條ニ依レハ酒精ヲ販賣スル者ヲ營業者トス故ニ販賣シタルトキニ限ラス未タ販賣セスト雖モ酒精ヲ買入レ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏シ何時ニテモ買手ノ需ニ應ジ販賣シ得ルノ域ニ達シタルトキハ本條ノ營業人ナリトス況ンヤ被告

ハ秋島五三郎ヨリ酒精三十六石ヲ買入レ自宅ニ引取タル後チ既ニ三十石二斗四升ヲ漸次相庭市次郎ニ賣渡シタルモノナレハ酒精ノ營業ヲ爲ス者ナルコト勿論ナリ而シテ同法第十條ニ「無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類云々ヲ汲収シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徴ス」トアリテ營業者ニシテ無免許ナル上ハ他ニ賣渡シタルモノト未タ賣渡サトルモノト別々ス酒精全部ノ石數ニ割合ヒ營業稅三倍ノ罰金ニ處スルモノトス依テ原院ニ於テ被告カ買入レタル酒精ノ全部即三十六石ニ對スル罰金ヲ科シタルハ相當ナリトス第二ハ原院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却ストノ欠席判決アリテ之ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シ原院ハ之ヲ受理シ控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消シナカラ欠席判決ヲ廢棄スルノ判決ヲ爲サス二個ノ判決兩立スルニ至リタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法ニ在リテハ故障ヲ受理スルニ依リテ欠席判決ハ自カヲ消滅ニ歸スルヲ以テ其故障ニ對スル對審判決ニ於テ欠席判決廢棄ハ判旨ヲ明記セサルモ違法ニアラス第三ハ問稅官吏ハ犯則者ニ對シテ訊問ヲ爲シ調書ヲ作成スルノ權能アリト雖モ問稅官吏ハ犯則者處分法第九條ノ要件ヲ欠キタル調書拔萃ハ適法ノ證據ニアラス況ンヤ該官吏カ被告ニ不利益ナル部分ヲ隨意ニ拔萃シタルモノ、如キハ不法ノ甚シキモノナリ然ルニ原判決ハ秋島五三郎吉田仲三郎ノ尋問調書拔萃權濫用助ノ臨檢調書拔萃ヲ斷罪ノ證トシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○右調書拔萃ハ拔萃體認寫シタルモノナルヲ以テ問稅官吏ハ犯則者處分法第九條ノ要件ノ記載ヲ欠ク所アルハ當然ナリ而シテ調書作成ノ權能アル官吏ノ拔萃體認寫シタルモノナレハ調書ノ拔萃トシテハ有効ナル

故障ノ受理

前科錯誤ノ再審

文書ナルヲ以テ原院方之ヲ採用シ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ニアラス上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

上告豫納金ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ其半額ヲ沒收ス

明治二十九年三月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○賭博再審ノ件

明治二十九年再審第一七號
明治二十九年三月十七日宣告

○判決要旨

公正證書ヲ以テ原判決ニ認メタル前科ニ錯誤アルコトヲ證明スルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得

(參照) 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(刑事訴訟法第三百一一條)
公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(同第五條)
原裁判所 岐阜地方裁判所

被告人 松浦竹三郎

右竹三郎ニ對スル賭博被告事件ニ付明治二十九年一月十六日岐阜地方裁判所ニ於テ賭博罪アリトシ重禁錮四月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ押収ニ係ル賭博ノ器具及ヒ賭錢ハ總テ之ヲ沒收スル旨言渡シタル確定判決ニ對シ被告ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告竹三郎再審ノ訴旨ハ要スルニ被告ハ所轄村長證明通り管テ一度モ處刑ヲ受ケシコトナキニ原判決ハ前科再犯已上ノモノトシテ刑法第九十二條同第九十八條ニヨリ一等ヲ加重シタルハ不法ナリト云フニ在リ

○依テ案スルニ本件被告人ハ前科更ニ無カリシコトハ岐阜縣大野郡黒野村外四ヶ村組合長松浦六三郎ハ證明書ニ依テ明白ナリ而シテ原判決ニ明示セシ前科ニ付裁判言渡書附本及ヒ前科調書ヲ查閱スルニ氏名ハ松浦竹三郎ニシテ當被告人ハ氏名ト同一ナレトモ其住所ハ岐阜縣加茂郡久田見村ニシテ生年月モ安政五年四月ナレハ此前科調書ヲ以テ本件被告人ヲ處分シタルコト明カニシテ刑事訴訟法第三百一一條第五號ニ規定セシ再審ハ原由アリトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第三百七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ破毀シ再ヒ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ名古屋地方裁判所ニ移送ス

明治二十九年三月十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

前科錯誤ノ再審

○誣告ノ件

明治二十九年第二四三號
明治二十九年三月十七日宣告

○判決要旨

虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル判決ハ不法ナリ

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 後藤善三

右善三ニ對スル誣告被告事件ニ付明治二十九年二月二十四日名古屋控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス後藤善三ヲ誣告ノ罪アリトシ重禁錮六月罰金四圓ニ處ス假下金ハ其儘差出人ニ還付ス公訴裁判費用金七十五錢ハ被告之ヲ負擔スヘシト首渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告善三上告趣意第二點後段ノ趣旨ハ要スルニ原判決證據列記ノ部ニ「當公廷ニ於ケル供狀」トアリテ參考人安藤與藏已下證人等ノ出廷シ其供狀ニ依リテ認定セラレタル如ク見ユルモ更ニ參考人其他ノ人ハ出廷シタル如キ事實ハ見ルコト能ハス依テ何人ノ口述狀況ニ因リテ之ヲ認定セラレタルヲ氷解スルコトヲ得ス假リニ之ヲ上告人カ供狀トスルモ毫モ何人ノ供狀ナルヤヲ明記セザレハ之ヲ見ル能ハス之レ法律上理由ヲ明示セザル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ原判決ハ查閱スルニ其證據列記ノ部ニ「巡查廣瀬録太郎ハ作カハル證據書告訴取調

書參考人安藤與藏安江彌助證人川村利七ノ各豫審調書當公廷ニ於ケル供狀ニ依リ證據十分ナリトアリテ其供狀ハ參考人及ヒ證人等ノ原院公廷ニ於ケル供狀ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノハ如シ然ルニ其公判始末書ヲ閱スルニ證人參考人等ノ原院公廷ニ出席シタル事跡毫モ之レナキヲ以テ原判決ハ虛無ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタル不法アリト云ハサルハカラス若シ否ヲストスレハ何者ハ供狀ヲ採リタルカ判明セザルニ付キ即チ證據ハ明示ヲ缺キタル不法アルモノニシテ到底全部破毀ヲ免カレサル不法ハ裁判ナリトス既ニ此點ニ於テ原判決ハ全部ヲ破毀スヘキ理由アリトスル以上ハ他ハ上告論旨ハ一々説明ヲ要セス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ移送ス

明治二十九年三月十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十九年第二四四號
明治二十九年三月十七日宣告

○判決要旨

債務者ノ供託シタル金員ヲ或ル期間内債權者ニ預ケ置クヘキ示談ヲ爲シ債權

預金ノ所有權

者ニ於テ之ヲ取下ク保管シタルトキハ該金ノ所有權ハ其授受ト同時ニ債權者ニ歸スヘキモノトス而シテ仍ホ其所有權ノ債務者ニ存スルコトヲ認メンニハ相當ノ理由ヲ付スルヲ要ス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 中島徳次郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年二月二十日大阪控訴院ニ於テ大阪地方裁判所カ被告徳次郎ヲ重禁錮八月罰金拾圓監視六月ニ處ス公訴裁判費用ハ被告人ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理シタル末原判決ヲ取消シ被告徳次郎ヲ無罪トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ同院檢察長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告ハ答辯書ヲ差出シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣意第二ハ刑法第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ云々騙取シタルモノトアリテ同法第三百六十條ノ如ク人ノ所有物云々トセサルハ他ナシ他人ノ占有ニ係ルモノヲ騙取セハ自他ヲ論セス犯罪ヲ構成スルヲ以テナリ明治二十八年五月十四日鹿取忠信被告事件ニ對スル大審院判例ニ照スモ明ナリ然ルニ本金額カ民吉ノ占有ニ係ルヲ認メナカラ詐欺取財ノ罪ヲ構成セスト爲シタル判決ハ擬律ヲ誤リタルヲ論テ俟タスト云フニ在リ
○依テ原判文ヲ閱スルニ被告ハ松尾善六ニ對スル債務ノ爲メ有體動産ヲ假リニ差押ヘラレシトスルニ當リ金二百五拾五圓ヲ供託シテ一旦差押ヲ免レタル後チ更ニ右供託金ヲ債主ニ取下ケシメテ或ハ期間内ニ之ヲ債主ニ預カ置

クヘキ示談ヲ爲シ債主ニ於テ供託金ヲ取下ケタル處被告ハ詐稱ヲ設ケ之ヲ欺キ虛無ハ小切手ヲ交付シテ其預カ置キタル二百五十五圓ノ金ヲ債主ヨリ取出シタル事實ヲ叙シアリ而シテ之カ無罪ノ理由トシテハ右金圓ハ被告ハ所有ナルヲ以テ詐欺取財ノ罪ヲ構成セストハ事ナリ然レトモ既ニ金圓ヲ債權者ニ受取ラシメタル以上ハ其金圓カ封金等特定物ニアラサル限りハ其授受ト同時ニ所有權ハ債主ニ歸スヘキモノナレハ原院カ右ノ如ク被告カ金圓ヲ債主ニ預カタルコトヲ認メ而シテ直チニ之ヲ被告ハ所有ナリト爲シタルハミニシテ其金圓ヲ債主ニ預カタルモ尙所有權ハ被告ニ存在スルトハ理由ヲ付セサルハ即チ理由ハ不備ニシテ擬律ハ當否ヲ監査スルニ由ナキ不法ノ裁判ナリトス此點ニ於テ原判決ハ全部ノ破毀ヲ免レサルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對シ説明スルノ要ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治二十九年三月十七日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

○冒認ノ件

明治二十九年第二五八號
明治二十九年三月十七日宣告

○判決要旨

第一二審ノ判決互ニ其認定ヲ異ニシタルトキハ控訴ハ棄却セラルヘキモノニ
アラス

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 大塚新治郎

右冒認被告事件ノ控訴ニ付明治二十九年二月十九日宮城控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之
ヲ棄却スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長
代理檢事正木昇之助ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告ノ要旨ハ第一審ニ於テハ數名ノ共犯者アリテ悉ク其判決ニ服從シ第二審ニ至リテハ當被
告一人ノミノ事件トナリタリ而シテ第一審ニ於ケル罪狀ヲ數ブレハ第一乃至第八即チ八ヶノ
罪狀アリシナリ當被告ハ此八ヶ條ノ内第二乃至第六即チ五ヶ條ニ關係シテ罪ヲ犯シタルモノ
トセリ而シテ第一審ハ被告ヲ數罪俱發ニ問ヒ其内ノ重キ第五ノ罪ニ從ヒ處斷セラレタルニ第
二審判文ヲ見ルニ第一乃至第五ノ各所爲ハ共ニ刑法第三百九十三條第一項第三百九十條第一
項第三百九十四條及ヒ第四百四條ニ該當シ而シテ數罪俱發ナルヲ以テ同法第四百條ヲ適用シ其中

第五ノ罪ニ從ヒ云々ト旨渡シタルハ不法ナリ何トナレハ第一審ニ於ケル第五ノ罪ハ第二審ニ
於ケル第四ノ罪ニ當リ又第二審ノ第五ノ罪トハ第一審ノ第六ノ罪ニ當リ其重シト見ル處異ナ
ルニ原院ハ故ナク其判決ヲ變更シナカラ何等ノ説明ヲモ爲サズ漫然控訴棄却ヲ旨渡シタルハ
不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ被告所論ハ如ク原院カ一ノ重シト認メタル第五ノ罪ハ
第一審ハ第六ノ罪ニ當リ第一審カ一ノ重シト認メタル第五ノ罪ハ原院ハ第四ノ罪ニ當リ即チ
數罪中一ノ重キモノヲ定ムルニ付原院ハ第一審ト其認定ヲ異ニシタルニ拘ハラズ第一審判決
ヲ相當ナリトシテ被告ハ控訴ヲ棄却シタルハ違法ハ判決ニシテ上告ハ其理由アリトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ東京控訴院ニ移
送シ更ニ適法ノ審判ヲ爲サシム

明治二十九年三月十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○強盜殺人ノ件

明治二十九年第二二二號
明治二十九年三月十九日宣告

○判決要旨

被告人ノ年齢ハ必スシモ戶籍ニ憑據スルヲ要セス證人及參考人ノ豫審調書ヲ
年齢ノ算定

採容シ之ニ依テ算定スルコトヲ得而シテ其年齡ノ算定ハ事實問題ニ屬ス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 松井松之助

明治二十九年二月七日東京控訴院ニ於テ右松之助ニ對スル強盜殺人被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件被告ノ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ本院檢察及辯護士ノ聲明ヲ應キ審理スル處

上告趣意ハ戸籍面ニ依レハ被告ハ明治九年ノ出生ニシテ本件犯罪ノ當時即チ明治二十八年四月ニ在テハ未タ丁年ニ達セザリシモノナルヲ以テ本刑ヨリ一等ヲ減シテ處斷セラルヘキモノナルニ原院ニ於テ被告ノ此點ニ對スル論旨ヲ採用セスシテ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ法律ニ違背シタル不法アルモノナリト云フニ在リ○因テ審察スルニ諸般ノ證據ヲ取捨スルハ事實裁判官ノ職權ニシテ而シテ原院ハ戸籍ヲ採ラスシテ證人及參事人ノ豫審調書ヲ採用シ被告ハ出生ノ年月日ハ明治九年ニアラスシテ明治六年六月ナリト判定シタルモノナリ從テ被告ハ犯罪ノ當時已ニ丁年者ナリシヲ以テ減等ノ處分ヲ爲スヘキモノニアラス即チ原判決ハ相當ニシテ上告ハ理由ナシトス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十九年三月十九日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢察安居修職立會宣告ス

○強盜ノ件

明治二十九年第二五二號
明治二十九年三月十九日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 強盜ノ目的ヲ以テ他人ノ家ニ侵入シ暴行ヲ加ヘタル以上ハ財物強取ノ事實アルト否トニ拘ラス強盜罪ナリトス而シテ此場合ニ於ケル負傷ノ所爲ハ當然強盜傷人罪ヲ成立ス

(參照) 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス(刑法第三百七十八條)

強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス(刑法第三百)

(判旨第三點) 重罪控訴豫納金免除ノ申請ニ對スル決定ハ原判決ノ前審ニアラス從テ其決定ニ干與シタル判事ハ法律上除斥セララルヘキモノニアラス

(參照) 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セララル可シ(刑事訴訟法)判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルト

同條(四號) 強盜傷人罪ノ成立○前審ノ干與

強盜傷人罪ノ成立○前審ノ干與

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 萩田長藏 辯護人 高木益太郎

右強盜被告事件ニ付明治二十九年三月二十日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ無期從刑ニ處
スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニヨリ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式
ヲ履行シ檢事廳當融辯護士高木益太郎ノ辯明ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ公判ノ際一件記録ノ朗讀ヲ爲サス有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ口頭審理ノ定則ニ違
反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ本件記録ハ朗讀セシメサ
ルモ意見ナキヤノ間ニ對シ被告人辯護人異存ナシト答ヘアリテ朗讀省略ヲ甘諾シタルモノナ
レハ其朗讀ナキヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス『辯護士ノ辯明要旨第一ハ刑法第三百七十八條
ニ依レハ財物強取ヲ以テ強盜已遂ノ要素トナス而シテ立法者ハ同一ノ節目中ニ強盜ナル法語
ヲ二様ノ意味ニ使用シタリト見做スヘカラサルヲ以テ第三百八十條ニ所謂強盜モ財物強取ヲ
以テ已遂ノ一條件トナスヤ必セリ然ルニ財物ヲ強取セスシテ逃去タル未遂ノ所爲ニ對シ第三
百八十條前段ノ已遂犯ヲ以テ處斷シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レモ○被告ハ強盜ハ目
的ヲ以テ岩吉ト共ニ仕込杖ヲ携ヘ與吉方ヘ押入リ與吉ニ暴行ヲ加ヘタル上ハ財物ヲ強取シタ
ルト否ニ關セス強盜ニ外ナラス其強盜ニシテ人ヲ負傷セシメタル事實ハ刑法第三百八十條前
段ハ強盜傷人罪ヲ構成スルモノトス故ニ原判決ハ疑律ハ相當ニシテ上告ハ其理由ハ第一第二ハ
本件ニ付原院ノ裁判長タリシ松室判事ハ曩ニ共犯岩吉ノ重罪控訴豫納金免除ノ申請ニ對シ岩

判旨第二點

本件ニ付原院ノ裁判長タリシ松室判事ハ曩ニ共犯岩吉ノ重罪控訴豫納金免除ノ申請ニ對シ岩

判旨第三點

吉ハ被告ト強盜傷人ノ事實アルモノト認メ乃チ控訴ノ理由ナキモノトシテ免除ヲ許サストノ
決定ヲ與ヘタルニモ不拘原判決ニ參與シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○重罪控訴豫納金
免除ハ申請ニ對スル決定ハ原判決ハ前審ニアラサルヲ以テ右決定ニ干與セシ判事ハ原判決ヲ
爲スニ付除外セラレハハニ非サルヲ以テ論旨ハ如キ違法アルコトナシ『第三ハ豫審ニ於テ證
人齋藤與吉ヲ訊問スル際民事原告人小川源兵衛ト刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ調査シタ
ル事跡ナク又小川源兵衛ハ民事原告人ナルニ之ヲ證人トシタルハ違法ナリ然ルニ原院モ右兩
名ノ調書ヲ證人ノ調書トシテ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○齋藤與吉ノ調書ニハ
刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載スル條件ニ付取糾シタル處抵觸ナキヲ認メ證人トシテ訊問ス
ル旨ノ明記アレハ民事原告人トノ關係ヲ調査シタルコト明カナリ又小川源兵衛ハ證人トシテ
訊問ヲ受タル日ト私訴ヲ申立タル日ハ同一ナリト雖モ其調書ニ刑事訴訟法第二百二十三條ノ條
件ヲ取糾タル處抵觸ノ厭ナキヲ以テ證人トシテ訊問スル旨ノ明記アレハ私訴申立前即民事原
告人トナラサル以前ニ證人トシテ陳述シタルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ原院ニ於テ右兩
名ノ調書ヲ證人ノ調書トシテ採用シタルハ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當融立會宣告ス

強盜傷人罪ノ成立○前審ノ干與

○強姦未遂成傷ノ件 明治二十九年第二五五號

明治二十九年三月二十三日宣告

○判決要旨

強姦等ヲ爲スニ因テ人ヲ創傷セシメタル所爲(刑法第三百五十一條)ハ親告罪ニ
アラス從テ告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴權ヲ消滅セス

(参照) 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ
照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタ
ル者ハ無期徒刑ニ處ス(刑法第三百
五十一條)

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 池谷竹次郎 辯護人 熊倉兼三郎
土屋兼三郎

右池谷竹次郎カ強姦未遂成傷被告事件ニ付明治二十九年二月二十六日東京控訴院ニ於テ靜岡
地方裁判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ原判決ハ之ヲ取消ス被告池谷竹次郎ヲ重禁
錮二年ニ處ス押収ノ物件ハ差出入ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トスト言渡シタル
第二審ノ判決ニ服セス被告人ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履
行シ被告辯護人熊倉操土屋兼三郎ノ辯論及立會檢事岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左
ノ如シ

上告ノ要旨ハ本案事件ハ全ク冤罪ナルヲ以テ其人遠ナルヲ證明スル爲メ證人ノ申請ヲ爲シタ

ルニ原院ハ其證人ヲ不必要ナリト決定シナカラ被告人ヲ犯罪者ト爲シタルハ利益ノ證據提出
ヲ拒ミタルモノニシテ違法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○公判廷ニ於テ證人喚問ノ申請ヲ許可
スルト否トハ裁判官ノ職權ニ任シタルモノナレハ其喚問ヲ不必要ナリト認メ申請ヲ却下シタ
ルハ相當ノ處分ニシテ違法ト爲スコトヲ得サルモノトス
辯護士熊倉操カ上告趣意擴張書ノ要旨ハ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ以テ強姦未遂ナリトシ處斷
セラレタルモ其後被害者ヨリ告訴ヲ取下タル事實ハ其取下書類ニヨリ明カナリ然ラハ本案ノ
辯論ヲ俟タスシテ刑事訴訟法第六條第二項ニ依テ消滅スルモノナレハ免訴ノ判決アルヘキモ
ノト思量ス然レトモ原院ハ被告ノ所爲ヲ以テ強姦未遂ノ外尙ホ毆打創傷罪アリト認定シタル
モ強姦罪ハ暴行強迫ニ出ルモノナレハ其創傷事實ノ如キハ當然ノ結果ニシテ主タル強姦罪消
滅スルトキハ從タル創傷罪モ共ニ消滅スルモノト信ス假ニ本案ハ數罪俱發ナリトセンカ親告
罪タル強姦罪ハ告訴ノ拋棄ト共ニ消滅スルモノナレハ他ニ俱發ノ犯罪アルモ爲メニ一旦消滅
シタル親告罪ノ復活スル理由ナキモノトス又原判文ニ被告ノ所爲ハ刑法第三百五十一條ニ依
リ第三百四十八條第百十三條第百十二條第六十九條ヲ適用シテ一等ヲ減シ第三百一一條第二項
ニ照シ其重キ強姦未遂罪ニ從ヒ云々トアリ此判文ニ依レハ何故ニ其重キ強姦未遂ニ間フタル
ヤ知ルニ由ナシ是レ法律ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○刑法第三百五十一條
ハ強姦等ノ罪ヲ犯スニ因テ人ヲ創傷セシメタル所爲ヲ罰スルハ法條ニシテ此條ハ罪ハ告訴ヲ
待テ論スルノ特例ナキヲ以テ告訴ノ拋棄ニ因リ公訴消滅スルモノニ非ス而シテ同第三百五十

條ニ前數條ニ記載シタル罪ハ云々告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアルハ第三百四十六條以下ニ記載セシ猥褻及ヒ強姦等ノ罪ヲ指稱シタルモノニシテ其後條タル第三百五十一條ノ罪即チ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルノ限ニ在ラサルヤ明白ナリ故ニ本案被告事件ニ付被害者ヨリ告訴ヲ取テケテ爲シタルモノヲ以テ犯罪ハ消滅シタルモノト云フコトヲ得サルナリ又本件ノ事實ハ強姦ヲ爲サントシテ人ヲ創傷セシメタル所爲ナルヲ以テ單ニ刑法第三百五十一條ニ依リ毆打創傷ノ本條ニ照シ重キニ從テ處斷スヘキモノニシテ固ヨリ數罪俱發ノ法條ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ原判文ニ列記セシ刑法ノ各條ヲ適用シ其重キ強姦ヲ未遂罪ニ間擬シタルハ相當ノ判決ニシテ法律ヲ適用セストノ論旨モ亦相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月二十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜再審ノ件

明治二十九年再審第一九號
明治二十九年三月二十四日宣告

○判決要旨

同一ノ事件ニ付共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキハ再審ノ理由トナスコトヲ得

原裁判所 盛岡地方裁判所

被告人 武田 鶴松

右竊盜被告事件ニ付明治二十八年十二月二十三日盛岡地方裁判所ニ於テ重禁錮五月監視六月ニ處ス押收物件ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ同裁判所檢事ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

再審ノ訴旨ハ本案ノ事實タルヤ鶴松ハ郵便物配達方ノ規定ニ背キ其郵便書ヲ居村高橋和市ナル者ニ託シ高橋重作ヘノ渡方ヲ依頼シタルモ同村ニ高橋重作ト云ヘル同氏名ノ者兩人アリ但村字ヲ異ニス(受信人重作ハ字岩崎ニシテ他ノ重作ハ字岩崎新田ナリ)ト雖モ和市ハ之ニ心付カス右郵信人ニ非サル字岩崎新田高橋重作ニ引渡シタリ然ルニ此重作ナル者其已レニ宛タル信書ニ非サルコトヲ知リナカラ之ヲ受取リ開封シテ在中爲替券ニ處偽ノ記載ヲ爲シ以テ券面ノ金員ヲ郵便局ヨリ受取リタルモノナリ因テ高橋重作ニ對シ起訴ニ及ヒタル處審理ノ末盛岡地方裁判所ニ於テ對席判決ヲ以テ明治二十九年三月四日有罪ノ言渡ヲ爲シ而シテ其判決確定シタルニ付即チ刑事訴訟法第三百一條第二號ニ該當スル再審ノ理由アリト認ム

別人受刑ノ再審

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七條ニ依リ再審ヲ爲サシムル爲メ原判決ヲ破毀シ本案ヲ青森地方裁判所ニ移ス

明治二十九年三月二十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○故殺未遂ノ件

明治二十九年第二三三號
明治二十九年三月二十四日宣告

○判決要旨

檢事カ起訴ノ事件ニ付シタル罪名ハ裁判所ヲ拘束ス可キモノニアラス故ニ公判ニ於テ豫審終結ノ決定ニ基キ其事件ノ罪名ヲ變更スルモ違法ニアラス

第一審 大津地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 西澤 數馬

右故殺未遂被告事件ニ付明治二十九年二月十三日大阪控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理シタル末大津地方裁判所カ被告ヲ重懲役九年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル小刀壹挺ハ之ヲ沒收シ押収ノ小刀壹挺ハ被告ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告負擔スヘシト言渡シタル判決ハ相當ニシテ被告ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一點ハ原判文ノ理由中被告カ被害者押谷万吉ト宿怨アルコトヲ掲ケ常ニ不快ノ念ニ堪ヘサル折柄云々醫術ニ用ユルランセツトト稱スル小刀ヲ取出シ之ヲ懷中シ云云トアリテ謀殺ニ關スル殺意アルコトヲ認メナカラ平素ノ鬱憤一時ニ激發シ忽然殺意ヲ生シ云云トアリテ故殺ノ事實ヲ附加シ被告ヲ刑法第二百九十四條ニ照シタルハ理由ノ顛倒ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ査閱スルニ万吉ハ醫長被告ハ醫員トナリ万吉ノ聲望常ニ被告ノ上ニ出ツルノミナラス業務上往々意見ヲ異ニスルコトアリ不快ノ念ヲ懷キ居リシ折柄高山與八郎カ赤痢病ニ感染セシ事ニ付意見ヲ異ニシタルヨリ平素ノ鬱憤茲ニ激發シ忽チ殺意ヲ生シ携帶セシ革盤ヨリ醫術ニ使用スルランセツトト稱スル刃物ヲ取出シ之ヲ懷中シ同室ノ椅子ニ腰掛ケタル萬吉ノ傍ニ至リ左手ニテ同入ヲ抱キ右手ニランセツトト持チ万吉ヲ傷ケタリトノ判旨ニシテ乃チ前後一貫故殺ノ事實ヲ認メタルノミニシテ毫モ謀殺ノ事實ヲ認メタルコトナケレハ理由ノ顛倒スルコトアラサルナリ

同第二點ハ逮捕告發調書ハ被告ニ對シ何等ノ辯明ヲモ爲サシメスシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ裁判長ハ逮捕告發調書ヲ讀聞シ如何ト問答何事シタルカ知ラスト記載シアリテ即チ被告ニ意見ヲ問ヒ辯解ヲ爲サシメタルコト明白ナルニ付本論旨ハ探ルニ足ラサルモノトス

同第三點ハ原院ニ於テ證人河邊富太郎ノ證言ニ依リランセツトト以テ人ヲ殺シ得ルト認定シタルトモ此等ノ事ハ鑑定人ノ鑑定ニ依リ判定ス可キニ證人ト鑑定人トヲ區別セザリシハ違法

ナリト云フニ在テ○要スルニ原承審官ノ職權ニ在スル探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレモノ
ナレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第四點ハ第一審判文冒頭ニ故殺未遂被告事件ノ公訴云々ト記載シアリテ原院モ亦本件ヲ以
テ故殺未遂事件トシテ審理シタレトモ本件公訴ハ謀殺未遂トシテ起訴セラレタルモノナレハ
原院公訴ノ受理ハ不法ナリト云フニ在レトモ○檢事ハ公訴ハ本件ニ付謀殺未遂ハ罪名ヲ付
スルモ裁判所ハ固ヨリ其罪名ニ拘束セラル可キモノニアラス而シテ第一審及ヒ原院カ本件ニ
付故殺未遂ハ罪名ヲ付シタルハ乃チ故殺未遂罪トシテ公判ニ付シタル豫審終結ハ決定ニ基キ
タルモノナレハ原院カ本件ハ公訴ヲ受理シタル點ニ付意モ違法アルコトナシ

同辯明論旨ノ第一點ハ被告ハ決シテ殺意ナシ全ク急遽ノ際筆ト誤リラシト持テ打チ
シモノナルニ原院カ故殺未遂ト判定セシハ不服ナリト云ヒ同第二點ハ被害者万吉カ醫長ノ權
ヲ以テ各證人等ト申合セ被告ヲ重罪ニ陷ルル目的ヲ以テ不實ノ申立ヲ爲サシメタルモノナリ
ト云ヒ同第四點ハ犯罪ノ用ニ供セシラシトハ人ヲ殺シ得可キ利刃ニアラス療用ニモ供シ
難キモノナリ云々ト云ヒ同第五點ハ被告ハ平素精神病頓ニ發スルコトアリ本件喧嘩ノ當時モ
亦激怒ニ因テ知覺精神ヲ喪失シタリト云フニ在テ○右論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬ス
ル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第三點ハ豫審終結決定ニ依レハ被告ハ豫テ被害者万吉ニ對シ宿怨アル如ク認めタレトモ醫
術上互ニ意見ヲ異ニスルカ爲メ宿怨ヲ懷ク答ナシト云フニ在テ○既ニ確定シタル豫審終結決

定ノ事實認定ヲ論難スルモノナレハ是亦上告ノ理由トナル可キモノニアラス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十九年三月二十四日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○詐欺取財私印私書偽造行使ノ件 明治二十九年第二七一號
明治二十九年三月二十四日宣告

○判決要旨

私印偽造罪ハ行使ニ依リテ成立ス從テ情ヲ知テ之ヲ行使シタル事實アルトキ
ハ其偽造ノ自他ヲ問ハス刑責ヲ免ルルヲ得ス

(參照) 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス(刑法第二
第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院)

被告人 橋川 佐七
牧戸 辰次郎

右詐欺取財私印私書偽造行使被告事件ニ付明治二十九年二月二十八日名古屋控訴院ニ於テ被
告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告佐七ヲ重禁錮七月罰金十圓監視六月ニ被告
他人偽造ノ私印行使

他人偽造ノ私印行使

辰次郎ヲ重禁錮一年罰金十五圓監視六月ニ處スト言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ

百

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告橋川佐七上告趣旨ノ第一ハ原院ニ於テ被告兩名ヲ私印偽造行使ニ罪私書偽造行使詐欺取財未遂ノ罪アリトシ云々ト判決セラレタルモ理由中ニ被告カ私印ヲ偽造シタルトノ事實ヲ示サスシテ單ニ主文ニ於テ私印偽造行使ノ罪アリトシタルハ裁判ニ理由ヲ付セサル判決ナリト其第二ハ殊ニ原院ニ於テ私印偽造行使ニ罪アリト主文ニ掲ケラレシモ理由中ニハ「證券印紙ノ消印ノ處ニハ桐岡靜吾カ豫テ偽造シ置キタル云々捺印シ」トアルノミニシテ其他ニ一罪アルコトヲ示サス然ルニ被告ニ私印偽造行使ニ罪アリトシタルハ判決ニ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院文ヲ查閱スルニ(前署)濱地寅市濱地安兵衛ノ名下及ヒ各業ノ契印井ニ證券印紙ノ消印ノ處ニハ桐岡靜吾カ豫テ偽造シ置キタル濱地寅市濱地安兵衛ノ實印ヲ捺捺シ云々トアリテ被告カ牧戸辰次郎桐岡靜吾ト共謀ノ上靜吾カ兼テ偽造シ置キタル情ヲ知リテ濱地寅市濱地安兵衛兩名ノ偽造印ヲ行使シタル事實即チ私印偽造行使ノ二罪アルコトヲ明示シアレハ第一第二ノ上告論旨ハ共ニ其理由ナシ
被告牧戸辰次郎上告趣旨ノ第一ハ原院判決主文ニ於テ牧戸辰次郎ヲ私印偽造行使云々ニ處ストアリ而シテ其理由中事實認定ノ部ヲ見ルニ桐岡靜吾カ豫テ偽造シ置キタル濱地寅市濱地安兵衛ノ實印ヲ捺捺シ云々トアリ然ラハ右理由ニ依レハ本件ノ所謂私書偽造證券ニ捺捺セシ印

頭二個ハ靜吾カ豫テ偽造シ置キタルモノナルコト明了ナリ更言セハ私印偽造ノ所爲ハ業己ニ本件偽造證券作成以前ニ靜吾カ偽造シタルモノニシテ被告ハ何等ノ關係ナキコト明了ナリトス然ハ則チ被告ハ刑法第二百八條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサルニ原院判決ハ被告ニ對シ私印偽造罪ヲ以テ處斷シ其理由ニ於テ該犯罪構成事實ノ反對ヲ説明セラレシハ即チ前後阻礙アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○私印偽造罪ハ其行使アリテ始メテ成立スルモノナレハ他人ハ偽造ニ係ル場合ト雖モ既ニ其情ヲ知リテ行使シタル上ハ偽造ハ自他ヲ問ハス刑責ヲ免カハハ能ハサルモノトス故ニ原院判決ハ上告論旨ハ如ク理由阻礙ハ點アルコトナシ其第二ハ原院判決冒頭ニ三重縣度會郡吉澤村云々トアルモ被害者ハ吉澤村ニシテ吉澤村ニアラサルコト一件記録ニ依ルモ明了ナリ而シテ其吉澤村云々トアル被害者ハ吉澤村ノ被害者ト別人ナルヤ將タ同人ナルヤ最モ緊要ノ點ニ於テ明瞭ヲ關クハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院文ニハ吉澤村トアリテ吉澤村トアルコトナシ蓋シ吉澤村トアルハ判決謄本ノ誤寫タルヘシト雖トモ謄本ノ誤寫ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス其第三ハ原院判決ハ私書偽造罪ト私印偽造罪ノ輕重ヲ比較スルニ當リ私書偽造罪ヲ重シトセラレタレハ兩罪ノ刑期ヲ比照スルニ私印偽造罪ノ刑期ヲ重シトス然ルニ原院判決ニ於テ一ノ重キ私書偽造罪ニ依リ處斷ストセラレシハ刑法第百條ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ即チ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○輕罪ノ刑ニ付テハ其所犯情狀ノ最モ重キ者ニ從テ處斷スヘキモノニシテ單ニ刑期ノ輕重ニ從フヘキモノニアラス畢竟スルニ上告論旨ハ刑法第百條ノ誤解ニ過キサレハ適法ノ理由ト爲スニ足ラス其第四ハ

他人偽造ノ私印行使

百一

本件私書偽造行使ノ點ニ付被告ノ干與セザリシコトハ一件記録ニ依ルモ明了ニシテ即チ被害者ニ被告狀ヲ發シタルモ該狀ノ筆跡者タル桐岡靜吾ナルコトハ爭フ可カラサル事實ナリ然ルニ被告ヲシテ行使ノ所爲ニ干與シタリト判決セラレシハ不法ナリト云ヒ同辯明書ノ第一ハ被告ハ相被告桐岡靜吾橋川佐七等ト共謀シ偽造證書ヲ被害者ニ示シテ請求ヲ爲シタルコト更ニナシト云ヒ第二ハ九百圓ノ證書ハ原告委任狀ナルヨシ桐岡靜吾カ何方ヨリカ携へ來リ相被告左七ノ宅へ持チ行キ私チ謀リ謀求人トナシ佐七チ甘ク欺キタルモノナリト云ヒ第三ハ桐岡靜吾カ山崎惣九郎チ加ヘテ催促狀ヲ發シタルコト及ヒ佐七ノ宅へ被害者ノ代人來リタル際請求爲シ吳レト同人へ頼ミタルコト等ハ被告ニ於テ更ニ知ラスト云ヒ第四ハ被害者ノ代人二度佐七方へ來リタル際佐七ハ代人ニ示シテ豫テ九百圓ノ證書事件ニ付テハ靜吾辰次郎等ニ相談アレト言ヒタル由然ルニ二人ノ代人ハ私ノ宅へハ一切來ラス故ニ被告ハ後日迄前條ノ始末ヲ知ラスト云ヒ第五ハ被告ハ靜吾ト共ニ證券ヲ佐七方へ持行キタルコトナシ假リニ持行キタリトスルモ該證券ノ出處ヲ知ラス又其證券ヲ以テ請求致シ吳レト佐七ニ頼ミタルコトナシト云ヒ第六ハ佐七ハ靜吾ニ謀ラレ若シ金員ヲ靜吾へ渡サハ惡シカルヘシト心付キ忠告ノ爲メ子供ヲ以テ書面ヲ持セ同人へ忠告致シタルコトアリト云ヒ第七ハ本件ノ事實ハ元來靜吾カ被告ニ對シ吉津村内ノモノニ眞ノ貸主アレトモ金員ヲ借用シ來リタル際宇治山田町ニテ借用シタリト眞債主百數人名ノモノへ申聞ケタリ故ニ同町内ニテ貸主ヲ拵ヘ請求ナシ吳レ度シトノ依頼アリタリ依テ其實際ノ貸主ハ誰ナルヤト聞キタレハ金守彌藏ノ外二名アリト云ヒ然ルトキ被告

ハ實際ノ貸借アリシニアラサレハ請求ノ依頼ニ應ジ難シト答ヘタリト云ヒ第八ハ被告ニ於テ靜吾等ト會合シタルハ其當時商業ノ爲メニシテ本件犯罪事件ノ爲メナラサルニ原院カ判文上ノ如ク認定セシハ不法ナリト云ヒ在レトモ○以上ノ論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ批難シ或ハ本件犯罪事項ニ直接ノ關係アラサル事實ヲ陳述スルニ止マルモノニシテ孰レモ適法上告ノ理由ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年三月二十六日宣旨

○判決要旨

不動産賣買ノ登記ハ公示ノ方法タルニ過キスト雖モ既ニ被害者ヲ欺罔シテ地所賣渡證書ヲ偽造シ登記ヲ經テ其證書ヲ所持スル以上ハ表面其所有權移轉ノ手續ヲ盡シタルヲ以テ不動産ノ騙取罪ヲ成立ス(明治二十六年第七七號私印盜用私

四卷一七頁登載參看)

不動産ノ騙取

不動産ノ騙取

第一審 青森地方裁判所弘前支部

第二審 函館控訴院

被告人 佐藤福藏

葛西岩太郎

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年二月二十六日函館控訴院ニ於テ
言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ原控訴院檢事根岸敬ハ附帶上告ヲ爲シタルニ
依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告佐藤福藏ノ上告趣意第一點ハ凡詐欺取財罪ヲ構成スルニハ被害者ヲ欺罔シテ錯誤ニ陥ラ
シムル事實ナカルヘカラス然ルニ原判決ニ認メタル所ニ據レハ被告ハ被害者吉川目慶ノ事實
ヲ盜掠シテ同人所有ノ地所賣渡ノ登記ヲ經タルノミニシテ竊モ目慶ヲ欺罔シタル事實アラサ
ルニ原判決ニ被告ハ詐欺取財罪ヲ犯シタルモノナリト認定シタルハ違法ナリト云フニ在レト
モ○原判決ニハ被告ニ於テ吉川目慶ヨリ金圓借用ノ依頼ヲ受ケタルヲ奇貨ト爲シ相被告岩太
郎ト共謀シテ目慶ヲ欺罔シ被告等ノ作製シタル目慶ヨリ被告岩太郎ニ宛タル借用證書ニ押印
スヘシト稱シテ目慶ヨリ實印ヲ出サシメ該借用證書ニ押印スル際竊ニ贋メ偽造シ置タル目慶
ノ地所賣渡證書等ニ目慶ノ實印ヲ盜用シ其賣渡ノ登記ヲ受ケテ右地所ヲ被告福藏ノ所有名義
ト爲シタル事實ヲ明示シアリ然レハ被告カ目慶ヲ欺罔シテ地所賣買ノ手續ヲ爲シ賣買ノ名義
ヲ以テ目慶ノ地所ヲ騙取シタル事實ハ原判決ノ說明ニ依リ明瞭ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由
ナシ第二點ハ本件ノ偽造證書ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノタルニ過キスシテ固ヨリ應禁物ニア
ラサルニ原判決ニ於テ刑法第四十三條第一號ニヨリ沒收シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

○偽造證書ハ固ヨリ應禁物ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ被告葛西岩太郎ノ上告趣意ハ原
判決ニ明治二十八年一月十一日被告等カ偽造ノ地所賣渡證書ニ吉川目慶ノ實印ヲ盜掠シタル
カ如ク認定セラレタレントモ原判決ニ掲ケタル證據書類中ニハ明治二十八年一月十一日ニ在テ
右ノ事實アリタルコトヲ證スヘキモノナキヲ以テ原判決ハ證據ナクシテ架空ニ事實ヲ認定シ
タル違法アリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル探證及ヒ事實認定ノ當否ヲ論争スルモノ
ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

檢事ノ附帶上告第一點ハ原判決ニ被告等カ偽造ノ地所賣渡證書ヲ登記所ニ提出シ地所ノ所有
名義ヲ書換タル所爲ヲ以テ直チニ之ヲ騙取シタルモノト認メ詐欺取財ノ刑ヲ適用シタルハ擬
律ノ錯誤ヲ免レス何トナレハ不動産ニ對スル賣買ノ登記ハ單ニ第三者ニ對シ其事實ヲ公示ス
ルノ方法ニ過キサレハ決シテ所有權移轉ノ効果ヲ生スルコトナク從テ其所爲ヲ以テ不動産ノ
騙取ト爲スヲ得サレハ此點ニ對シテハ無罪ヲ言渡スヘキモノト信スト云フニ在リ○然ルニ不
動產賣買ノ登記ハ上告論旨ハ如カ公示ノ方法ニ過キスト雖モ既ニ被害者ヲ欺罔シテ地所賣渡
證書ヲ偽造シ登記ヲ經テ其實買證書ヲ所持スル上ハ即表面地所所有權移轉ノ手續ヲ盡シタル
モハナルヲ以テ原院カ之ヲ騙取ト認メテ詐欺取財ノ刑ヲ適用シタルハ違法ニアラス第二點ハ
原判決ニ被告等カ吉川目慶ノ地所ヲ冒認シテ之ヲ吉川彦左衛門ニ賣渡シ其代金トシテ金千百
圓ヲ受取タル事實ヲ認メナカラ之ニ對シ冒認罪ノ刑ヲ適用セザリシハ違法ナリト云フニ在レ
ル○原判決ニ認メタル事實ニ據レハ右ノ地所賣渡ノ事實ハ地所騙取ノ結果ナルヲ以テ原判決

不動産ノ騙取

確定判決ノ再起訴

ニ其所爲ヲ冒認罪ト認メサリシハ違法ニアラス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告及ヒ附帶上告ハ共ニ之ヲ棄却
ス
明治二十九年三月二十六日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○冒認ノ件

明治二十九年第二七八號
明治二十九年三月二十六日宣告

○判決要旨

竊盜被告事件ノ公訴ニ付無罪ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタルニ拘ラス其後ニ
至リ同一ノ事實ニ對シ冒認被告事件トシテ公訴ノ提起アリタルトキハ免訴ノ
言渡ヲ爲スヘキモノトス

(參照) 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタルトキハ放
免ノ言渡ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第百
五條一項)
確定判決ヲ經タルトキ(同條
四號)
犯罪ノ既遂十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ

又第百六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ(刑事訴訟
法第二
四號)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大島友次郎 辯護人 岩田 鍊

右冒認被告事件ニ付明治二十九年二月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告
及ヒ原院檢事ヨリ各上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事岩
田武儀辯護士岩田鍊ノ辯論ヲ聽キ審理スル處

原院檢事長上告ノ趣意ハ本件ハ明治二十八年十一月七日前橋地方裁判所檢事ヨリ被告ニ對シ
テ提起シタル竊盜被告事件ノ公訴ニ付同年十一月二十七日同裁判所ニ於テ無罪ノ宣告ヲ爲シ
タル被告事件ト同一ニシテ該裁判ハ既ニ確定シタルニ依リ本件被告ニ對シテハ刑事訴訟法第
二百二十四條後段第百六十五條第四第二百三十六條第二百五十八條ノ規定ニ從ヒ免訴ノ言渡
ヲ爲スヘキ筈ナルニ前確定判決アルヲ願ヒスシテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ
在リ○依テ訴訟記録ニ添附シアル前ノ竊盜被告事件ハ書類ト本件ハ書類トハ對照査照スルニ
上告論旨ノ如ク本件ノ事實ハ既ニ確定判決ヲ經タル前橋地方裁判所明治二十八年第三百八十
五號竊盜被告事件ノ公訴中ニ包含スルモノナルヲ以テ原裁判所カ本件ニ付有罪ハ判決ヲ下シ
タルハ違法ニシテ破毀ハ原由アリトス既ニ此論旨ニ付破毀ノ原由アリト認メタルニ依リ被告
及ヒ辯護士ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ要セス因テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ本

確定判決ノ再起訴

院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

大島友次郎

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ本件ハ既ニ確定判決ヲ經タルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條後段第六十五條第四第二百三十六條第二百五十八條ニ依リ免訴ヲ言渡スヘキモノトス因テ免訴スルモノナリ

明治二十九年三月二十六日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年第二八四號
明治二十九年三月三十日宣告

○判決要旨

犯罪ニ基因スル登記取消ノ請求ハ刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還ヲ目的トスルモノタルニ外ナラス從テ私訴トシテ提起スルコトヲ得(明治二十八年第一二八五號第一頁登載參看)

(參照) 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ關ス(刑事訴訟法)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴上告人 小出市太郎 辯護人 城 數 馬

私訴上告人 小出勝次郎

私訴被上告人 岡本 昂
川奈部喜兵衛

右市太郎カ私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ公訴私訴ニ付明治二十九年二月二十四日東京控訴院ニ於テ公訴ニ對シテハ原判決中被告市太郎ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス市太郎ノ被告事件中豫審決定書第七第九ニ掲ケタル被告事件ノ公訴ハ之ヲ受理セス市太郎ヲ重禁錮三年罰金三十拾圓監視一年ニ處ス云々ト言渡シ私訴ニ對シテハ原判決岡本昂中井藤右衛門川奈部喜兵衛ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス岡本昂中井藤右衛門川奈部喜兵衛ニ對スル民事原告人ノ訴ハ之ヲ却下ス云々ト言渡シタル判決ニ對シ被告市太郎ハ公訴ノ判決ニ對シ民事原告人小出勝次郎ハ私訴ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

市太郎上告趣意書ノ要旨ハ自分ニ係ル私印盜用ノ件ハ不當ナルヲ以テ上告ス小出勝次郎ハ勿論其家内ノ者ニ於テモ承諾ノ上金圓ノ周旋致シタル者ニ相違ナシト云フニ在リテ○原院カ私印ヲ盜用セシト認メタル事實ニ對シテ不服ヲ申立ツルニ外ナラス然レトモ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ適法ノ上告理由トナスヲ得ス又辯護人城數馬ヨリモ第一審以來ノ公判始末書若クハ證據物件等ニ徴スルモ被告ニ於テ原院カ認メタル如キ犯罪行為アリトスルニ足

ルヘキ證憑ナキヲ以テ原院ハ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリトノ上告趣意書ヲ提出セリ○
 然レトモ此論旨モ亦原院ノ認メタル事實ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告理由トナラス私訴
 上告趣意ハ本案ハ小出市太郎外一名共謀シテ上告人ノ實印ヲ盗用シ上告人所有ノ土地ヲ借入
 レ被上告人等ヨリ金員ヲ借りテ之ヲ騙取セシ爲メ市太郎外一名ハ既ニ重禁錮ノ刑ヲ受ケタリ因
 テ被上告人等カ上告人ノ土地ヲ借入レ登記ヲ受ケタル證書其他上告人借主名義ノ證書ハ何レ
 モ犯罪ニ原因スルモノナルヲ以テ之カ取消ヲ請求シタルモノナルニ原院ニ於テ此請求ヲ却下
 シタルハ不法ナルヲ以テ原判決全部ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ○而シテ原判決文ニハ「借用證
 書偽造行使ニ關スル被告事件ハ公訴判決ニ說明シタル如ク公訴受理スヘカラサルモノナルニ
 付該事件ニ關スル付帶私訴モ亦從テ成立スヘキモノニ非ス又地所借入登記取消ノ請求ニ付其
 當否ヲ審按スルニ(中略)本件民事原告人ノ請求ハ不動産借入登記取消ノ訴ニシテ(中略)犯罪ニ依
 リ生シタル損害ノ賠償ヲ要求スルモノニ非ス又贓物ノ返還ヲ目的トナスニ非ス故ニ私訴トシ
 テ訴フヘキモノニ非ス」トアリ依テ按スルニ私訴ハ公訴ニ付帶シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノ
 ナレハ公訴ハ成立セサル場合ニ在テハ私訴ハ成立スヘキ道理ナキヲ以テ右第一ハ判決理由
 ハ相當ナリト雖モ其第二ハ理由ニ依リ原告ノ請求ヲ却下シタルハ上告論旨ハ如ク不法ナルヲ
 免レス何トナレハ不動産ノ借入契約ハ登記ヲ待テ成立スヘキモノニ非スト雖モ既ニ其登記ア
 リタル以上ハ外見上借入契約ノ成立シタル同一ハ結果ヲ生スルハミナラス其所有者ニ在テハ
 之ヲ取消シタル後ニ非サレハ隨意ニ其不動産ハ處分ヲ爲スコトヲ得ス故ニ登記取消ノ請求ハ

所部贓物ノ返還ヲ目的トスルモノト謂フヲ得ヘク從テ本作ハ如キ登記ニ關スル公訴ハ成立シ
 タル場合ニ在テハ私訴トシテ提起スルヲ得ヘキモノナルヲ以テナリ依テ私訴ニ對スル原判決
 ハ此點ニ付キ破毀スヘキ理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ公訴判決ニ對スル上告ハ之ヲ棄却ス私
 訴判決ハ刑事訴訟法第二百八十六條及ヒ第二百九十條ニ依リ登記取消ノ請求ヲ却下シタル部
 分ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院民事部ニ移ス

明治廿九年三月三十日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○誹毀ノ件

明治二十九年第二八五號
 明治二十九年三月三十日宣告

○判決要旨

誹毀ノ所爲ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ハ其名譽回復ノ方法ニ要スル費用
 ハ犯罪ニ因テ生シタル損害トシテ之ヲ請求スルノ權ヲ有ス而シテ加害者ハ當
 然其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

(參照) 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處
 名譽恢復ノ損害

斷ス。公然ノ演説ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三四以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。二、書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑罰法第三百五十八條)

私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス(刑事訴訟法第二條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人

金子要三男
加藤三男
伊藤五郎
新井右衛門

私訴被上告人

梁林安兵衛
深井文三郎
諏訪喜三郎

右上告人金子要作外三名誹毀被告事件ニ付明治二十九年二月十七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ服セス被告共ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

公訴上告ノ趣意ハ本案ハ伊藤源三郎横田長七ノ兩名カ西ノ内紙二枚ヲ繼キタルモノヘ或ル文詞ヲ記シテ上告人等ヲシテ各所ニ貼付セシメタリト認定セラレタレトモ上告人カ其事ヲ共謀シタル證憑ナク原院カ採用シタル伊藤源三郎横田長七等ノ調書ニ據レハ源三郎ハ桶川町ニ於

テ長七ト面會シタル際源三郎ニ於テ其文案ヲ草シ長七ト共ニ數葉ヲ筆記シ之上告人等ニ依頼シテ某々ノ處ニ貼付セシメタリト云フニ過キサルヲ以テ上告人等ノ共謀セサリシコト明カナリ然ルニ原院カ證據ナクシテ上告人等ヲ共犯者ナリト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ本件上告人等ノ犯罪ヲ認定シタル數個ノ證憑ヲ明示シアルヲ以テ原判決ハ證據ナクシテ架空ニ事實ヲ認定シタル違法アルコトナシ私訴上告ノ趣意ハ本案ハ被上告人等ニ於テ書面ヲ以テ誹毀セラレタル名譽回復ノ方法トシテ東京朝日新聞及ヒ雜誌ニ廣告スル費用ヲ請求スルモ元來上告人等ニ對スル誹毀ハ原判決ニ認メラレタル如ク埼玉縣北足立郡石戸村中數ヶ所ニ貼付シ問モナク取去リタルニ過キサルヲ以テ若シ被上告人等ニ損害アラハ其損害ノ賠償ヲ請求スルハ格別被上告人等ノ隨意ニ爲シタル廣告ノ費用ヲ請求スルハ不當ナリ何トナレハ廣告ノ費用ハ私訴トシテ請求スヘキ損害ノ賠償ニアラス又贓物ノ返還ニアラサルコトハ勿論ナレハナリ然ルニ原院カ其請求ニ對シ上告人等ニ賠償ノ義務アリト判決シタルハ違法ナリト云フニ在リ○然レトモ誹毀罪ニ依リ名譽ヲ毀損サレタル被害者カ名譽ノ回復ヲ圖ルハ止ムヘカラサルコトナルヲ以テ其名譽回復ノ方法ニ要スル費用ハ即誹毀罪ニ由テ受ケタル損害ト認メサルヘカラス然レハ原院カ被上告人等ノ請求シタル名譽回復ノ廣告ニ要スル費用ノ金額ヲ上告人等ニ於テ賠償スヘシト判決シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ適法ノ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告訴訟費用ハ上告人等之ヲ負擔ス可シ

明治二十九年三月三十日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十九年第二八六號
明治二十九年三月三十日宣告

○判決要旨

公判始末書整頓ノ際其遺脱アルコトヲ認メタルトキハ紙葉ヲ挿入シ之ヲ補綴
スルモ不法ニアラス

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人

田原 嘉吉
川原 宣直
宮島 熊吉
大橋 甚太郎
新原 次郎
上野 次郎

辯護人

菊池 武夫
白石 剛夫

右田尻診平外七名カ詐欺取財事件ニ付明治二十九年二月二十日長崎控訴院ニ於テ熊本地方裁判所ノ判決ニ對スル檢事及ヒ被告等ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告診平甚太郎菊次郎

耶英次耶豐次耶ヲ各重禁錮一年六月罰金十五圓監視六月ニ被告宣直嘉吉ヲ各重禁錮十月罰金十圓監視六月ニ處ス押収ニ係ル地所抵當金千圓ノ公正證書正本金員貸借附帶契約公正證書正本金九百四十圓ノ領收證明明治二十八年二月十九日附ノ定約證金千圓ノ地所書入證書地所抵當金員貸借追認公正證書贈本ハ小田原助八ニ還付シ其他ノ書類ハ各提出者ニ還付スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告八名ハ各上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告診平辯護人菊池武夫白石剛ノ辯論及ヒ立會檢事岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告田尻診平上告ノ要旨ハ第一原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ小田原助八ニ金六十圓ト二百五十圓ト合計金三百十圓ヲ渡シタルコト明カニシテ其債權ニ付テハ金千圓ノ地所書入證書地所抵當金員貸借追認公正證書贈本ノ外證明ノ具アルコトナシ又原院ノ認メタル事實ヲ正當トスルモ被告カ債權執行額ノ内三百十圓ニ付テハ正當ナルコト勿論ナルニ右二通ノ證書モ併セテ債務者助八ニ還付シタルハ不當ニ債務者ニ財産隱匿等ノ便宜ヲ與ヘ被告ノ債權ヲ無効ニ歸セシムルモノニシテ法則ニ違反スル判決ナリ第二原判決ノ認メタル所ニ依レハ地所抵當千圓ノ公正證書正本以下六通ノ證書類ハ贓物ニ非ス然ルニ刑法第四十八條ヲ適用シテ小田原助八ニ還付ノ言渡ヲ爲シタルハ是又不當ノ判決ナリト云フニ在ルモ○原判文ニ依レハ被告等共謀シテ小田原助八ヲ欺罔シ金千圓貸與ノ約ヲ爲シ地所書入ノ借用證書等ヲ領収シタルモ助八ニ渡シタル金額ハ三百十圓ニ過キス即チ三百十圓ヲ餌トシ以テ地所抵當金千圓ノ公正證

等ヲ騙取シタルモノニシテ其證書類ハ騙取ニ係ル贓物ナレハ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ被害者ニ還付スヘキモノトス故ニ右證書類ヲ助八ニ還付シタルハ相當ノ處分ニシテ毫モ違法ノ點ナク又其證書類ヲ贓物ニ非スト云フコトヲ得サルナリ第三證書騙取トハ虚偽ノ債權證書等ヲ認メシメ之ヲ收受スルノ謂ニシテ財物騙取トハ自カラ區別アリ然ルニ原院カ二十八年二月十九日付ノ定約證金高千圓ノ地所書入證文及二月二十一日付ノ地所抵當金員貸借追認公正證書謄本ニ付テハ宣直嘉市熊吉等ニ於テ助八カ告訴セントスル際不動産假差押ヲ解キ殘金モ渡スト欺キ騙取シタル旨明カニ右三人ノ行爲ナルコトヲ認メタルニ拘ハラヌ末段ニ至リ右ハ惡思繼續シテ云々ト記載シ其責併セテ被告ニ在リト爲シタルハ理由ノ前後齟齬アル不法ノ判決ナリト云フニ在ルモ○原判文起首ニ被告等九名ハ前審相被告宇働常福ト共謀シ云々トアリテ本件事實ハ始終被告等全員ノ共謀ニ出タリト認メタルモノナレハ被告宣直等三名ガ診平方ニ於テ助八ヨリ定約證等ヲ騙取シタルモ亦共謀ノ所爲ニシテ被告診平ニ於テ其責ヲ免カルトコトヲ得サルヲ論テ候タス故ニ原判決理由前後齟齬ノ點アルコトナシ

辯護士上告趣意擴張書ノ要旨第一原院ニ於テ被告辯護人ヨリ小田原助八ヲ證人トシテ召喚アラシトトテ請求シタルニ檢事ノ意見ヲ聽カスシテ不必要ナリト評決セラレタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○證人召喚ノ請求ニ付檢事ノ意見ヲ聽クヘシトノ規定ナキニ因リ其意見ヲ聽カサルヲ以テ違法ト爲スコトヲ得ス第二原判決ニ押收ノ公正證書正本三通謄本一通ヲ斷罪ノ資料ニ供セラレタリ而シテ公判始末書ニ依レハ單ニ押收ノ公正證書ヲ被告ニ示サレタルコトヲ

記載シアルニ過キサルヲ以テ果シテ何レノ公正證書ヲ示サレタルヤ又ハ殘ラヌ之ヲ示サレタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ即チ刑事訴訟法第九十八條第二項ニ違背シタルモノナリト云フニ在ルモ○本件ニ付押收ノ公正證書ハ正本二通謄本一通アルニ過キス而シテ公判始末書ニ押收ノ公正證書ヲ示シ解解ヲ爲サシメタル旨ヲ記載シアレハ其正本謄本ヲ示シタル者ナルヤ明白ニシテ違法ノ點ナシ第三原院公判始末書第二十二葉ハ後日ノ挿入ニ係ルコト明ナリ即チ第二十一葉ト第二十三葉トノ契印符合スルノミナラス文字ノ繼續并ニ第二十二葉ニ餘白多キコト等ヲ以テスレハ挿入ノ形跡殆ト掩フヘカラス蓋紙數ノ挿入ハ文字ノ改竄ヨリモ其危險多キトノナルニ挿入ノ記載モナク又認印ヲモ押捺シアラヌ右ハ刑事訴訟法第二十一條ニ違背セスモ假定スルモ原判決ヲ破毀スルニ足ルヘキ不法アルモノナリト云フニ在ルモ○公判始末書第二十二葉ハ蓋該始末書整頓ノ際其遺脱アルヲ認メ之ヲ挿入シタルモハナルモ其每葉ニ契印アリ又餘白ニハ横線ヲ施シ之ニ押印シアリテ一モ法律ハ規定ニ違背シタルモノハナシ而シテ法律上紙業ハ挿入ヲ禁シタルハ明文ナク又挿入ハ旨ヲ記載スヘシトノ規定ナキニ因リ其挿入ヲ以テ違法ト爲スコトヲ得ス第四原院カ唯裁判ヲ言渡シタルノミニテ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ケサリシハ刑事訴訟法第二百四條第二項ニ違背シタルモノナリト云フニ在ルモ○公判始末書ニ裁判ヲ言渡スト記載シアレハ原判決書全部ヲ宣告シタルモノナルヤ明白ナリ第五本件被告人ハ總テ十八ナリシニ證人小田原助八加來蘇平松平末吉ノ宣誓書ニハ何レモ奈須三平外十八人詐欺取財事件ニ付云々トアルカ故ニ果シテ本件ニ付宣誓シタルモノナルヤ否

ヤ知ルヘカラス然ルニ原院カ其調書ヲ採テ判決ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ
 ○豫審請求書ニ依レハ本件ハ被告人十一名ニ對シ起訴アリタルモノニシテ其中永田文四郎ナ
 ル者死亡シタルヲ以テ十名ト爲リタルモノナリ故ニ豫審廷ノ宣誓書ニ奈須三平外十八トアル
 ハ違法ニアラス
 被告栗原嘉市上告ノ要旨ハ第一本件事實ハ原裁判所ニ於テ供述シタル如ク被告人ハ小田原助
 八ノ依頼ニ應シ金員貸借ノ周旋人ト爲リタルモ其後助八ハ金主力ノ周旋人ト申合セ取引ヲ爲
 シタルモノニシテ被告等ハ其事實ヲ知ラサルモノナルニ被告等九名共謀シ證書ヲ騙取シタル
 トハ理由ノ顯赫ナリ第二被告及ヒ宣直熊吉三名ハ助八ニ對シ地所ノ登記ヲスレハ差押ヲ解キ
 現金ヲ渡スト欺キテ登記ヲ爲サシメ證書ヲ騙取シタルト認メラレタルモ其事實ハ本人承諾ノ
 上登記ヲ爲シ又本人及ヒ其妻ノ弟宮永太平ヨリ債主ニ對シ差押解除ノ相談ヲ申入レ定約證ヲ
 差入レタルモノニシテ被告等ノ所爲ニ非サルハ證人ノ陳述ニ依リ明カナリ然ルニ被告カ騙取
 シタルト爲シタルハ理由顯赫ナリ第三被告及ヒ宣直三平ノ三名ハ小田原助八ト同村又ハ近村
 ノ者ニシテ他ノ相被告等トハ九里以上モ隔リ殊ニ面識モナキ人ナレハ其遠方ノ者ト共謀シテ
 近村ノ知己ヲ詐害スルノ理由ナク且本件ニ付被告ハ利益ノ配分ヲ受ケタル事實モナキニ因リ
 其共謀騙取ノ所爲ナキヤ明白ナリト云フニ在ルモ○總テ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ
 非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナシ被告嘉市ハ仍ホ辯明書ヲ提出シタルモ本件ノ事實ヲ反
 覆陳述シテ上告ノ趣意ヲ辯明スルニ過キササルヲ以テ別ニ說明ヲ與ヘス

被告宮川宣直清島熊吉兩名上告ノ要旨第一本件押收ノ證書類ハ贓物トシテ被害者ニ還付スヘ
 キモノニ非スト云フニ在リテ○被告診平ノ上告第一第二ト同一ナルヲ以テ別ニ說明ヲ與ヘス
 第二原判決ノ理由ハ證書ノ騙取ナルヲ將タ財物ノ騙取ナルヲ不明ナルニ直ニ刑法第三百九十
 條ヲ適用シタルハ不當ナリト云フニ在ルモ○被告等カ證書類ヲ騙取シタル事實ハ原判文ニ明
 記スル所ニシテ毫モ不備不明ノ點ナシ
 被告大橋甚太郎新改英次郎上田豐次郎三名上告ノ要旨第一ハ被告宣直上告第一ト同一ナルヲ
 以テ別ニ說明ヲ與ヘス第二原判決ノ理由ハ證書ノ騙取ナルヲ財物ノ騙取ナルヲ不明ナルノミ
 ナラス契約證金高千圓ノ地所書入證等ハ宣直嘉市熊吉三名カ助八ヲ欺キ騙取シタル旨ヲ認メ
 ナカラ末段ニ至リ右ハ意思繼續云々ト記載シ其責上告人共ニ在ル者ト爲シタルハ理由顯赫ナ
 リト云フニ在リテ○被告宣直上告第二及ヒ被告診平上告第三ト同一論旨ナルヲ以テ重テ説
 明ヲ與ヘス被告甚太郎カ追申書ノ要旨第一原院カ贓物ト認メタル公正證書即チ明治二十八年
 一月二十一日公證人役場ニ於テ作リタル千圓ノ證書ヲ刑法第四十八條ニ依リ處分セラレタル
 ハ不法ナリ其理由ハ右公正證書ハ二十八年二月二十一日債務者債權者ト連署ヲ以テ公證人役
 場ニ於テ取消シタル上債務者小田原助八ニ渡サレタル人ヨリ告訴ノ證據物ニ提出シタル
 モノナリ然ルニ債權者田尻診平ノ手ニ在ルモノト誤認シ刑法第四十八條ニ依リ處分シタルハ
 不法ナリト云フニ在ルモ○原判文理由中ニ被告カ騙取シタル書類ハ刑法第四十八條末段ニ依
 リ處分シタルハ被告カ騙取シテ其手ニ存在セシ書類ヲ指稱シタルモノニシテ而シテ其主文

ニ押收ニ係ル地所抵當千圓ノ公正證書云々小田原助八ニ還付ストアルハ被告ノ手ニ存在セシ
 贓物ト助八ヨリ提出セシ證據書類ヲ總括シテ還付ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ既ニ取消トナ
 ヲ助八ノ手ニ在ル證書ヲ被告ノ手ニ在ルモノト誤認シタルニ非サルヤ明白ナリ第二被告甚太
 郎ハ田尻診平ト小田原助八ト結約シタル公證ニ付債務者助八ノ連帶保證人ニシテ債務履行ノ
 責ヲ有スルモノナレハ證書騙取罪ヲ構成スルノ理由ナキモノナルニ證書騙取ノ刑ヲ言渡サレ
 タルハ不當ナリト云フニ在ルモ○本件被告等共謀シ助八ヲ欺罔シテ證書ヲ騙取シタル事實ハ
 原判文ニ明示スル所ニシテ被告カ助八ノ保證人ト爲リタルモ亦其騙取ノ手段ナルコト明白ナ
 レハ證書騙取ノ刑ヲ言渡シタルハ相當ノ判決ナリ第三原院カ認メタル小田原助八ヨリ田尻診
 平ニ渡シタル領收證ハ豫審終結決定書ニハ九百六十圓トアリ第一審判文ニモ九百六十圓トア
 ルチ原判文ニ九百四十圓トアルハ即チ豫審判事ヨリ公判ニ付セサルモノヲ判決シタル不法ノ
 裁判ナリト云フニ在ルモ○小田原助八ノ領收書ニ九百四十圓トアリ告訴狀ニモ九百四十圓ト
 記載シアリテ豫審終結決定書ニ九百六十圓トアルハ錯誤タルニ過キス故ニ原判文ニ九百四十
 圓ノ領收書ト記載シタルハ其錯誤ヲ訂正シタルモノニシテ相當ノ裁判ナリ第四被告人栗原菊
 次郎ハ豫審廷及ヒ公判廷ニモ年齢二十九年ト申立タルニ原判文ニ三十九年トアルハ不當ノ言
 渡タリト云フニ在ルモ○他ノ共同被告人中ノ年齢ニ錯誤アリトスルモ之ヲ以テ被告カ上告ノ
 理由ト爲スコトヲ得サルモノトス
 被告栗原菊次郎ノ上告要旨第一被告ハ助八ノ依領ニヨリ金千圓ノ周旋ヲ爲シタルモノニシテ

證書騙取ノ所爲ナシ第二告訴人ノ告訴狀ハ不實ニシテ虚偽ノ事實ヲ陳述シタルモノナリ第
 三告訴狀ノ事實ト助八ノ供述ト齟齬シタリ第四第五ハ助八ノ申立ハ虚偽ノ陳述ニシテ專ラ債
 主ヲ害セント圖リ不正ノ利ヲ得ントスルモノナリトノ事實ヲ陳辯スルニ在リ第六助八ノ申立
 ニ依ルモ被告カ他ノ被告ト共謀シタルコトナク證書騙取ノ所爲ナキヤ明白ニシテ有罪ノ處分
 ヲ受ル理由ナキモノナリト云フニ在ルモ○要スルニ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ
 取捨ヲ非難スルニ外ナラスシテ總テ適法ノ理由ナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件被告八名ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス
 明治二十九年三月三十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治二十九年第二八八號
明治二十九年三月三十日宣告

○判決要旨

刑法第八十一條ニ所謂十六歳以上ノ文詞ニハ滿十六歳ヲ包含ス

(參照) 罪ヲ犯ストキ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減

ス(刑法第八十一條)

以上ノ文詞

第一審 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 東京控訴院

被告人 外川玉治 辯護人 山口平次

明治二十九年二月二十一日東京控訴院ニ於テ右玉治久一郎外一名ニ對スル私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告玉治久一郎(中略)ヲ各重禁錮一年罰金二十四圓監視六月ニ處ス公訴費用金九圓四十四錢ハ被告三名ニ於テ第一審ノ相被告小林勇吉武見權平ト連帶負擔ス可シ押収ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告玉治久一郎ハ上告ヲ爲シ原院檢察長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

玉治上告趣意書第一點ハ亡岸木タセハ其養子理助カ孝養ヲ欠キ池モ老後ヲ托スルニ足ラサルヲ以テ之ト親子ノ關係ヲ絶テ從テタセカ所持シ居リタル財産モ之ヲ被告ノ妹トフナル者ニ讓リ遺產相續ヲ爲サシメントノ意思其生存中ニアリタルヲ以テ被告玉治ハ其意思ヲ實行セシメシカ爲メ之ヲ相被告久一郎ニ依頼シ久一郎モ只其意思ヲ實行シタル迄ノモノナルニ原院ニ於テ被告玉治カタセノ實印ヲ盗用シテ本件ノ罪ヲ犯シタル者ト判定シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アルモノト云フニ在レトモ○右ハ原院カ認メサル事實ヲ掲ケ以テ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ原由トナラス第二點ハ原院判決文中ニ其所爲是非ノ辨別アリテ犯シタルモノト認ムト説明シアレハ一件記録中絶テ之カ事實ヲ證スルニ足ルモノナシ然ルニ之カ取調モ爲サスシテ被告右ノ如ク認定シタルハ失當ナリト云フニ在レハ

○原院カ認メタル事實ニ對スル證據ハ判文ニ明示スル所ニシテ而シテ右等證據ニ依リ事實ノ認定ヲ爲スハ裁判官ノ職權ナルヲ以テ他ヨリ論争スルヲ得ス久一郎上告趣意書第一點ハ玉治上告趣意書第一點ト其主旨同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス第二點ハ被告久一郎ハ本件地所賣買ノ所爲ノミニ加功シタルモノニシテタセ及仁平治ノ實印ヲ盗用シタルハ獨リ玉治カ一己ノ所爲ナリ然ルニ原院ニ於テ被告ニ對シ尙ホ私印盗用ノ罪アリト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レハ○原院判文ニ「五名協議ノ上同日其傍ニ於テ云々タセ及仁平治名下ニハ各其實印ヲ捺シタリ」ト明示シアレハ被告久一郎モ右盗用ノ共犯人ナルヲ以テ之ニ對シ私印盗用ノ刑ヲ科シタルハ相當ニシテ不法ニアラス玉治久一郎兩名辯護士的場平次山口憲上告趣意擴張書第一點ハ原院カ認メタル事實ノ認定ハ固ヨリ不當ナルモ假リニ其認メタル事實ニ依ルモ仁平治及タセノ印影ヲ盗用シタリト云フ時ト所ト共ニ同一ニシテ他人ノ印影ヲ盗用セントスル一箇ノ意思ヲ以テ一通ノ證書ニ捺印シタルモノナリ即タセ及仁平治ノ印影ヲ盗用シタル所爲ハ間斷ナク行ハレ其間箇々別々ノ意思ヲ存セス此ノ如キモノヲ以テ數罪ト爲サハ凡テノ犯罪ハ數罪ヲラサルモノナシ然ルニ原院カ之ヲ二罪ト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レハ○意思ノ繼續シタルヤ否ヲ甄別シテ數罪ト爲スト否ハ事實裁判官ノ職權ニ屬スルヲ以テ他ヨリ論争スルヲ得ス第二點ハ原院ハ第一審裁判所カ本件登記願書ノ偽造行使ヲ以テ別罪ト爲シタルヲ不法トシ右願書ハ登記委任狀ノ偽造行使ニ欠クヘカラサル從タル所爲ニシテ別罪ヲ構成ヘキモノニアラスト説明シ以テ第一審判決ヲ取消シナカラ原院ニ於テ地所賣渡證

大審院刑事判決録

以上ノ文詞

百二十四

書ノ偽造行使ト登記委任狀ノ偽造行使ノ罪ヲ別テ二罪ト爲シタルハ第一審ト同一ノ誤解ニ陥
リタル不當ノ判決ナリト云フニ在レモ○登記委任狀偽造行使ハ必スシモ地所賣渡證書偽造行
使ニ密着シテ分離スヘカラサルモノニアラサルハ勿論ナレハ原院カ之ヲ二罪ト爲シタルハ相
當ニシテ不法ニアラス第三點ニ地所登記用ノ委任狀ハ直接財産ヲ受授スヘキモノニアラサル
ニ原院カ右委任狀偽造行使ノ罪ニ對シ刑法第二百十條第一項ヲ適用シテ處斷シタルハ擬律錯
誤ナリト云フニ在レモ○地所賣渡登記ノ委任狀カ權利義務ニ關スル證書ナルコトハ勿論ニシテ
而シテ右第二百十條第一項ニハ單ニ權利義務ニ關スル證書ト記載シアリテ直接財産ヲ受授ス
ヘキ證書ニ限ルモノトノ制限アルコトナケレハ原院決ハ擬律ニ錯誤アルモノニアラス第四點
ハ被告玉治カ地所賣渡證書及委任狀ヲ偽造シタル當時ハ月ヲ以テ算スルモ尙ホ滿十六歲ニシテ
其以上ニアラサルコトハ原院文ニ依ルモ自ラ明カナリ然ルニ原院カ之ニ對シ刑法第八十一條
ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○同條ニ滿十六歲以上云々トアル其以上ハ文詞中
ニ滿十六歲ヲ包含スルコトハ法文上自ラ明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ上告ハ原由トナラス因テ刑
事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年三月三十日大審院第二刑部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

大審院刑事判決錄 第二輯 第四卷

○官文偽造行使等ノ件 明治二十九年第二九八號
明治二十九年四月七日宣告

○判決要旨

被告事件ノ明記ナキ證人調書及宣誓書ハ如何ナル事件ノ證人調書ナルヤヲ確
ムルコト能ハサルヲ以テ之ヲ以テ罪證ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

第一審 高知地方裁判所 第二審 廣島控訴院
被告人 長山 陽

右官文書偽造行使及ヒ官印盗用詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年二月二十八日廣島控訴院
ニ於テ高知地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴及ヒ原院檢事與野毅ノ附帶控訴ヲ審理ノ末
原判決ハ之ヲ取消シ被告入陽ヲ輕懲役六年ニ處ス押収シタル證據書類ノ内偽造ニ係ル印鑑證
明書地所證明書地所登記簿更正願書委任狀各一通ハ沒収ス其他ハ各送出人ニ還付ス公訴ニ關
被告事件不記ノ證人調書

被告事件不記ノ證人調書

ズル訴訟費用ノ内豫審ニ於ケル證人參考人ノ旅費日當金ハ被告人陽ニ於テ負擔ス可シト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ
被告ノ上告趣意書第二點中末段ノ要旨原判決證憑列記ノ部ニ澤村鐵藏同村次郎ヲ斷罪ノ證人ト爲シアルモ大阪控訴院檢事ノ論告ノ如ク其宣誓書ハ何ノ事件タルコトモ記載セス又代書トアルモ誰レカ爲セシカ分ラズ故ニ其證人調書ハ無効ノモノナリ然ルチ原院力之ヲ探テ以テ斷罪ノ證ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在テ
○此論告ハ其理由アルモハトス何トナレハ本案訴訟記録中證人澤村次郎ノ豫審調書及ヒ其宣誓書ヲ査スルニ何ハ事件タルコトヲ記載セス故ニ被告長山陽ニ對シ刑事訴訟法第二百三條ハ關係ヲ取調カルモノナルヤ否ヤヲ知ル能ハス從テ本案被告事件ニ對シ證人ハ資格ヲ有スルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキ不法ノ豫審調書ナリ然ルチ原院力之ヲ探テ以テ本案ノ證據ト爲シタルハ不法ニシテ原判決ハ破毀セサル可ラサルモノナレハナリ既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキモノタルニ由リ他ノ上告點ニ對シテハ逐一説明ヲ要セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ照ラシ原判決ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受ケシムル爲メ之ヲ長崎控訴院ニ移送ス
明治二十九年四月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件 明治二十九年第二九九號 明治二十九年四月九日宣告

○判決要旨

第二審ノ判決ニ於テ第一審カ有罪ト認メタル所爲ヲ無罪トシ其理由ヲ明示シタルニ拘ラス判決主文ヲ以テ無罪ノ裁判ヲ言渡サ、ルトキハ結局裁判ヲ爲ササルト同一ニシテ所謂訴ヲ受ケタル事件ヲ裁判セサル不法アルモノトス

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 青柳繁太郎 青柳繁太郎 辯護人 花井卓藏
水間繁太郎 水間繁太郎 高木益太郎
高橋富藏 高橋富藏 高橋梅之助

右松三郎外五名カ詐欺取財及ヒ高橋富藏ニ對スル私書偽造行使被告事件ニ付明治二十九年二月十四日東京控訴院ニ於テ新潟地方裁判所カ言渡シタル判決中被告青柳松三郎水間繁太郎水間繁太郎水間繁太郎高橋富藏半田義二高橋梅之助ニ對スル部分ハ之ヲ取消ス被告青柳松三郎水間繁太郎水間繁太郎高橋富藏半田義二高橋梅之助ヲ各重禁錮四年罰金四十圓監視二年ニ處ス(中略)渡邊
判決主文ノ脱漏

爲吉ニ對スル菅原半藏ヨリ金員ヲ騙取シタリトノ公訴ハ之ヲ受理セス押收ノ書類物件ハ總テ各差出人ニ還付シ假下ノ賍金ハ其儘樋口小次郎外一名ニ還付ス公訴裁判費用ハ第一審ノ相被告八島村繁三外數名ト共ニ全部被告等ノ連帶負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告六名ハ上告ヲ爲シ原控訴訟院檢察長野村維章ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ被告半田義二高橋梅之助ノ辯護士花井卓藏被告本間繁太郎渡邊爲吉ノ辯護士高木益太郎ノ辯論立會檢察官岩田武儀ノ意見ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

被告半田義二上告第一點本件被告人ノ所爲ハ詐欺取財ニアラス何トナレハ被害者アルコトナクレハナリ而シテ本間繁太郎カ質造紙幣ノ相談ニ加ハリ其資本ニ供用スル爲メ金員ヲ支出シタル事實ハ同人ノ第一回豫審調書並ニ横池太夫治ノ手續書ニ依リテ明カナリ然ルニ原院カ何等ノ證據ナクシテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ被告本間繁太郎上告第二回趣意書ノ第一點明治二十七年十月十一日新潟市日和山下山根屋ニ於テ廣瀬重太郎外數名カ爲シタル不正事件同年十一月三十日古町通九番町貝屋ニ於テ片山石松外數名カ爲シタル不正事件同年十二月二十五日新潟市濱ノ金澤樓ニ於テ青柳松三郎其他ノ者カ爲シタル不正事件ニ對シ自分モ關係セシ如ク判決セラレタルモ自分ハ素ヨリ別個ノ商人ニシテ斯ノ如キ不正ノ境ニハ夢ニタモ關係セシコトナシト明言シ置タリ被告人高橋富藏カ上告ノ要旨東京控訴院ニ於ケル水戸部虎吉高橋梅之助ノ陳述ハ偽言ナリ其實ハ警視廳監房へ拘禁中飯田義二ト同監シ同人ヨリ於前ト自分トハ全ク共犯ニアラス且相互ニ知ラサルモノナリ此事ニ付テハ實際同房者ニテ吉田金太

郎翌月作十郎外二人ノ證人アリ自分ハ詐欺ノ手段ナルコトハ些シモ存セス廣瀬重太郎ノ依頼ニ應ジ交換スル心組ニテ取係リタルモノナリ云々被告本間繁太郎上告擴張書第二點共謀者ト認メラレタル島津繁三郎カ警察署及ヒ第一審廷ニ於テ爲シタル陳述ハ警察署ノ壓制且豫審廷ノ恐嚇等ノ爲メ一時遁レノ空言ヲ吐露シタルモノニシテ彼等ノ言ハ一トシテ信スルニ足ラス云々且被害者ト稱スル處ノ片山石松齋藤善太郎等ノ妄語等ハ是亦信スルニ足ラス誠ニ推谷松太郎等ハ自分ト軋轢ヲ生シタル爲メ右善太郎等ト謀リ事實ヲ陳述シタル不完全ノモノナルニ拘ラス原院カ之ヲ誤認シテ前陳ノ判決ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第二百廿四條ヲ無視シテ局外ナル自分ヲ合セテ罰シタル不法アリ同第三點明治二十七年十一月二十一日ノ片山石松等ノ申立ニ依レハ同人ハ自分ヲ稱シテ紙幣交換方ノ仲立人ノ如ク誤リタルモ上申書ニ述ヘタル如ク其仲立人タル義務契約タニ履行セサレハ此間自分ニ對シ金員ヲ交換スルノ理アラナキ元來彼等ト自分トハ政黨上及宗教上ノ軋轢ヨリ不適合ヲ生シタルモノナレハ其言ハ毫モ信スルニ足ラス原院カ之ヲ採リテ斷罪ノ證ト爲セシハ誤斷ナリ同第四點全點ノ事實理由ハ法律上犯罪ヲ構成セサルモノナレハ罪トナラサル事ハ明カナルニ原院カ之ヲ罰シタルハ不法ナリ被告青柳松三郎ノ上告擴張書ノ第二點被告ハ曾テ本間繁太郎渡邊爲吉ト共謀セシコトナキニ拘ラス第一二審共々犯者トシテ處斷シタルハ事實認定ノ齟齬ナリト云フニアレトモ○右各點ノ論旨ハ何レモ原院ノ職權ニ特任セシ證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ喋々批難ヲ試ムルモノニ過キサレヲ以テ總テ上告適法ノ理由ナシ被告半田義二ノ上告第二點ハ原院公判開始ノ當初ニ於テ檢事

カ被告事件ヲ演述セザリシハ不法ナリト云フニアレモ○第二審廷ニ於ケル公判ノ順序ハ控訴申立人ヨリ控訴ノ趣旨ヲ陳述スルヲ以テ始マルモノナレハ第一審廷ノ如ク檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ爲スヲ要セサルモノトス被控者本間繁太郎第一回ノ上告趣意書及ヒ渡邊爲吉ノ上告趣意書ハ本件公判ノ際一件記録全部ノ朗讀ヲ爲サス右ハ被告ノ諾否ニ拘ハラズ口頭審理ノ原則ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云フニアレモ○被告人等ノ同意ヲ得テ朗讀ヲ省スルハ法ノ禁スル處ニアラス而シテ原院公判始末書ヲ査スルニ書類朗讀ノ省略ニ付テハ被告等ニ於テ異議ナキ旨ヲ答ヘタルノ記載アレハ之ヲ省略シタルハトテ口頭審理ノ原則ニ違背セル不法アリト云フヲ得ス被控者青柳松三郎上告趣意書ノ第一點事實ノ認定證據ノ取捨ハ原承審官ノ職權ニ屬スルト雖モ抑モ詐欺取財罪ヲ構成セシムハ騙取ノ事實ナカル可ラス因テ本罪構成上主要ノ争點則騙取セシヤ否ヤニ付只一ノ證據トシテ證人ノ喚問ヲ請求セシニ第一審及ヒ第二審共之レカ聽許ナキハ恰モ證據呈出ノ道ヲ拒絕スルト一般ニシテ理由齟齬ノ裁判ナリト云フニアレモ○證人喚問ノ請求ヲ許否スルハ原院ノ職權ニアルモノナレハ之ヲ不必要ナリト認メタル場合ニ在テハ許可セサルモ違法ニアラス同第二點被告ハ曾テ豫審調書第一回ノ供述ニ誤解取違アルニ付全部更正アランコトヲ上申書ヲ以テ申請セシニ之ヲ聽許セシテ漫然該豫審調書ヲ探テ斷罪ノ資料ト爲セシハ不法ナリト云フニアレモ○豫審調書更正ノ申請ハ公判廷ニ對シナスヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ之ヲ採用セサルハ相當ニシテ違法ニアラス同第三點假リニ百歩ヲ譲リ第一審第二審共ニ認ムル處ノ事實トスルモ當被告カ刑事ノ制裁ヲ受ケルモノニア

ラス何トナレハ其認メタル事實ハ犯法行爲ナリ果シテ然ラハ能ク法律ヲ守ルモノヲ保護スヘキモ法律ヲ守ラサルモノヲ保護スヘキモノニアラサルノ原則ニ基キ刑法第二條ヲ適用スヘキ筈ナルニ同法第三百九十四條同第三百九十四條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ○詐欺取財ノ罪ハ其欺罔セラル、モノ、意思ノ不正ヲ問フヘキモノニアラス本按ハ被告ニ詐欺取財罪ノ行爲アルコトハ原判決ニ明カニ列示シアルニ依リ原院カ適用シタル法條ハ相當ニシテ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ被控者本間繁太郎ノ上告擴張書第一點過ル明治二十七年十二月三十一日突然新潟警察署へ拘引セラレ其上岩城警部ハ自分ヲ無責任ナル事ノミ訊問シ事情相分ラストテ無法ニモ自分ノ身體ヲ亂打シテ苦痛ヲ與ヘ足部ヨリハ出血スルニ至ラシメ其翌日ハ一層殘酷ナル亂打ヲ爲シ手紐腰繩ノ儘數日間繋キ置キ翌年一月八日ニ至リ豫審廷ノ取調ヲ受ケタル儘拘留狀ヲ示サスシテ監獄署へ拘留セラレタルモノナリ是則刑事訴訟法第七十七條第一項ヲ適用セサルモノニシテ豫審第一回ノ調書ハ不法ノモノナルニ原院カ之ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニアレトモ○訴訟記録ニ依ルニ上告論旨ノ如ク警察ニ於テ苛酷ノ訊問ヲ爲シタル事蹟ノ見ルヘキモノナク又被告ニ對スル拘留狀ノアリタルコトハ認メ得ヘキニ依リ該狀ヲ示サスシテ拘留シタルモノト云フヲ得ス因テ上告論旨ハ其理由ナシ被控者青柳松三郎上告擴張書ノ第一點凡ソ訴訟ハ民事ニ在テハ原告ヨリ證據呈出ノ責アリ又刑事ニ在テハ原告官タル檢事ニ其責アルハ必セリ故ニ本按ハ詐欺取財罪ト云ハント欲セハ須ラク證據及ヒ事實ヲ明示セサル可ラス然ルニ第一審第二審共何等ノ證據モ舉示セス且證人及ヒ參事人ノ

調書モナケレハ何ニ依リテ本罪ヲ構成シタルヤ知ル能ハス蓋シ被害者申立ノ或ル部分ヲ採リシニ外ナラサルヘシ云々單獨ナル被害者ノ申立ヲ以テ直ニ斷罪ノ資料トセン乎事實ノ認定證據ノ採擇ハ判事ノ職權内ニ屬スルトナスモ斯ノ如キ不完全ナルモノヲ採リテ斷罪ノ證トセハ實ニ原則ヲ無視スルト一般ニシテ到底探證ノ法ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○被害者ノ申立ハ罪證ト爲スヲ得ストノ規定ナキニ依リ原院カ之レヲ他ノ證憑ト共ニ判文ニ掲ケ斷罪ノ證トナシタルハ違法ニアラス○被告高橋富藏ノ上告擴張辯明書ハ之ヲ數項ニ分テ喋々論辯スル處アルモ要スルニ被告ハ廣瀬重太郎ノ紹介ニ依リ水戸部虎吉其他ノ被告人等ト交際ヲ爲シ綴テ紙幣交換ノ談示ヲ爲シ又ハ現ニ之ヲ交換シタル等ノ顛末ヲ綴陳シテ詐欺取財ニアラスト論争シ又ハ本院ニ對シ證人ノ取調ヲ請求スルニ外ナラス○然レトモ本院ハ事實ノ覆審ヲ爲スノ法衙ニアラサルヲ以テ之ヲ採用スルヲ得ス其他ノ論旨ハ惣テ原院ノ職權ニ屬スル證憑ノ取捨事實認定ノ當否ヲ論辯スルモノニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ○被告半田義二被告高橋梅之助ノ辯護士花井卓藏上告擴張書ノ第一點半田義二ニ對スル原判決「第一項」ヲ見ルニ其末段ニ於テ「同月廿日頭器械代金ト稱シテ云々近藤キチ方ニ於テ松太郎太夫治ヲシテ緊太耶ヨリ金六十圓ヲ騙取セシメ云々」トアリ而シテ此判決ハ被告自カラ騙取ノ實行ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルニアラス人ヲシテ騙取ノ實行ヲ爲サシメタル事實ヲ認定シタルモノナリ而シテ被告ニ於テ自ラ該金員ヲ費消シタル事實ハ原院ノ認メサル所ナリ果シテ然ラハ此點ハ被告人ニ於テ現實的騙取ノ行爲ナキモノナレハ法律上詐欺取財罪ヲ成立セサルモノトス原判決

ハ其冒頭ニ於テ共謀ノ事實ヲ認メアレハ從テ該所爲モ亦共謀ノ結果タルニ過キス云々トノ議論アルヘシ然レトモ共謀ト教唆トハ自カラ異ナルモノナリ故ニ共謀ハ共ニ其所爲ニ現實的ノ加功アルヲ要ス云々此點ニ對スル原判決ハ擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○原判決ニハ明カニ共謀ノ事實ヲ認メアレハ其共犯者ニ於テ豫謀ノ如ク騙取ノ目的ヲ遂ケタルノ事實アル以上ハ即チ共ニ其事ヲ實行シタルモノト云ハサル可カラス因テ上告論旨ハ其理由ナシ○第二點ハ高橋梅之助ノ所爲ニ對スル論旨ニ付畧ス「第三點ハ共同被告入ノ上告論旨及ヒ辯護士ノ擴張論旨ハ孰レモ當被告入ニモ採用シタリト云フニアレハ該論旨ニ對シテハ別ニ説明ヲ與フルノ要ナシ

被告高橋梅之助カ上告追加趣意書ノ第一點被告梅之助カ富藏重太郎ト共謀シテ小池春吉ヨリ金員ヲ騙取シタリト豫審決定ヲ爲シ第一審ニ於テモ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付控訴院ハ之ヲ審理シテ梅之助カ關係ナキヲ認メタルニ拘ラス同院ニ於テハ只第一審判決ヲ取消スヘキ理由ノミヲ附シ判決本文ニ於テ該事件ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲サ、ルハ即チ訴ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ル不備不法ノ裁判ナリト云フニアリ○因テ、原院、文、ヲ、查、ス、ル、ニ、其、法、律、適、用、ハ、部、三、(前、号、)高、橋、梅、之、助、ハ、第、三、八、所、爲、即、チ、高、橋、富、藏、廣、瀬、重、太、郎、ハ、共、ニ、小、池、春、吉、ヨ、リ、金、圓、ヲ、騙、取、シ、タル、事、實、ニ、ハ、毫、モ、關、係、ナ、キ、モ、ハ、ナ、ル、ニ、梅、之、助、ヲ、以、テ、犯、罪、ヲ、共、ニ、シ、タル、モ、ハ、ト、認、メ、刑、ノ、言、渡、シ、テ、爲、シ、タル、ハ、(中、略、)孰、レ、モ、失、當、ノ、判、決、ニ、シ、テ、被、告、等、ノ、控、訴、ハ、結、局、其、理、由、ア、リ、因、テ、云、々、原、判、決、中、被、告、等、ニ、對、ス、ル、部、分、ヲ、取、消、シ、更、ニ、主、文、ハ、如、ク、判、決、ス、ト、説、明、シ、アル、モ、其、主、文、ニ、於、テ、前、陳、第、三、項、

義捐金ノ費消

ハ事件ニ付梅之助ニ對シ何等ハ判決ヲモ爲サハシハ要スルニ訴テ受ケタル事件ニ對シ判決
ヲ爲サハル違法アルモハニシテ上告論旨ハ如ク破毀ハ原由アル者トス已ニ右ノ點ニ於テ破毀
スヘキモノト認メタル上ハ被告梅之助カ他ノ上告論旨ニ付テハ説明ヲ與ヘス
以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條及ヒ第二百八十六條ノ規定ニ則リ左ノ如ク
判決ス

被告青柳松三郎本間繁太郎渡邊爲吉高橋富藏半田義二ノ上告ハ之ヲ棄却ス
被告高橋梅之助ニ對スル原判決ハ之ヲ破毀シ其部分ヲ宮城控訴院ニ移シ更ニ審判セシム
明治二十九年四月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○委託金費消ノ件

明治二十九年第三一六號
明治二十九年四月九日宣告

○判決要旨

紀念碑建設ノ舉ヲ贊成シテ義捐シタル金圓ハ慈惠的施與ニアラスシテ公共事
業ノ費用ニ充ツル爲メ出金者ヨリ建碑會ニ寄託シタル委託金ナリ從テ發起人
ニ於テ之ヲ費消シタルトキハ委託金費消罪ヲ成立ス

(參照) 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若馬取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ
論ス(刑法第三百
九十五條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 依田德雲 辯護人 高橋庄之助
板倉中

右德雲カ委託金費消被告事件ニ付明治二十九年三月三日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所ノ
判決ニ對スル檢事ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告德雲ヲ重禁錮一年ニ處ス押収
ノ帳簿書類ハ各所有者ニ還付スト旨渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ對手人原
控訴院檢事ハ答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高橋庄
之助同板倉中ノ辯論立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ要旨ハ抑モ大日本帝國紀念碑建設ノ舉ハ憲法發布ノ聖詔ニ感激シ此盛世ニ遭遇シ默シ
テ看過スルニ忍ヒス感奮ノ餘リ此盛德ヲ後昆ニ傳ヘ永ク明治ノ美政ヲ不朽ニ謳歌セシメント
ノ感念ヨリ湧發シ被告一人ニテ建碑ヲ爲スノ決心ヲ致シタルモノナリ云々故ニ之ヲ創業スル
當時ニ於テ有數ノ人ト協議結託シテ各資金ヲ投入シテ建碑スルモノ、組織トハ全ク異ナルモ
ノナリ然レハ此事業ハ被告一人ノ事業ニシテ敢テ他人ノ事業ニアラサルコトハ明カナリ然ラ
ハ此レカ爲メ義捐セラレタル金圓ハ即チ被告ノ所有タルコト最モ判明ナリ然ルニ之ヲ委託金
トシテ判決シタルハ違法ナリ況ンヤ該金圓ハ費消シタルニアラスシテ事業擴張ノ爲メ他縣ヘ

義捐金ノ費消

出張スル事務員ノ費用トシテ貸與シタルモノナルニ於テオヤ又右義捐金ノ領收證ハ即チ義捐金ノ請取證ニシテ預リ置トシテ出シタルモノ一モアルコトナシ是レ被告ノ意ヲ發洩シテ義ノ爲メニ金員ヲ投與シタルモノニ付該金ニ付テハ義捐者ハ追念願慮セサルモノニシテ即チ施與棄捐ト同シキモノナリ然ルチ預リ金トシタルハ違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院ハ被告ノ所爲ヲ委託金費消ナリト認定シタルモノナルコトハ上告擴張書第五點ニ對シ説示スル如クナリ其他ノ論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ』上告趣意擴張書ノ要旨第一點判決謄本ニハ被告ノ住居ヲ茨城縣西葛飾郡古賀町四丁目トアレトモ被告ノ現住ハ古河町ニシテ四丁屋敷ナリ又無職トアレトモ原院ニ於テハ水戸有恒社社長ト申立タルニ無職ト記シタルハ不當ナリト云フニアレトモ○假令被告カ住居等ニ誤字アルコトハ上告論旨ノ如クナリトスルモ氏名肩書住所等ノ誤記ハ犯罪ノ成立ニ關係スルモノニアラサルノミナラス其人違ニアラサル上ハ以テ上告ノ理由トナスニ足ラス同第二點判決謄本ヲ閱スルニ被告ハ明治二十四年一月ニ至リ建設趣意書ヲ發布シ紀念碑建設會ナルモノヲ創立シ云々トアレトモ右ハ大ナル誤リニテ二十四年一月印刷ノ趣意書ニ右ノ如キ記事ナキコトハ該趣意書ヲ一見スレハ判明ナリ云々建設會ナルモノハ替テ設ケタルコトアラサルニ之チアルモノ、如ク認定シタルハ不當ナリト云フニアレトモ○紀念碑建設會ノ創設如何ヲ認定スルハ原院ノ職權ニアレハ其認定シタル事實ヲ然ラスト論争スルモ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス同第三點又右ニ付事務長ト稱ストアレトモ此レハ建設會又ハ建碑發成者等ニ向テ

採用スルニアラス單ニ事務員ニ對シテ用ユル所ノモノナリ然ルニ之チ建設ノ團體上ニ採用スル如ク判決セシハ誤解ナリ同第四點又同二十八年七月マテニ會員トナリタル者ヨリ義捐金合計七千二百五十七圓八十六錢二厘ヲ醜集シ云々トアレトモ該金ハ會員ヨリ醜集シタルニアラス發成者ヨリ義捐トナリタルモノナリ即チ被告ハ會員ノ助力棄捐ヲ受ケタルモノナリト云フニアレトモ○前二點ノ論旨ハ何レモ原院ノ職權ニ屬スル證憑ノ取捨事實ノ認定ニ對シ批難ヲ試ムルモノニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第五點又判決文中ニ元來此金圓タル普通ノ一私人ニ對スル慈惠的施與又ハ棄捨セシモノト異ナリ會員ニ於テ公共ノ事業ヲ發成シ義捐シテ建設費ニ充ン爲メ建設會ニ委託セシモノナリト云フ道理ハ天下ニ行ハレサル道與ハ棄捨シタルモノニテ公共的義捐ハ委託シタルモノナリト云フ道理ハ天下ニ行ハレサル道理ナリト思料ス如何トナレハ慈惠的施與ハ人ノ仁心ヨリ發生スルモノナリ而シテ公共的義捐ハ人ノ義心ヨリ發生スルモノナリ仁心ヨリ發生スルモノハ施與テアルカ義心ヨリ發生スルモノハ施與ニアラスト云フハ道理上アルヘカラサルコトナリ云々然ラハ被告ハ多クノ世人ヨリ義心ノ棄捐ヲ受ケタルモノナリ即チ仁心ヨリ得タル慈惠的施與ト文字ハ異ナルモ其意ハ同一ナリ又公共的の事業ヲ發成シタル故一私人ト異ナルトアレトモ公共的ト解釋シタルハ只文字上ノ形容タルニ過キス云々即チ某人發起シテ演說會ヲ開キ又ハ演劇ヲ爲スニ當リ之チ發成シテ金圓ヲ義捐シタルト同一ナリ此會ヤ某一人發起者ニテ其主能者タレハ此金ヲ使用シタルハトテ發起者カ委託金ヲ消費シタリト云フヲ得サルナリ云々右等ノ理由ヨリ觀來レハ決シテ建設會

義捐金ノ費消

ニ委託シタルモノニ非スシテ義捐シタルモノナリ然ルニ控訴院カ慈善的施與テナク義捐金テ
 アルカラ委託金費消ナリト判決シタルハ不當ナリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ(前畧)紀念
 碑建設會ナルモノヲ設立シ云々廣ク同志ノ賛成者ヲ求メ金員ヲ募集シ元來此金圓タル普通ハ
 一私人ニ對スル慈善的施與又ハ棄捨セシモノト異ナリ會員ニ於テ公共ノ事業ヲ賛成シ義捐シ
 以テ建設費ニ充ンカ爲メ建碑會ニ委託セシモノナリト判示シアリ此文旨ニ依レハ會員ニ在テ
 ハ公共ノ事業タル紀念碑建設ハ費用ニ充ンカ爲メ各自出金ヲ爲シ之ヲ建碑會ニ委託セシモノ
 ナルコト判明ナリ而シテ被告カ該金員ヲ私擅ニ費消シタルハ事實ヲ認メアレハ原院カ被告ニ
 委託金費消ハ罪アリト斷定シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ如キ不法アルコトナシ同第六點又
 明治二十七年三月中ヨリ同年八月三十一日マテノ間ニ於テ該金額ノ内九百八十三圓十一錢七
 厘ヲ私擅ニ費消シタリトアレトモ右ハ調査ノ組織ナルカ解スル能ハス前ニハ明治二十八年七
 月迄ニトアリ茲ニハ明治二十七年三月中ヨリ同年八月三十一日迄トアリ若シ後段ノ如ク明治
 二十七年八月三十一日マテノ事トスレハ合金九百八十三圓十一錢七厘トナルヘキ謂レナシ此
 レ蓋シ理由ノ組織シタルモノト推考スト云フニアレトモ○原判決ヲ查スレニ(前畧)同二十八年
 七月マテニ會員トナリタル者ヨリ義捐セシ金額ハ云々ナリ然ルニ被告ハ明治二十七年三月中
 ヨリ同年八月三十一日迄ノ間ニ於テ該金額ノ内ヨリ金若干ヲ費消シタリトアリ此文旨ニ依レ
 ハ前者ハ二十八年七月マテニ會員トナリタル者ヨリ義捐セシ金額ヲ判示シ其後者ハ其募集
 セシ金額中ヨリ被告カ私擅ニ費消セシ金數ヲ掲ケタルモノナレハ二者年月日ニ差アルモ理由

ニ組織アルニアラス因テ上告其理由ナシ同第七點ハ櫻々陳辯シアルモ要スルニ金員ノ出納ヲ
 列記シ被告カ私擅ニ費消シタルモノニアラスト分疏スルニ外ナラザレハ該論旨ハ原院ノ職權
 ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ高橋辯護士上告擴張要
 旨ノ第一點原院ノ認メタル事實ノ前段ハ(原判決ヲ掲ケアルモ畧ス)原院ノ認メタル紀念碑建設
 會ナルモノハ如何ナルモノナルカ被告カ未ダ曾テ企タル事ナキモノナリ一件記録中更ニ其事
 實ノ徵スヘキモノナシ之レ原院カ不當ニ事實ヲ捏造シタル不法ノ判決ナリ而シテ其紀念碑建
 設會ナルモノハ如何ナル組織ニシテ創立者ト會員ト第三者トハ如何ナル關係ヲ有スルカ更ニ
 其理由ノ見ルヘキモノナシ之レ理由不備ノ判決ナリ原院ノ認メタル事實ニ依ルモ被告德雲ハ
 云々紀念碑建設ノ事ヲ發起シ云々建碑會ナルモノヲ創立シ被告ハ自ラ事務總長ト稱シ云々廣
 ク同志ノ賛成ヲ求メ云々トアリテ本案建碑事業ハ假令如何ナル名稱ヲ以テスルモ被告德雲一
 己ノ事業ナルコトハ己ニ業ニ明瞭ナリ斯ク一己ノ事業トセハ被告德雲ハ原院ノ會員ト稱スル
 義捐者ニ對シ何等ノ責任ナキコト明カナリ從テ法律上罪トナルヘキモノニアラス然ルチ委託
 金費消罪ニ間擬セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリ前段所論ノ如ク一己人ノ事業ト認メタルニ拘ラ
 ス元來此金圓ハ云々會員ニ於テ公共ノ事業ヲ賛成シ義捐シ云々建碑會ニ委託セシモノト認定
 シタルハ前後矛盾理由組織ノ判決ナリト云フニアレトモ○該論旨ハ被告カ上告擴張書第二點
 及ヒ同第五點ノ論旨ヲ詳説敷衍スルニ過キサルヲ以テ該論旨ニ對スル說明ニ依リ了解スヘク
 尙ホ右論旨中紀念碑建設會ナルモノハ如何ナル組織ニシテ創立者ト會員ト第三者トノ關係如

義捐金ノ費消

何ヲ判示セサルハ理由ノ不備ナリトノ論點アルモ己ニ委託金ナリトノ事實ヲ認メタル上ハ會員ト第三者トノ關係如何ノ如キハ之ヲ判文ニ明示スルヲ要セス同第二點原院ノ認メタル事實ノ後段ハ然ルニ被告ハ明治二十七年三月中ヨリ同年八月三十一日マテノ間ニ於テ該金額ノ内九百八十三圓十一錢七厘ヲ私擅ニ没消シタルモノナリト是亦不當ニ事實ヲ捏造セシ不法ノ判決ナリ現ニ被告カ支出シタル金員ハ建碑事業ノ必要費ニシテ私擅ニ消費シタルニアラサルコトハ一件記録中ニ明カナリ殊ニ該金額ノ如キモ収支ノ精算ヲ遂ケタルニアラス概算上推定シタルモノニシテ此點ニ於テハ審理不盡ノ不法アル判決ナリト云フニアルモ○本論旨ハ要スルニ事實認定ノ批難ニ外ナラサレハ是亦上告適法ノ理由ナシ板倉辯護士上告擴張ノ第三點原院判決ニハ建碑ヲ賛成セシ者ハ公共ノ事業ヲ賛成シテ義捐セシ旨ヲ認定シナカラ續テ又建碑會ニ委託セシ者ナリト云ヘリ抑モ義捐ナルモノハ其義捐者カ拋棄シテ其出納ヲ將來ニ問ハサルモノナリ委託金ハ之ニ異ナリ依然其所有權ハ委託者ニ存スルモノナリ然ルチ原院ニ於テ之ヲ同視セシハ理由ノ顯赫アルハ勿論之ヲ以テ委託金没消ノ法律ヲ適用セシハ疑律ノ錯誤タルチ免レスト云フニアレトモ○原院判決ハ被告カ上告擴張第五點ノ論旨ニ對シ説示セシ如ク會員ハ公共ノ事業タル紀念碑建設ノ費途ニ充シカ爲メ各自ニ出金シテ建碑會ニ委託シタルモノナリトノ事實ヲ認定シアル上ハ原院カ之ニ委託金没消ノ法條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ノ如ク理由ノ顯赫且疑律ニ錯誤アルコトナシ

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十九年四月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十九年第三一八號
明治二十九年四月九日宣告

○判決要旨

公權剝奪者ヲ證人トシテ訊問シタル豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル判決ハ不法ナリ

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實ニ考ノ爲メ其供述ヲ聽クヲ得(刑事訴訟法第二百四條一項)

公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラタル者(同條四號)

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 丸山喜藏 辯護人 田澤鎮太郎
佐藤又右衛門 坂本省三

右喜藏カ私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年三月十日東京控訴院ニ於テ原告判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮一年罰金十圓監視六月ニ處シ私訴ニ付テハ被告ハ原告ニ對シ金三十五圓ヲ賠償ス可ク原告カ被告ニ對スル地所賣買登記取消ノ請求ハ之ヲ棄却ス

公權剝奪ノ證人

公權剝奪ノ證人

十八

ト官渡シタル判決ニ對シ被告并ニ民事原告人ヨリ上告ヲ爲シ被告ノ私訴上告ニ對シ民事原告人ヨリ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事岩田武儀辯護士田澤鑛太郎小島相陽坂本省三ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

田澤辯護士ノ擴張要旨第二ハ原院カ明治二十年六月二十日輕懲役七年ニ處セラレ被剝奪公權者タル關口金右衛門ヲ證人トシテ訊問セシ豫審調書ヲ斷罪ノ證據ニ採用セシハ不法ナリト云フニ在リ○依テ本件記録ヲ查閱スルニ長野重罪裁判所既決犯罪表ハ附本ニ依レハ關口金右衛門ハ輕懲役七年ニ處セラレタル者ニシテ其附加刑トシテ裁判所ニ於テ證人ト爲ルハ權ヲ剝奪セラレタルモハナルコト勿論ナリ然ルニ豫審ニ於テ同人ヲ證人トシテ訊問シ原院ニ於テモ其調書ヲ證人ハ豫審調書トシテ本件斷罪ノ證據トシタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アリトス既ニ此點ヲ以テ破毀ノ理由アリトスル上ハ他ノ論旨ニ對シテ説明スルノ必要ナシ

私訴原判決ハ賠償ノ點ハ勿論登記取消ノ點モ公訴判決ノ事實ニ基キ與ヘタルモノナレハ公訴判決ノ全部破毀セラレ上ハ私訴判決モ亦々破毀ヲ免カレサルモノトス依テ被告及民事原告人ノ上告ハ結局理由アルモノニ歸ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院ニ移シ審判セシム

明治二十九年四月九日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○幼者誘拐ノ件

明治二十九年第三三〇號
明治二十九年四月九日宣告

○判決要旨

幼者誘拐罪ハ親告罪ナリ從テ第二審判決ノ確定以前被害者ヨリ告訴取下願ヲ提出スルトキハ其公訴權ハ當然消滅ニ歸ス而シテ此場合ニ於テハ控訴セサル共犯者ニ對スル第一審判決モ亦共ニ破毀セラレヘキモノトス

(參照) 十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三三條)

前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタルトキハ告訴ノ効ナシ(刑法第三百)

公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス(刑事訴訟法第六條一項)

告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ地(同第二條)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 平田真平

告訴取下願ノ提出

告訴取下願提出

明治二十九年二月二十六日東京控訴院ニ於テ右其平ニ對スル幼者誘拐被告事件ノ控訴ヲ管理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スルコト左ノ如シ

本件ハ山崎祐藏ハ告訴ニ因テ成立シタルモハナルニ第一審判決ハ確定セサル以前明治二十九年四月六日右祐藏ヨリ告訴取下書ヲ提出シタルヲ以テ刑事訴訟法第六條第二號ハ規定ニ基キ告訴權ハ消滅ニ歸スルモノニ付免訴ヲ言渡スヘキモハトス

第一審相被告岡川カ子ハ上告ヲ爲サイルモ以上ハ如ク其平ニ對シ免訴ヲ言渡スヘキモハト認ムル上ハカ子ニ對スル第一審判決モ共ニ破毀シ免訴ハ言渡ヲ爲スヘキモハトス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ被告平田其平ニ對シ免訴ヲ言渡ス

同法第二百八十六條第二項ニ從ヒ岡川カ子ニ對スル第一審判決ヲ破毀シ更ニ免訴ヲ言渡ス

明治二十九年四月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使等ノ件

明治二十九年四月十日宣告

○判決要旨

私印盜用罪ハ之ヲ行用スルニ依リテ成立ス

私書偽造行使罪ハ偽造ノ證書自體ヲ行使スルニ依リテ成立ス是故ニ謄本ヲ載

判所ニ提出スルモ罪トナラス

第一審 名古屋地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人

加藤 又助
山田 松太郎
藤島 之助
野田 光五郎

辯護人 高木益太郎

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財及詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十九年二月二十四日名古屋控訴院ニ於テ名古屋地方裁判所ノ判決ニ對スル被告松太郎之助藤五郎光之輔ノ控訴及ヒ檢察ノ控訴并ニ同院檢察ノ附帶控訴ヲ審理ノ末原判決中控訴ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス被告次郎榮又助ヲ各私書偽造行使六罪私印盜用一罪アリトシ重キ金千二百五十圓ノ借用證書ニ關スル私書偽造行使ニ從ヒ又助ヲ重禁錮二年附加罰金二十圓監視一年ニ處シ庄次郎榮ハ前發ノ罪ト輕重相等シキヲ以テ之ヲ論セス被告松太郎之助藤五郎ヲ各詐欺取財私印偽造使用各一罪私書偽造行使二罪アリトシ重キ私印偽造使用罪ニ從ヒ松太郎藤五郎ヲ各重禁錮二年附加

私印盜用罪ノ成立○謄本ノ行使

罰金二十圓監視一年ニ録之助ヲ重禁錮六月附加罰金五圓監視六月ニ處ス被告光之輔ニ詐欺取財ノ罪アリトシ重禁錮一年三月附加罰金十五圓監視八月ニ處ス偽造ニ係ル借用證書地所建物壺帳照合願委任狀各二通ハ沒收ス犯罪ニ依テ得タル金二百圓ノ預リ證書ハ被害者河原彦兵衛ニ還付ス其他ノ押收品ハ總テ其差出人ニ還付ス公訴裁判費用金一圓ハ被告庄次郎又助榮三名ニ於テ連帶負擔スヘシト言渡タシル判決ニ服セスシテ被告又助榮松太郎之助藤五郎光之輔ノ六名ヨリ各上告ヲ爲シ又本院檢察事安居修藏ハ附帶上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スルニ

被告又助辯護人高木益太郎カ上告辯明ノ要旨ハ原判決ハ被告ニ私書偽造行使私印盗用ノ罪アリト斷定セラレタレトモ被告カ河原彦兵衛ノ實印ヲ盜捺シテ偽造ヲ完成シタル證書ハ未タ其原本ヲ行使シタル事ナク只被告自ラ證書ノ寫ヲ作リ之ヲ民事裁判所ニ提出シタルニ過キサレトトハ原判決事實ノ理由ニ於テ明確ナリ然ラハ被告ノ所爲ハ法律上罪トナラサルニモ不拘原院カ刑法第二百八條第二百十條第二百十二條ニ依リ之ヲ處斷シタルハ不法ナルニ付原裁判破毀ノ上無罪ノ判決アラント云フト云フニ在リテ○本人又助上告趣意書ハ第三點被告榮ハ上告趣意書第三點ハ趣旨モ右辯護人ノ所論ト同一ニ歸ス此論旨ニ因リ原判決查スルニ其事實理由ハ前段ニ於テ被告等カ河原彦兵衛ヨリ金員ヲ騙取セン下チ企圖シ相謀リテ同人名義以テ地所建物書入借用證書委任狀地所建物壺帳照合願書各二通ヲ作爲シ之ニ彦兵衛ハ實印ヲ盜捺シタル事實ヲ叙シ而シテ其後段ニ然ルニ彦兵衛ハ其所有ノ地所建物等ヲ悉ク買母小塚フサニ

通シテ之カ登記ヲ爲シタルハ以テ被告又助ハ其登記ヲ取消サシメテ前段偽造ノ書入證書ニ兵衛フサニ係リ明治二十六年三月二十七日不法登記取消及登記請求ハ訴ヲ名古屋地方裁判所ニ提起シ其訴狀ヲ相手方ニ送達シタル處相手方ヨリ之カ告訴ヲ爲シタルハ以テ該訴訟ハ口頭辯論開始前ニ其進行ヲ中止セリトアリテ其疑律ニ至リ右ノ所爲ニ對シ刑法第二百八條第二項第二百十條第一項第二項第二百十二條ヲ適用シテ然レトモ刑法第二百八條ハ印影盜用罪ハ他人ノ印影ヲ盜捺シ之ヲ用ニ供スルニ於テ始メテ成立スルモノ又同第二百十條ハ私書偽造行使罪ハ偽造ノ私書其物ヲ行使スルニ依リ構成スルモノナリ原判決ニ認ムル事實ハ如クナレハ被告又助榮及ヒ庄次郎ハ三名ハ私書ヲ偽造シ之ニ彦兵衛ハ印影ヲ盜捺シタルモ只其寫ヲ訴訟準備書面ニ載セテ呈示シタルニ止マリ偽造ノ私書其物ヲ行使シタルニ非ス隨テ盜捺ハ印影ヲ供用セシニ非ルヤ勿論ナレハ被告等ノ所爲ハ法律上罪トナラズ刑事訴訟法第二百二十四條ニ從ヒ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ原院カ之ヲ理由アリトシ被告等ノ所爲ニ對シ前記ノ法律ヲ適用シ有罪ヲ言渡シタルハ上告論旨ハ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノナリ既ニ此點ニ於テ破毀スヘキモノナル以上ハ被告兩名カ他ノ論點ニ對シ説明スルハ要ナシ被告松太郎之助辯護人高木益太郎カ辯明書ノ要旨原判決ハ理由ニ顯斷アル不法ノ裁判ナリ何トナレハ原判決ノ前段ニハ詐欺取財未遂私印偽造行使各一罪私書偽造行使二罪アリトシ云々トアルニ其後段法律適用ノ部ニハ詐欺取財ニ因テ私書ヲ偽造シタルニ付同第三百九十條第

二項云々トアリテ一方ニ於テハ實質上ノ一罪ト認メナカラ他方ニ於テハ單純ナル私書偽造行使二罪詐欺取財一罪アリト斷定シタルハナリト云ヒ本院檢事ハ右辯護人ノ論旨ヲ以テ被告藤五郎ノ爲メ附帶上告ヲ爲ス旨申立テタリ○依テ被告三名ニ關スル原判文ヲ査閱スルニ法律適用ノ部ニ被告藤五郎松太郎之助カ第二ノ實印偽造使用ノ所爲ハ刑法第二百八條第一項云々委任狀偽造行使ノ所爲ハ云々寄留證明願書偽造行使ノ所爲ハ云々詐欺取財ノ所爲ハ云々未遂犯ナルニ付云々詐欺取財ニ因テ私書ヲ偽造シタルモノナルニ付同第三百九十條第二項猶私印偽造使用罪ト俱發シタルニ付同第一百條ニ依リ一ノ重キ私印偽造使用罪ニ從ヒ云々トアリテ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シアルニ依レハ詐欺取財ノ所爲ト因テ私書ヲ偽造シタル所爲トヲ對比シ其重トスル所ヲ擇ヒ實體上ノ一罪ト爲シタルモノト如シ然ルニ判決主文ノ前段ニ於テ被告松太郎之助藤五郎各詐欺取財未遂私印偽造使用各一罪私書偽造行使二罪アリトシ重キ私印偽造使用罪ニ從ヒ云々ト說明シテ詐欺取財ト因テ私書ヲ偽造シタル罪ト互ニ獨立別個ノ罪ヲ爲スモノト判定シタルハ上告論旨ノ如ク理由ノ組織アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ理由アリトス此點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルニ付被告三名カ他ノ上告論點ニ對シテハ說明ヲ要セス

被告光之輔カ上告ノ要旨第一ハ原判決ハ訴訟記録其他別ニ據ルヘキ所ナキニ被告ニ證據騙取ノ事實アリトセラレシハ推定ノ甚タシキ者ナリト云フニ在レトモ○原院ハ其判文ニ明示シタル數多ノ證據ニ依リ事實ヲ認メタルニ在レハ決シテ據ル所ナクシテ事實ヲ判定シタルニ非ス

要スルニ原院ノ職權ニ在スル事實ノ認定證據ノ採擇ニ對シ苦情ヲ鳴ラスニ過キスシテ適法上告ノ理由ナシ

同第二ハ原院ハ證據騙取ノ事實アリトシ刑法第三百九十條ヲ適用シタルモ欺罔ト騙取ノ事實ハ之ヲ見ル所ナク且ツ證據ノ名稱ヲ付スルモ未タ債務面其者ノ有ニ歸シ使用前ニシテ一片ノ反古ナレハ之ヲ證據ト云フヲ得ストアリテ○其前段ハ事實認定ニ對スル批難ナレハ固ヨリ上告ノ理由ナク其後段ハ意義不明ニシテ說明ヲ與フルニ由ナシ

同第三ハ刑法第三百九十條ハ他人ノ財産ニ係ル事及ヒ詐欺ト取財ノ三條件アリテ罪ヲ構成スルノ律意ナラン然ラハ上告人カ假例ヘ彦兵衛ノ債務ニ係ル如キ記載アルモノヲ騙取シタリトテ之ヲ同人ノ財産ナリト云フヲ得ス又取財ト云フヲ得可ラサルニ原判決茲ニ出テサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條ハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物又ハ證據類ヲ騙取シタル者ヲ詐欺取財ノ罪トナシ之ヲ罰スルノ法條ナレハ被告カ彦兵衛ノ債務證書ヲ同人ヨリ騙取シタル所爲ニ對シ原院カ同法條ヲ適用シテ處分シタルハ相當ノ判決ニシテ本論旨モ亦理由ナシ

同第四ハ原院カ被告ニ充分辯論ヲ盡サシメサリシハ審理不盡ニシテ事實推定ノ原因ナリト云フニアレヒ○原院公判始末書ニ依ルニ被告ニ於テ辯論ヲ爲シタル後裁判長ハ尙被告ニ申立ノ有無ヲ問ヒ被告ハ之ナキ旨答ヘタリトアリテ被告ヲシテ其言ヲ盡サシメタル事明カナレハ本論ハ最も其謂レナシ

同第五ハ原判文ニ豫審被告ハ十一名ナリシニ證人河原彦兵衛ノ宣誓書ハ宇佐美庄次郎外九名被告事件ニ付云々トアルヲ以テ同人豫審調書ハ不法ノモノナルニ原裁判所ニ於テ之ヲ斷罪ノ證ト爲シタル事ハ失當ニシテ云々ト明示セラレタレモ遠藤藤五郎ニ對シ檢事ノ豫審請求ナカリシヲ以テ豫審判事ハ藤五郎ヲ除キ宇佐美庄次郎外九名被告事件ト爲シタルモノニシテ原院コソ反テ事實ノ判斷ヲ誤リタルモノナリ假リニ被告人員ニ差異アリトスルモ式ニ從ヒ宣誓シタルニ在レハ之ヲ不法ト云フ可ラス然ルニ原院カ之ヲ不法トセシハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇當該豫審判事カ檢事ノ請求ナキニ拘ハラズ遠藤藤五郎ヲ本訴共犯ノ一人トシテ豫審ニ着手シ證人訊問ノ當時被告人員ノ十一名ナリシ事ハ一件記録ニ徴シテ明瞭ナリ而テ共同被告人數名アル協合證人カ其被告ノ一人ト刑事訴訟法第二百二十三條ニ規定シアル關係ヲ有セシニハ其事件上證人タルコトヲ得サルカ故ニ原院カ共同被告中一名ノ關係ヲ取調ヘスシテ陳述セシメタル證人河原彦兵衛ノ豫審調書ヲ不法ナリトシ排斥セシハ相當ニシテ決シテ不法ニアラス本論旨モ上告ノ理由ナシ

同第六ハ原院ハ金二百圓ノ預リ證書ハ彦兵衛ノ宿所ニ於テ同人ノヲ認メ捺印シタルモノト判定シタレトモ然ラスシテ相被告寺島錄之助カ同席ニ於テ認メタルモノナル事ハ同人ノ豫審調書及ヒ證書本紙ニ依リ明瞭ナリ然ルニ此關係アル錄之助カ判文ニ省キ替テ關係ナキ加藤榮近藤石松又ハ告訴人ノ親族錄次郎ヲ以テ證トセラレシハ要スルニ審理不盡ノ結果ヨリ來ル架空ノ判定ナリト云フニアリテ〇是亦事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由

右ノ理由ナルヲ以テ野田光之輔ノ上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十五條被告山川松太郎寺島錄之助ノ上告及ヒ被告遠藤藤五郎ノ爲メニスル本院檢事ノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

被告野田光之輔カ上告ハ之ヲ棄却ス被告山川松太郎寺島錄之助遠藤藤五郎ニ對スル原判決ハ之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ大阪控訴院ニ移送ス

被告熊次又助加藤榮ノ上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十七條又上告ヲ爲サ、ル被告宇佐美庄次郎ニ付テハ同法第二百八十九條第二項ニ依リ右三名ニ對スル原判決ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

熊澤 又助
加藤 榮
宇佐美 庄次郎

原判文ノ認ムル事實ニ依レハ被告事件罪トナラサルニ付刑事訴訟法第二百二十四條ニ從ヒ被告三名ハ無罪トス

押収ノ借用證書豫審第十六號證同第二十二號證地所建物壘帳照會願(同第十八號證同第二十號證)委任狀(同第二十四號證同第二十七號證)各二通ハ差出人ニ還付ス

明治二十九年四月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス